

ネットワーク情報学部

学修ガイドブック

2017

SCHOOL of NETWORK and INFORMATION

専修大学

ネットワーク情報学部 学修ガイドブック

平成29年度

2017

SCHOOL OF NETWORK AND INFORMATION

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性(Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力。

専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬 永胤、田尻 稻次郎、目賀田 種太郎、駒井 重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するための本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直し、「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

専修大学

学位授与の方針

急速に進歩する情報学、情報技術に関する知識を十分に使いこなして、様々な社会問題に対して解決方法を提案していくためには、確かな基礎と広い視野、そして自ら課題を発見していく力を身につける必要があります。具体的には、

(1) コミュニケーションスキル、(2) 数量的スキル、(3) 論理的思考力、
(4) 情報技術、(5) 問題解決力、(6) 生涯学習力

の6つの能力を、育てることを目標にします。この6つの能力が別々に身に付くだけでなく、社会で通用する総合的な能力となることが、本学科の目標です。

この目標を達成するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針

1年次で基本の学習からスタートし、自分の興味の方向を探りながら、卒業までに社会で通用する専門的知識や問題解決スキルを身に付けられるように教育課程を編成しています。また、産官学連携によって社会との接点を多くすることにより、自分に合ったキャリアを無理なく発見させるとともに、勉学に対するモチベーションを向上させています。

具体的には以下の通りです。

1年次には、「大学での学習方法を知る」、「情報学の基礎を学ぶ」、「ソフトウェアの基礎を学ぶ」ための講義科目と5つの演習科目(必修科目)を展開しています。この間に8つの目的別プログラムの中でどれを選択するかを検討します。

2年次以降は、8つの目的別プログラムを選択して、学生が自分の目的に適った学習ができるように科目を展開しています。

2年次前期の基礎演習でスキルを高め、2年次後期の応用演習ではスキルを総合的に利用する方法を学びます。その成果を3年次のプロジェクトにおいて自分たちで適用していきます。

3年次の必修科目である「プロジェクト」は、2年次までの学習成果と3年次の学習を基に、自主的にテーマ設定をして共同作業による問題解決に取り組みます。また、必修科目の「情報キャリアデザイン」は、就職活動前に自分の仕事について考える機会を提供します。さらに、「企業研修」では、社会の実際の仕事を体験することができます。

2年次から意識して取り組む目的別プログラムには以下の8つのものがあります。

1. コンテンツデザイン：情報技術と認知科学を駆使した、人に優しい情報のデザインを行うことができる人を育てます。
2. メディアプロデュース：デジタル・ネットワーク時代のメディアを、有効に利用した企画をプロデュースできる人を育てます。
3. ネットワークシステム：企業サイドと利用者の2つの視点から、便利で安全な情報システムを提案・開発できる技術者を育てます。
4. フィジカルコンピューティング：ユビキタス社会に向けて役立つ、新しい情報技術を創造しながら問題を解決できる情報技術者を育てます。
5. 経営情報分析：戦略的意思決定に必要なデータ分析ができる人を育てます。
6. ITビジネス：情報技術を活用して、革新的なビジネスモデルを提案できる人を育てます。
7. 社会情報：情報技術によるコミュニケーションを活用して、社会の様々な問題の解決に向けて企画立案することができる人を育てます。
8. 情報数理：情報技術を数理的に理解する基礎的能力を持つ人を育てます。

4年次の卒業演習では、プログラムとして選択した学習結果を最終的な成果物に仕上げます。このようにして、情報学の学びを自らの力で実践できるまで能力を高めます。

ネットワーク情報学部 学修ガイドブック

2017

Contents [目次]

先輩からのメッセージ	01
先輩からのメッセージ(続き)	63

大学での学びを理解する

大学の授業とは	03
授業の点数はこうつく	05
4年間の学びのステップ	07
自分の時間割表を作る	09
授業時間外の学修	11

全学共通の学びについて知る

開設される科目の構成と学士課程	13
転換・導入教育課程	14
人文科学基礎関連科目	15
社会科学基礎関連科目	16
自然科学系科目	17
融合領域科目	18
外国語系科目(英語)	19
外国語系科目(英語以外の外国語)	21
保健体育系科目	22

学部専門の学びについて知る

専門科目の4年間での学び	23
情報学の基礎を作る1年次	25
基礎演習、応用演習(2年次選択必修演習科目)	27
プロジェクト(3年次必修科目)	29
専門科目(選択科目)	31
目的指向のプログラム制	33
コンテンツデザインプログラム	35
メディアプロデュースプログラム	37
ネットワークシステムプログラム	39
フィジカルコンピューティングプログラム	41
経営情報分析プログラム	43
ITビジネスプログラム	45
社会情報プログラム	47
情報数理プログラム	49
情報英語副プログラム	51
数学科目の履修の勧め	52
経営科目の履修の勧め	53
コミュニケーションの基礎力をつける	54
キャリア教育について	55

その他の学びについて知る

学部間相互履修制度	56
自由選択修得要件単位	57
教職・司書・司書教諭・学芸員課程	58
コンピュータ・ネットワーク設備の利用について	59
グループワークや作業のための部屋の利用について	61

資料	64
----	----

大学の授業とは

大学では、様々な学問分野の授業が、色々な大きさの教室で行われています。高等学校までの授業の様子とはだいぶ違うと感じられるでしょう。ここでは、どのように授業が進められているのか、例をあげて紹介しましょう。

大きな教室での授業

300人教室

全学部生が履修できる科目は大きな教室で行われることがあります。高校までと違って学部や学年の異なる学生と一緒に受講することもあります。教員はその科目を深く研究していますが、教え方は様々です。講義の構成を考えながらノートを取ったり、板書されていない話でもポイントをつかんでメモしたり、紹介された本や不明な用語を後で調べたり、自分から学ぶ姿勢が大切です(ノートだけ他人から借りても1/10も理解できま

せん)。板書だけ写してもノートとは言えないのです。高校までと違って色々な考え方の紹介がありますから、理解するには話の構成や論点のレベルを見極めることも大切です。どの科目も、あなたにとってその学問に接する最初で最後の機会かも知れません。黒板が見やすい前の方に座って積極的に授業に参加しましょう。毎回何かしら未知の発見ができるでしょう。

小さな教室で行われる数理系の授業

100人教室

線形代数や基礎解析などの数理系の授業は、基本的には高校の数学の授業と同じように進められます。授業では先生が、大切な用語の定義やその使い方などを、黒板に書きながら説明します。それを聞き逃し写し忘れると、その先を理解するのが難しくなるので、授業中はしっかりと集中することが大切です。さらに毎回出される課題を十分時間をかけて自分の力で解くことを心が

けましょう。わからないところはそのままにせず、先生に質問したり友達と相談することが必要ですが、友達の答えを鵜呑みにするようなことは避けましょう。自分で理解していないと授業内テストなどで良い点が取れず、翌年も履修することになってしまいます。数理系の勉強は山登りのように、一歩一歩確実に進むことを習慣にしましょう。

演習教室で行われるリテラシー演習

30人教室

リテラシー演習はゼミ室を使って行われます。机は可動式で、通常は四辺形に囲む形で、全員が対面して座ります。お互いの顔が見え、お互いの声が聞こえます。講義形式の授業のように、先生が一方的に話すのではなく、先生と学生、学生同士がお互いに協力しあって授業を進めます。時には、数名ずつに分かれて話し合いや作業をしたり、

時には、ひとりが発表して皆がそれに対して質疑応答する、という場合もあります。先生も学生のよいところや悪いところがよく見えますし、学生同士も見習うべきところや注意するべきところがよくわかります。授業に積極的に参加し、先生と一緒に全員で授業を作っていく、という姿勢が大事になります。

パソコン端末室で行われる演習授業

ネットワーク情報学部の授業は、パソコンを目の前にして行われると想像するかもしれませんが、そのような授業は週に1, 2回の演習科目(1年次は、情報表現演習、情報分析演習、プログラミング演習1, 2)だけです。最初のうちは、先生が一つひとつの操作を示してくれるので、パソコン初心者の新生入生でも安心です。回が進んで慣れてくると、

最初に何をやるのか説明があるだけで、実際の操作は自分で考えて行わなければならない。一度習ったソフトウェアの操作は、自分で授業時間外にも積極的に使って慣れるようにしましょう。不安なときには、慣れている友人や先輩のアシスタント学生が操作を助けてくれるのでヘルプを求めましょう。

シラバス 講義要項 の読み方

履修する講義のシラバス(講義要項)は、最初の授業の前に必ず読むようにしましょう。シラバスは、Webで見ることができます。専修大学のページから、「在学生の皆様へ」を選ぶと、シラバスへのリンクがあります。

専修大学 Web 講義要項(シラバス)

講義要項詳細

科目名	情報分析基礎
職名/担当教員	ネットワーク情報学部 教授 ○○○○
曜日/時限	水曜日 3時限
期間	後期
開講区分/校舎	一部生田/生田
科目区分	専門科目
配当	N1
単位	2単位

記号は履修できる学科を意味しています。Nがあるとネットワーク情報学部の学生が履修できます。数字はどの学年が履修できるか示しています。

<到達目標>には何ができるようになるのか、<講義概要>には講義の狙い、扱う内容などが示されます。

各回の講義で扱う内容が示されます。

必要な予習・復習について内容が示されます。

教科書や参考書が示されます。購入方法については、通常、最初の授業のときに先生から指示があります。

(1) 成績評価をどのような項目で行うか、
(2) 成績の配分および単位修得のための基準が示されます。5ページに詳しい事例を示しています。

授業時間外に質問があるときに、どのように先生とコンタクトをしたら良いのかは、通常、最初の授業のときに先生から指示があります。

講義内容

<到達目標>
 ・基礎的な統計学で使われる概念の意図と意義が理解できる。
 ・簡単な確率・統計的計算ができる。
 ・日常生活の中で統計学の知識を活用できる。

<講義概要>
 自然科学・社会科学・人文科学といった分野にかかわらず、統計学の基礎的な知識は、現在の大学生の素養の1つとして必要とされています。本講義では、情報の収集・整理・分析・蓄積・伝達といった情報処理過程の中の整理・分析部分を基礎的な統計学を使って行います。

<講義計画>
 (1) イントロダクション — 統計的調査と情報分析
 (2) データの特徴 — データのタイプ・偏りと精度
 (3) データの整理(1変量) — 度数分布表・ヒストグラムなど
 (4) 高校数学の復習1 — 関数・数列など
 (5) 要約統計量1 — 分布の形状と位置に関する代表値
 (6) 要約統計量2 — ばらつきに関する代表値・標準化など
 (7) データの整理(2変量) — 分割表・散布図など
 (8) 要約統計量3 — 共分散・相関係数・疑似相関など
 (9) 関係の解析 — 最小2乗法と回帰直線の基礎
 (10) 高校数学の復習2 — 組み合わせ・確率など
 (11) 確率変数と期待値
 (12) 離散型分布 — 2項分布・ポアソン分布など
 (13) 連続型分布1 — 正規分布・指数分布など
 (14) 連続型分布2 — 正規分布の応用
 (15) まとめとその他の話題 — 乱数・推測統計学の概要など
 (授業の内容とその進行順序は、事情により変更する場合があります。)

<予習・復習>
 <教科書・参考書>
 テキスト: 木下宗七, 「入門統計学 新版」, 有斐閣。
 参考書・参考資料等: 関連科目のテキストなど(授業で適宜示します)。

成績評価方法・基準
 方法: 平常点で評価する(授業内課題50%+レポート50%)。
 基準: 概念の理解度と計算の正確性の程度による。

履修上の留意点
 ・履修に際しての留意事項…テキストでの予習とテキスト、プリントでの復習を薦めます。
 ・他の授業科目との関連…数理的な側面については「数理リテラシー」、情報処理的な側面については「情報分析演習」や「データ分析基礎演習」が関連の深い科目です。本科目は、2年次の「データ解析1・2」の基礎となる科目です。

担当教員へのアクセス
 研究室: ○号館○階 ○○○○/メールアドレス: ○○○○@isc.senshu-u.ac.jp

■ 授業の点数はこうつく

授業の評価について

皆さんが履修した授業では、担当の先生が、皆さんの成績を100点満点で以下の表のように評価します。60点以上の点数の場合に、その科目の単位を修得することができます。皆さんが卒業するためには、単位を修得していかなければなりませんから、60点以上の点数を最低限目指さなければなりません。より高い成績を得ることを目標にすべきでしょう。様々な奨学金や大学院の推薦を希望する場合にはより高い成績が必要となりますし、就職活動でも成績表の提出を求められることがあります。前期科目の成績は9月にWeb履修システム上に公開します。後期科目及び通年科目の成績は3月に本人宛に郵送されます。

履修登録をしたものの、継続する意思がない授業科目に対しては、履修中止申請期間中に履修中止を申請することができます。これにより、GPAが下がらないようにすることができます。

点数	評価	GP*
100~90	S	4.0
89~85	A+	3.5
84~80	A	3.0
79~75	B+	2.5
74~70	B	2.0
69~65	C+	1.5
64~60	C	1.0
59~ 0	F	0.0

*GP=グレードポイント

GPAについて

GPA (Grade Point Average) とは、それまでに履修した科目の成績評価のグレードポイントについて、1単位あたりの平均値を算出したものです。GPA制度は、国内外の大

学で一般的な成績評価方法として使用されています。

GPAの算出方法は次のようになります。

$$GPA = \frac{(\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目単位数の総和}}$$

専修大学の場合、GPを8段階に区分しているため、分子の(履修科目のGP×当該科目の単位数)の総和は、次のようになります。(Sの修得単位数×4.0)+(A+の修得単位数×3.5)+(Aの修得単位数×3.0)+(B+の修得単位数×2.5)+(Bの修得単位数×2.0)+(C+の修得単位数×1.5)+(Cの修得単位数×1.0)+(Fの修得単位数×0.0)

算出方法からわかるように、全科目Sなら4.0、全科目Fなら0.0となりますので、実際の値は4から0の範囲になります。平均し

てB以上の成績をとっている人は、GPAが2.0以上、単位はとれていてもCが多い人は1点台になります。

このことから、GPAは、どれだけ単位がとれたか、ではなく、どれだけよい成績をおさめたか、がわかる指標になっています。学修の量よりも質がわかるもの、と言えるでしょう。

学生の中には、卒業単位数さえとれば卒業できる、という考えで、ぎりぎりの成績で単位をとる人がいますが、それでは学びの質が最低レベルとなり、評価は低くなります。

授業での評価の仕組み

皆さんの成績をどのような方法で評価するのは、担当の先生が、授業内容の性格によって決めています。シラバスには、評価方法と基準が示されます。その補足は、第1回目の授業でなされるのが普通です。シラバスを読み、第1回目の授業に出て評価方法と

基準を知るようにしましょう。もし分からないことがある場合には、先生に直接たずねてみてください。ここでは、代表的な評価方法を述べていきます。通常は、これらの評価方法を組み合わせて成績をつけていきます。

試験期間に行われる定期試験・定期試験規程準用試験

定期試験・定期試験規程準用試験とは、学事暦で定めた定期試験期間に行われる筆記試験です。前期試験、後期試験と表記されます。1回しか受験できない試験ですので、きちんと準備して受験するようにしましょう。「専修大学定期試験規程」(65ページ)というルールにしたがって厳密に実施されます。この規程では、様々な不正行為が定められて

おり、もし不正行為をした場合には厳正な処分があります。また、欠席して追試験を受けられる場合には、規程に定められた理由と証明書が必要となります。単なる寝坊では追試験を受験できないので注意しましょう。これらの諸注意は、定期試験のスケジュールが発表されるときに、改めてありますのできちんと確認しましょう。

授業時間内に行われるテスト

定期試験以外の授業時間に行われるテストです。定期試験とは、大学のルール上区別されますが、皆さんにとっては同じ種類の試験だと考えて、真剣に取り組む必要があります。

担当の先生から事前の授業で、テスト受験上のルールが説明されますが、特に説明がない場合には、「定期試験規程」と同様のルールで行われると考えてください。

授業時間内の発言や提出物

先生が皆さんに授業中に求めた発言や提出物を評価対象とすることがあります。シラバスには「平常点」として記載されます。俗に「出席点」と言われることもありますが、ただ

出席をしていることに点数をつけることはありません。皆さんが授業に積極的に参加する姿勢を示すことが必要で、それが発言であったり、何かを書いて提出することになります。

授業時間外に作成するレポート

時間をかけて皆さんに考えてきて欲しい場合、あるいは図書館やインターネット、コンピュータなどを活用して皆さんの見解をまとめて欲しい場合に、先生が皆さんにレポートの提出を求めます。指定された授業時間に先生に提出したり、あるいは指定日時まで

にオンラインで提出する必要があります。ネットワーク情報学部専門科目の多くでは、複数のレポートを求められます。多くの時間が必要になることを考慮に入れながら、学生生活を計画立てていく必要があります。

授業時間外に成果物を作り発表

ネットワーク情報学部では、授業時間外に作成したものを、先生や他の学生の前で発表することが多くあります。このような課題では、複数の学生によるグループワークを行う場合も多く、グループ内でのスケジュール管理などの協調体制がうまくできたか、ある

いは先生や他の学生からの意見をうまく取り入れて改善できたかどうか評価の対象となることがあります。グループの他の学生と一緒に作業する時間が必要となりますので、そのような時間を取るように学生生活をスケジュールしていく必要があります。

■ レポートにおける不正行為

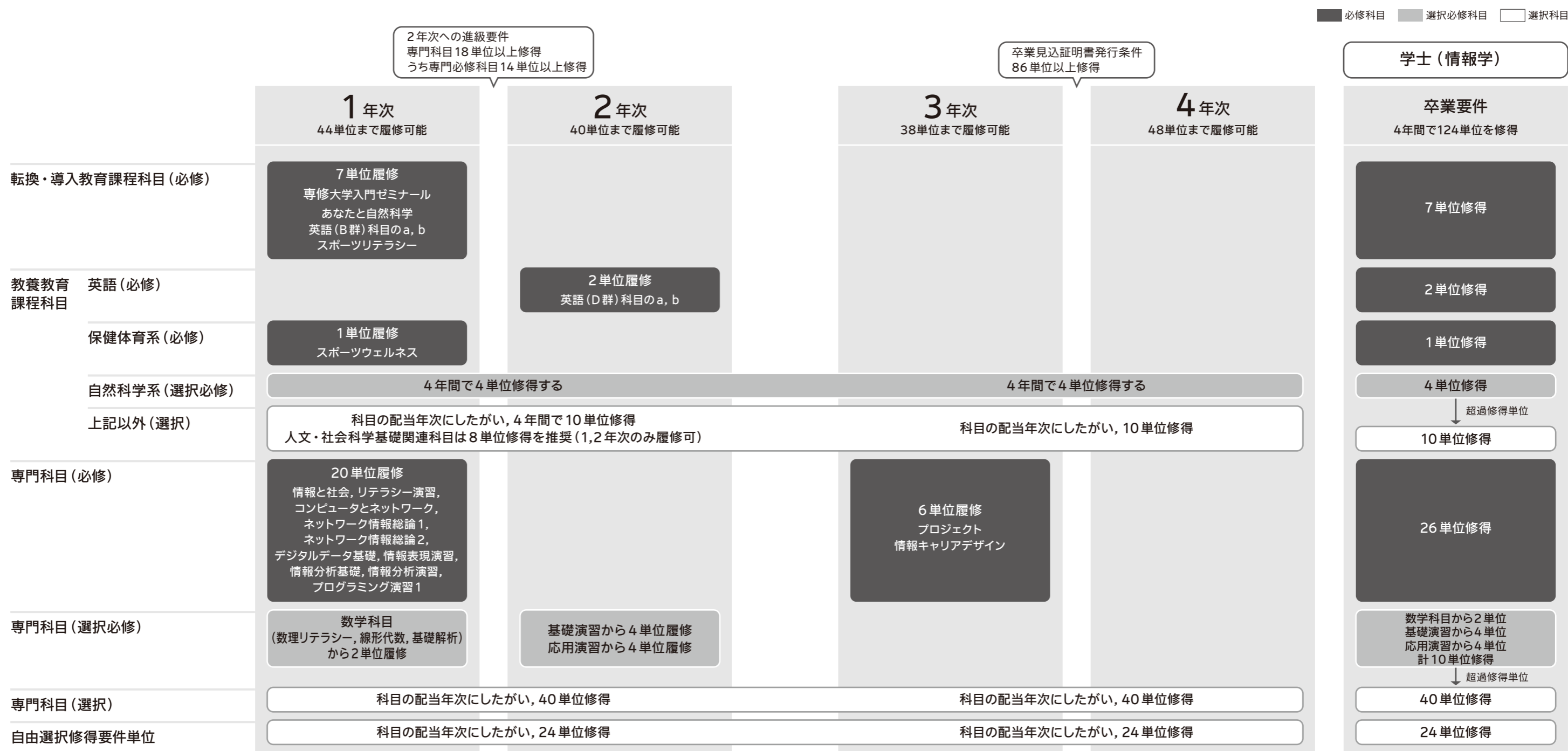
試験においては、他の学生の答案を写す、あるいはカンニングペーパーを持ち込むといった行為が不正行為(67ページ)となることは容易にわかるでしょう。レポートでも同様な不正行為が問題になります。レポートは授業時間外に課されますので、友人同士、議論することは認められています。しかし、他の学生のレポートをそのまま写して提出することは認められません。また、本やインターネットに載っている情報を、あたかも自分の意見として

そのままレポートに載せることも認められません。このように剽窃などをしたレポートは評価の対象とならないので、行わないでください。様々な情報を引用しながら、自分なりの見解をまとめていくことは認められています。詳しいことは、入学時に配布される「知のツールボックス」に述べられていますので、そちらを参照してください。

4年間の学びのステップ

- 皆さんは様々な科目の区分から、卒業要件を満たすように、4年間かけて単位を修得する必要があります。科目名とその区分の一覧は、72～73ページに掲載しています。
- 科目を履修し、60点以上の評価を得られたとき、その科目の単位を修得することができます。科目の単位数は開講期間、科目の性質によって決まっています。
- 「必修科目」は、卒業するためには必ず修得しなければならない科目です。一つでも未修得の必修科目があると卒業できません。
- 「選択必修科目」は、ある定められた科目の集まり（選択必修科目群）の中から指定された単位数以上を修得しなければならない科目です。選択必修科目群は複数あり、各科目群から必要単位数以上を修得しなければなりません。

- 転換・導入教育課程科目から7単位、教養科目から17単位、専門科目から76単位修得しなければなりません。卒業要件単位124単位に達するためには、さらに24単位修得する必要があります。その24単位分を、専修大学では自由選択修得要件単位と呼んでいます。自由選択修得要件単位に含めることができる科目は、57ページを参照してください。
- 配当年次。すべての科目には、履修可能となる年次が指定されます。例えば、1年次配当の科目は1年次にしか履修することができません。複数年次配当の科目、例えば、2～4年次配当の科目は、2・3・4年次のいずれにおいても履修することができます。必修科目の単位が修得できない場合は、配当年次に関わらず再履修しなければなりません。



自分の時間割表を作る

大学で最も重要なことは、4年間の学びを意識しながら、それぞれの学年の最初に、どの科目を履修するか決める(自分の時間割表を作る)ことです。専修大学は、前期開講授業、後期開講授業、そして前期・後期と連続して行われる通年授業に大きく分

かれます。前期、後期それぞれの時間割表を作り、Web履修登録システムで登録し、履修が認められるまで、自分の責任で行わなければなりません。

必修科目のチェック

1

当該学年で履修する必修科目を履修しなければなりません。必修科目は、いくつかのクラスで実施されている場合、学籍番号で割り当てが決まっていることがあります。自分が履修するクラスを時間割で探しましょう(過去に修得できなかった必修科目は再履修

しなければなりません。どのクラスで受講すべきか、4月のガイダンスで指示されます)。必修科目の開講曜日時限は、あらかじめWeb履修システムで確認することができますので、必ず確認してください。

履修可能単位数のチェック

2

当該学年で、何単位履修することができるのか理解しなければなりません。7~8ページに記載された各学年の履修上限単位数から、各学年で履修しなければならない、必修科目及び選択必修科目の単位数を引いた結果が、

あなたがさらに履修できる年間単位数となります。(履修可能な単位数をすべて履修しなければならないということではありません。資格課程科目および海外語学短期研修は、年間履修上限単位数に含まれません)

どの学年で学ぶか考える

3

学修すべき学年が幅広く指定されている選択必修科目及び選択科目をどの学年で履修すべきか考えなければなりません。一般に、選択必修科目は低学年で履修した方がよいでしょう。語学などはたとえ選択科目で

あっても、個人の学修目的に応じて低学年で履修する場合もあるでしょう。資格課程科目を履修して資格を得たい場合は、そちらのガイダンスに参加して、どの学年で学修していくべきか考えましょう。

シラバスと時間割の確認

4

3で考えた科目に関して、実際に、シラバスを確認して、自分の学修すべき内容なのか判断していきます。さらに時間割を確認して、自分の希望するクラスが、同一時限に重なっ

ていないか調べていきます。一部の科目には、事前登録希望を出さなければならないものがありますので、ガイダンス時に確認しましょう。

Web履修システムで登録

5

4までで考えた自分の時間割表をもとに、Web履修システムを使って、履修登録希望を指定していきます。一部のクラスでは、受講者が多すぎるときに抽選が行われるもの

があります。抽選の結果、受講が認められなかった場合には、別のクラスや科目を受講することを考えなければなりません。

科目ごとに、履修に関する細かい条件がある場合があります。4月最初のガイダンスの時に配布される「ネットワーク情報学部時間割」という冊子に記載されますので、注意して読むようにしてください。

1年次の必修科目及び専門科目の選択必修科目・選択科目を時間割表に試みに記載すると次のようになります(これはあくまでサンプルで、実際には学籍番号によって異なるので、自分で作成してみましょう)。網掛けの必修科

目、履修登録を義務付けられている科目は、あわせて32単位ですので、履修上限単位数の44単位から引いた12単位が、皆さんが選択する余地がある単位数となります。

時間割表作成の事例

前期

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1	数理リテラシー	コンピュータとネットワーク		基礎解析	プログラミング演習1
2		情報表現演習	スポーツリテラシー	リテラシー演習	
3			線形代数	ネットワーク情報総論1	英語(B群)a
4					デジタルデータ基礎
5		情報と社会			

後期

時限 \ 曜日	月	火	水	木	金
1		専修大学入門ゼミナール		ネットワーク情報総論2	プログラミング演習2 <small>(履修登録が義務づけられている科目)</small>
2		情報分析演習	スポーツウェルネス		あなたと自然科学
3	情報英語入門		情報分析基礎		英語(B群)b
4	プログラミング演習2発展 <small>(履修登録が義務づけられている科目)</small>				
5		情報と社会			

数学科目の選択必修科目群(数理リテラシー、線形代数、基礎解析)から1科目以上履修しなければなりません。専門科目の1年次選択必修科目・選択科目は、25ページの説明を読んで、履修しましょう。資格課程を履修する場

合、その科目を配置しますが、年間履修上限単位数に含まれません。それ以外の科目の中から、年間履修上限単位数を超えない範囲で科目を選ぶことができます。

授業時間外の学修

実際に時間割を作ってみると、週に10個程度の授業しかないことがわかります。できれば特定の曜日に授業を固めて履修したいと思うでしょう。皆さんは90分間の授業に慣れていないので、わからないかもしれませんが、実際には、1日に三つまでが集中して学修できる範囲で、四つも授業があると、聞くことがおろそかになる授業が出てきます。そのようになると、成績が悪くなる原因となります。

授業数を曜日に均等に分けると、1日あたりおよそ二つ程度で、大学生活は時間の余裕があるように思えるかもしれません。

しかし、一つの授業に対しては、4時間の予習・復習が必要なことが、大学設置基準で求められています。ネットワーク情報学部では、皆さんがきちんと予習・復習するように、多くの課題が課されます。もし課題が出なかったとしても、自主的にそれだけの学修時間を確保することが求められています。時間割表の中で、授業の間に空き時限ができたからといって、無理に勉強したくもない授業を履修するのではなく、自習時間にあてることが賢明です。大学では、自習をするための場所がいくつも用意されています。

情報科学センターを使う

情報科学センターは、パソコンやインターネットを使って学修する設備です。ネットワーク情報学部生には、1号館1・2階に優先端末室がありますので、比較的自由に、友人達とともに、朝の9時から夜の9時まで※学修できます。ネットワーク情報学部では、コンピュータソフトを使った課題が多く課されますし、レポートもパソコンを使って作成

することがほとんどです。レポートの提出もオンラインレポート提出システムで行うことも多くなっています。情報科学センターを活用することが、ネットワーク情報学部生にとっては重要です。59～60ページにも詳しい情報を載せていますので、あわせて見てください。

※時間は時期によって延長・短縮されることもありますので、随時確認してください。

図書館を使う

専修大学には100万冊を超える蔵書をもつ図書館があります。図書館にあるオリジナルな文献を調べるレポート課題が出ることもあります。また図書館には自習スペースも用意されていますので、静かに集中して学修し

たいときには、利用してみるとよいでしょう。図書館では、学生が希望する図書を購入してくれるサービスを行っています。皆さんから希望を出して、図書館に置いてもらうようにしてみたらどうでしょうか。

グループワークをする

ネットワーク情報学部では、複数人の学生がグループで取り組む課題(グループワーク)が多く課されます。グループワークが課されたときに、参加する学生たちは自分たちの空き時間を調整して、一緒にグループワークをする時間を工面します。そのときに、「空き時間がまったくありません」と言うことはでき

ません。他の学生たちとグループワークをすることができるように、余裕ある時間割を組むようにしましょう。ネットワーク情報学部生には1号館3・4階にグループワークなどをするスペースがありますので、積極的に利用しましょう。61～62ページにも詳しい情報を載せていますので、あわせて見てください。

オンライン学修支援システム

ネットワーク情報学部は、その名前が示すように、ネットワークを活用して大学生活を送ることが当たり前のように行われています。以下に述べるオンラインシステムは、ネットワーク情報学部生であれば、少なくとも1日に1回はチェックする必要があります。

授業支援システム (Course Power)

授業ごとに、先生から学生へのお知らせ、オンライン資料の配付、レポート提出などの機能を持つシステムです。Course Powerを

授業で使用する場合には、担当の先生から、どのように使用していくのか授業中に指示されます。

大学ポータルシステム

大学全体での情報伝達システムで、皆さんにとっては休講情報が重要な情報となるでしょう。他にもオンラインアンケート、教職員

から皆さんへの情報伝達などで利用されることがあります。

大学のメールシステム

入学すると皆さんには大学のメールアドレスが与えられます。大学の学生としてメールを送るとき(例えば、先生にメールを送るとき)には、大学のメールアドレスを使うことが

常識です。教職員から、皆さんに連絡する必要があるときには、大学のメールアドレスを使って電子メールを送ることがあります。

利用するためのユーザIDとパスワード

情報科学センターの端末室のパソコンを利用するためには、個人ごとに与えられたユーザIDとパスワードが必要です。パスワードが他人に知られてしまうと、他人に情報を盗まれるという不利益を被りますので、パスワード管理をきちんとしてください。パスワードは、電子メール、ポータルシステム、Web履修登録システム、授業支援システムCourse Powerなどで共通となっていますので、もし何かトラブルが起こったときは、情報科学セン

ター受付に相談してください※。なお、Webページを公開したり、データを共有したりする目的で、いくつかのサーバが学部教員によって管理されています。xxx.ne.senshu-u.ac.jpというような名前を持ち、端末からネットワークを経由して利用します。これらのサーバを利用するためのユーザIDとパスワードは情報科学センターとは別のものが用意されます。

※電子メールのみは、パスワードを変更しても他のシステムのパスワードに影響を及ぼしません。

単位の考え方と算定基準

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされていますので、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることとなります。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしています。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければなりません。漠然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてください。

開設される科目の構成と学士課程

皆さんが在学時に学ぶ科目は、主に

1. 専修大学すべての学生を対象とする科目 (転換・導入教育課程科目, 教養科目)
2. ネットワーク情報学部 of 学生を対象とする科目 (専門科目) に区別され, これらの科目を, このページ以降に示すルールにしたがって修得していくことになります。この他にも, 全員が修得するものではありませんが,
3. 他学部の専門科目を受講できる全学公開科目
4. 資格を取得するための科目 (資格課程の科目) といった科目もあります。

ネットワーク情報学部の専門課程は, 基礎から発展まで, 学修順序を考慮して, 科目の配当年次が指定されています。全員が学ぶべき基礎的な内容の科目は, 1年次に配当しています。2年次以降では, 学修の中心となる演習科目は各学年毎に配当され, 講義科目は, 2~4年次配当の中レベルの科目, 3~4年次配当の高

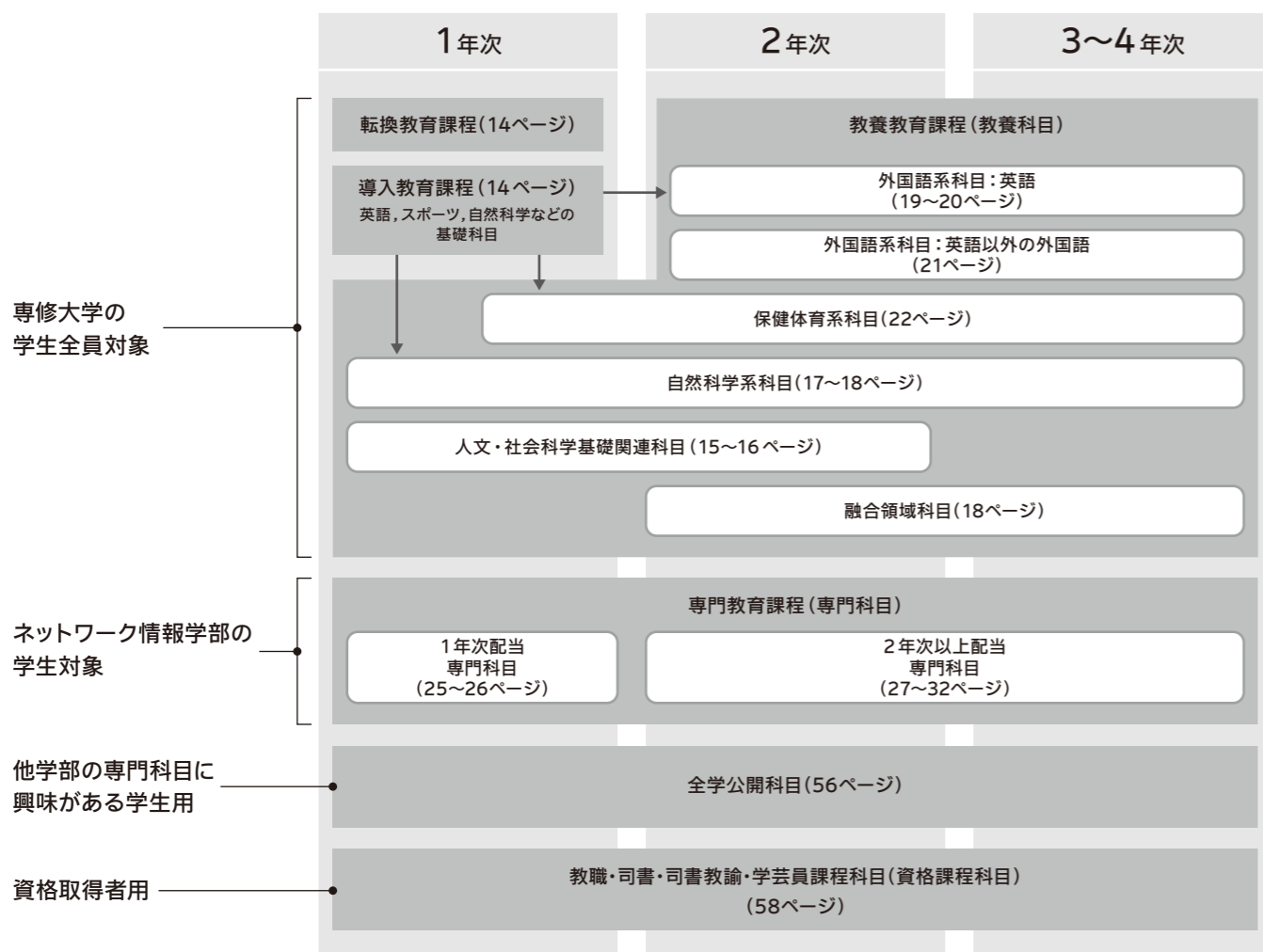
レベルの科目に区別されています。専門課程の科目体系と履修指針は, 23~53ページに示してありますが, 各学年での履修ガイダンスでも詳しく説明します。

- 専修大学すべての学生を対象とする科目は,
- 1年次に専修大学の学生全員にとって必要不可欠な基礎的知識や技能を修得する転換・導入教育課程の科目,
 - その上でさらに知識を広げ, それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的とする教養科目から成り立っています。

教養教育課程は, 人文科学基礎関連科目, 社会科学基礎関連科目, 自然科学系科目, 外国語系科目 (英語, 英語以外の外国語, 海外語学研修), 保健体育系科目から構成されています。学際的なテーマを扱う融合領域科目も含まれます。

転換・導入教育課程, 教養教育課程の科目体系と履修指針は, 14~22ページに示してあります。

学士課程の構成



転換・導入教育課程

転換・導入教育課程の目標

転換教育課程の科目 (専修大学入門科目) では, 皆さんが, 高校生活から大学生活への転換を図り, 専修大学の学生としての自覚を持ち, 大学での学修に求められる基本的なスキル (技法) を身につけることが目標であり, 具体的な目的として, 以下の点をあげることができます。

第1に, 大学で学ぶことの意義を充分理解することです。

第2に, 専修大学の学生としての自覚を持っていただくために, 専修大学の歴史を学び, 専修大学で学修することの意義を理解することです。

第3に, 大学で学ぶための基本的な技法 (アカデミックスキル), すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集し, まとめるか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について修得することです。

導入教育課程の科目 (専修大学基礎科目) は, 教養教育課程科目 (教養科目) 及び専門教育課程科目 (専門科目) で学ぶための基本的な力を養います。導入教育課程で用意されている科目を学ぶことで, 皆さんは大学で学ぶだけでなく, 社会で必要とされる様々な力を伸ばすことができます。それらの力とは, 外国語を運用する力, 情報を分析し活用する力, 複合的な視点で観察し思考する力, 自分の将来を切り開いていく力, 自分の健康を維持管理する力です。これらの力は, 国際化・情報化・複雑化が進む社会において, 皆さんが活躍するために必要な社会知性を身につけるために, 役立つことでしょう。

転換・導入教育課程で身につけるべき能力の一部は, ネットワーク情報学部が用意する1年次配当の専門科目で扱っています。下の図では, そのような専門科目がわかるように並記して示しています。

高校生活から大学生活への転換を図り, 専修大学の学生としての自覚を持ち, 大学での学修に求められる基本的なスキル (技法) を身につけます。(54ページ)

大学生活において, 様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけます。(55ページ)

皆さんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め, 皆さんと自然科学の関係を知るための導入となる科目です。自然科学系科目 (17ページ) の基礎となる科目です。

高等学校までで学んできた英語を土台として, 新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し, 学修します。外国語系科目 (英語) (19~20ページ) の基礎となる科目です。

スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養い, スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。保健体育系科目 (22ページ) の基礎となる科目です。

転換・導入教育課程科目として用意される科目	獲得する力	専門科目として用意される科目 (25ページ)
専修大学入門ゼミナール	大学での学修の基本的なスキル	リテラシー演習
キャリア入門	自分の将来を切り開いていく力	情報と社会 (一部)
	情報を分析し活用する力	情報表現演習 情報分析基礎 情報分析演習 プログラミング演習1
あなたと自然科学	複合的な視点で観察し思考する力	
英語科目B群	外国語を運用する力	情報英語入門
スポーツリテラシー	自分の健康を維持管理する力	

人文科学基礎関連科目

人文科学基礎関連科目を学ぶ意義

人文科学に含まれる学問はいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっています。人間の営みは様々ですから、それに応じて多くの学問が生まれました。皆さんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。

自然科学や社会科学でも人間は対象になりますが、扱い方に違いがあります。自然科学では、人間が住んでいる世界や環境を(宇宙から素粒子まで)様々なサイズで研究します。人間を研究対象とする場合でも、それは生物として、物質としての人間です。社会

科学では、ひとまず人間を全体としてみて、その活動から出発して人間の本質について問いかけます。

これらに対して人文科学では、具体的で個別的でもある人間の様々な営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとしています。

図にあるような人文科学の領域から複数の科目を履修することで、人間の営みの違った側面を知り、違った観点をもつことができます。

人文科学基礎関連科目の学び方

本学で展開される人文科学の科目には、皆さんが大学で初めて出会う科目もたくさんあります。また、すでに学んだことのある分野でも、大学での講義が予想とはまったく違って驚くことがあるかもしれません。

様々な学問に触れるために、人文科学領

域から複数の科目を履修してみることをお勧めします。それにより、単なる知識にとどまらない人文科学の面白さを知り、他の教養科目や専門科目を学ぶ上での基礎や本質となる人間のとらえ方を学ぶことができます。

注意事項

- 人文科学基礎関連科目は、1,2年次しか履修できません。
- ネットワーク情報学部では、人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目をあわせて8単位以上修得することを推奨しています。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。

人文科学の学問領域と設置科目(ネットワーク情報学部対象)



社会科学基礎関連科目

社会科学基礎関連科目を学ぶ意義

人々は何らかの社会的な組織や集団(企業、国家、家族、地域など)の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響を受けていることに気付きます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与えているのかを理解することで深めることができます。

自分が生きている社会ですから、理解で

きていると思いついてしまっていたり、先入観にとらわれて誤認することもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」(=客観的な基準)が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎関連科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、図にあるような科目を展開しています。

社会科学基礎関連科目の学び方

自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うには、一見すると関連のない分野を学ぶこ

とによっても身に付きます。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の科目群から履修することが望まれます。

注意事項

- 社会科学基礎関連科目は、1,2年次しか履修できません。
- ネットワーク情報学部では、人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目をあわせて8単位以上修得することを推奨しています。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。

社会科学の学問領域と設置科目(ネットワーク情報学部対象)



自然科学系科目

自然科学系科目を学ぶ意義

自然科学系科目として、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論・科学史、数理科学および基礎自然科学実験が設置されています。

自然科学系科目の目的

- ①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解
現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。
- ②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成
人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科

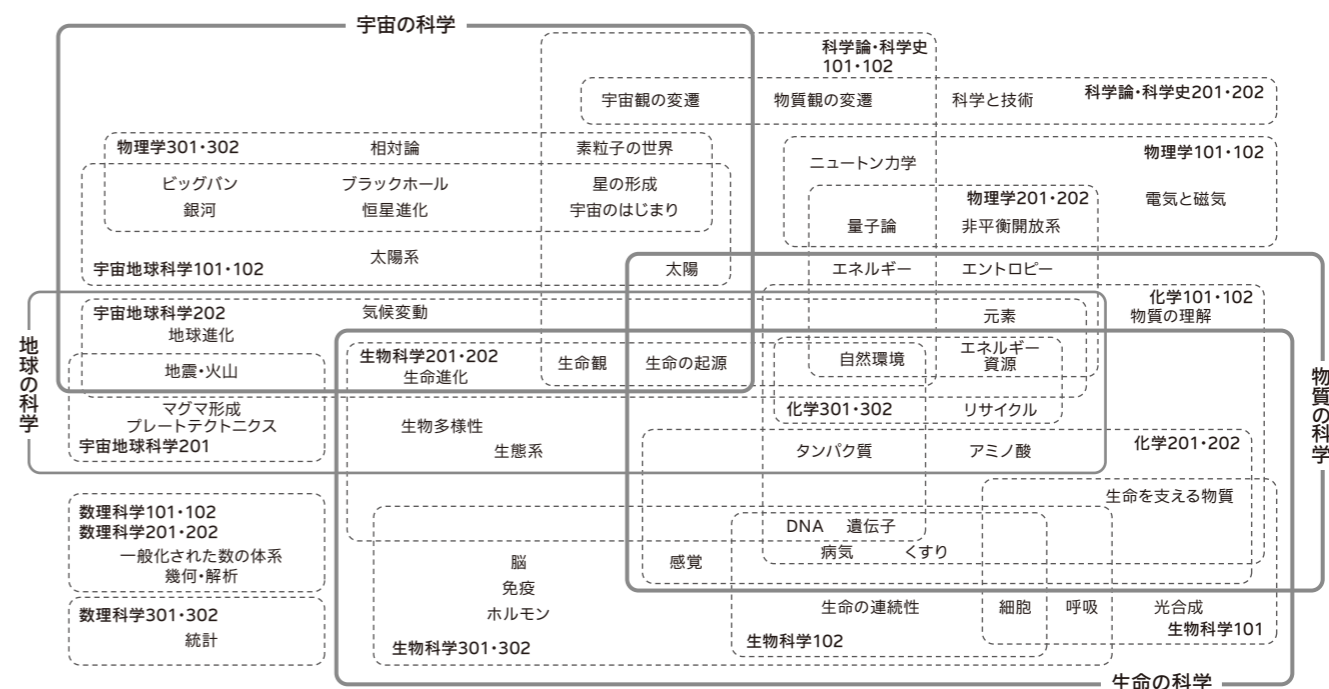
自然科学系科目の学び方

自然科学に関係する代表的なキーワードとそれぞれの自然科学系科目が扱う内容の関連はおおよそ次の図のように示されます。「物質の科学」や「宇宙の科学」といったより広いテーマは複数の科目に関連していること

ています。専修大学基礎科目「あなたと自然科学」でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

- ③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成
科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。

が分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択してください。興味のあるキーワードを中心に近隣の科目を履修するのも一つの方法です。



融合領域科目

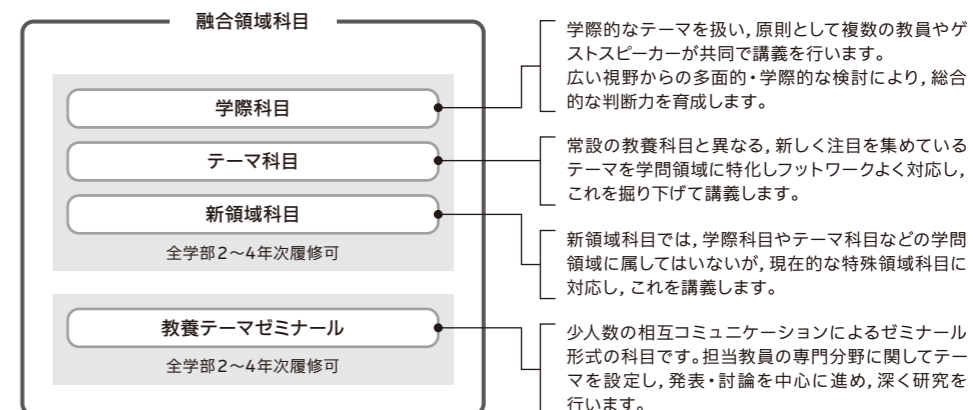
融合領域科目を学ぶ意義

融合領域科目は、各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することを皆さんに示しながら、どんな社会現象や自然現象にも複

数の側面(多面性)があり、それらの間に複雑な関係性があることを理解させ、思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な教育目的としています。

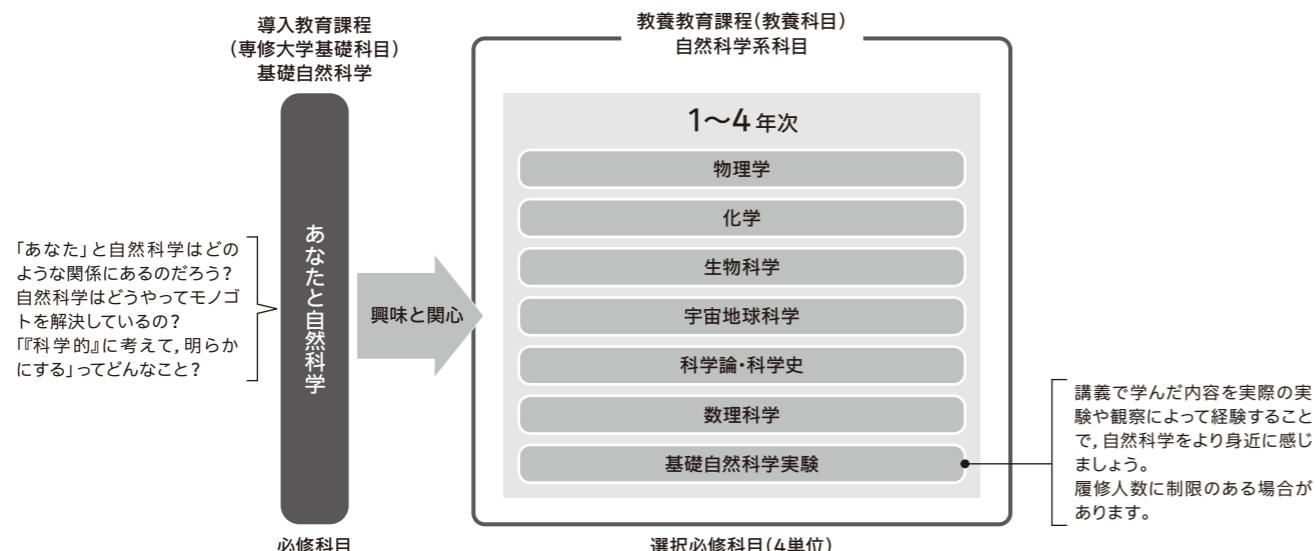
注意事項

- 「教養テーマゼミナール」はⅠ・Ⅱ・Ⅲに区分され、Ⅰは2年次、Ⅱは3年次、Ⅲは4年次配当です。連続して同じ「教養テーマゼミナール」を履修することもできますし、年度毎に別の「教養テーマゼミナール」を履修することもできます。
- 同一年度に複数の「教養テーマゼミナール」を履修することはできません。
- 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができます。
- 「教養テーマゼミナール」は、毎年11月頃、次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配布します。



注意事項

- ネットワーク情報学部では卒業要件単位として自然科学系科目4単位を修得しなければなりません。
- 「〇〇101」など番号までが科目名です。「〇〇101」と「〇〇102」は別科目です。
- 「〇〇101」、「〇〇201」、「〇〇301」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり、難易度を意味するものではありません。「〇〇301」から履修しても構いません。
- いずれの科目も、年次に関わらず自由に履修することができます。ただし、教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。
- 開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項(シラバス)で確認してください。
- 科目名が同じでも、担当する教員が異なる場合、扱う内容が異なることもあります。



外国語系科目(英語)

英語科目を学ぶ意義

皆さんの中にはこれまで大学入試のために英語を勉強してきたという方もいるでしょう。しかし、大学からの英語学習は自分への投資として、将来の可能性を広げるための取り組みと捉えるようにしてください。皆さんが将来どの分野に進もうとも、コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として、英語は重要な役割を果たすことでしょう。英語学習を通して、異文化に対する理解や関心を深め、グローバルな視野を獲得することも重要です。

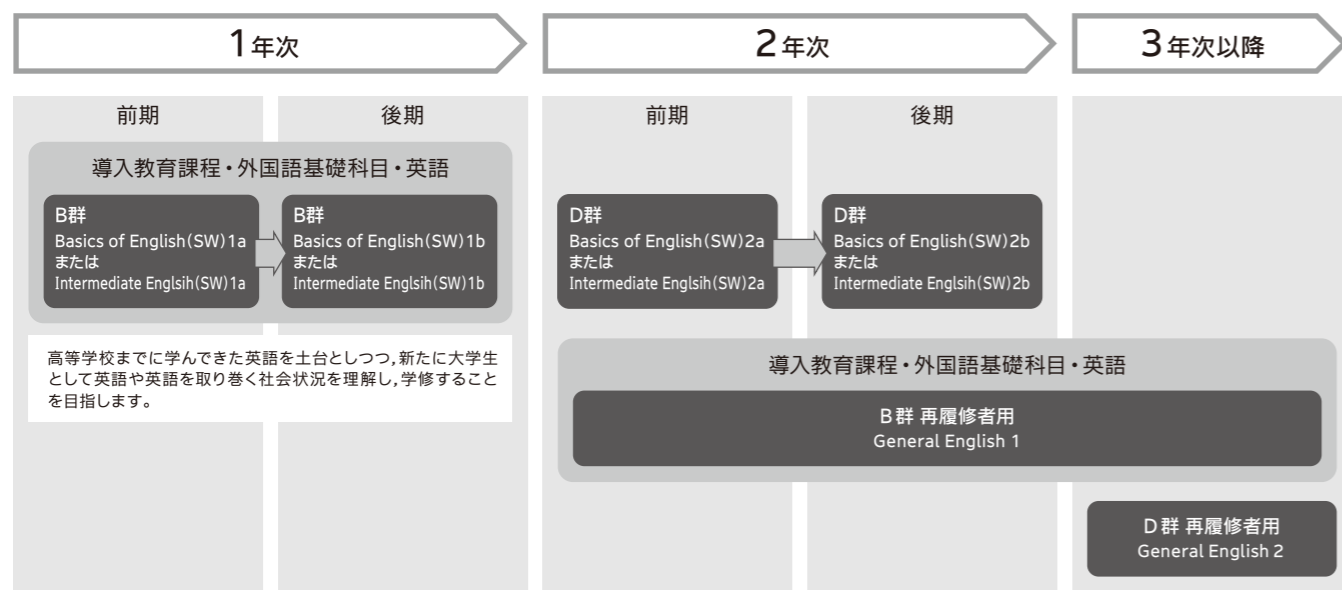
導入教育課程では、これまでに身につけた英語力を土台とし、大学から始まる、単なるテストのためだけではない英語学習に意識を切り替え、学修を行います。その学修を踏まえ、さらに発展的な英語学習を行うために、2年次以後の必修科目や選択科目が幅広く用意されています。

効果的に大学での英語学習機会を活用し、自分の学びを確かなものとするよう励んでください。

注意事項

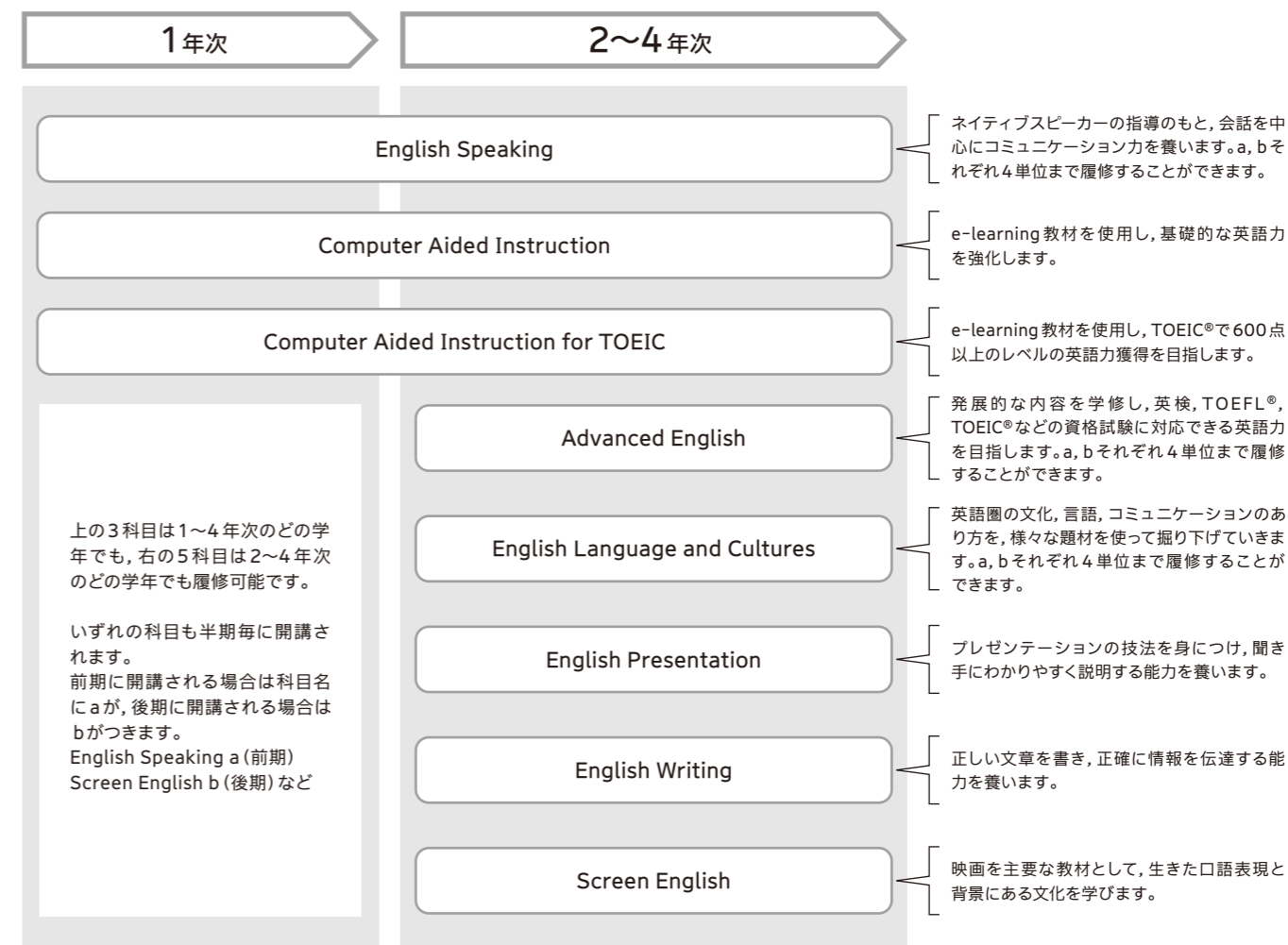
- 1単位科目と2単位科目があります。
 - 科目名にaがつく科目は前期開講、bがつく科目は後期開講です。矢印で結ばれた科目はセットで履修してください。
 - 再履修者用必修科目および選択科目はいずれも複数展開しています。個別授業の詳細内容はWeb講義要項(シラバス)に掲載されます。
 - 実用英語技能検定(英検)、TOEFL[®]、TOEIC[®]において一定の基準を満たしている学生に単位認定する制度があります。
- 以上の詳細については、4月に配布される時間割冊子に記載されますので、確認してください。

必修科目



1年次の英語(B群)は習熟度別クラスで学習します。入学時の英語科目プレテストによって、Basics of EnglishとIntermediate Englishのどちらを履修するかが決定します。基礎的な学修が必要な場合は、Basics of English、基礎が修得されている場合は、Intermediate Englishを履修します。Intermediate EnglishはさらにMidとHighにわかれています。特に希望すれば、指定されたクラスより、1レベル上(Basics of English → Intermediate English (Mid), Intermediate English (Mid) → Intermediate English (High))のクラスの履修を許可される事もあります。2年次の英語(D群)は、原則として1年次のクラスの継続となります。特に希望すれば、指定されたクラスより、1レベル上(Basics of English → Intermediate English (Mid), Intermediate English (Mid) → Intermediate English (High))のクラスの履修を許可される事もあります。

選択科目



e-learning教材「NetAcademy2」の紹介

専修大学のアカウントを持った学生であれば誰でも、e-learningを利用して英語を自学することが可能です。英文法の復習をする「英文法コース」、一般的な英語力を伸ばす「ス

タンダードコース」、TOEIC[®]の模擬試験で自分の実力が試せる「TOEIC演習コース」があります。専修大学のトップページからCALL教室の「e-learningについて」を参照して確認してください。

提携校への海外語学留学

国際交流センターでは本学の提携校で学ぶ各種留学プログラムの実施並びに留学希望者へのサポートを行っています。夏期、春期の「短期留学プログラム」、数ヶ月間集中的に語学を学ぶ「中期留学プログラム」、および正規授業科目の修得を目的とする「長期交換プログラム」、「セメスター交換留学プログラム」があります。留学は実践的に語学力を伸ばし、異文化圏での生活を肌感覚で体験できるまたとない機会であり、日本で普通に過ご

しては得ることのできない感動や刺激を与えてくれるでしょう。是非とも多くの人にチャレンジしていただきたいと思います。プログラムの研修先、内容、応募方法、研修費用、単位取得条件など詳細については、年度ごとに国際交流センター内、国際交流事務課に問い合わせてください。

帰国後の単位認定については、72ページの一覧内、海外語学研修の備考欄を参照してください。

外国語系科目(英語以外の外国語)

英語以外の外国語を学ぶ意義

キーワードは3つのC

外国語を学ぶというのは、ことばそのものを習得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化(Cultures)に触れるということです。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション(Communication)が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる(Connections)、新たな窓口です。

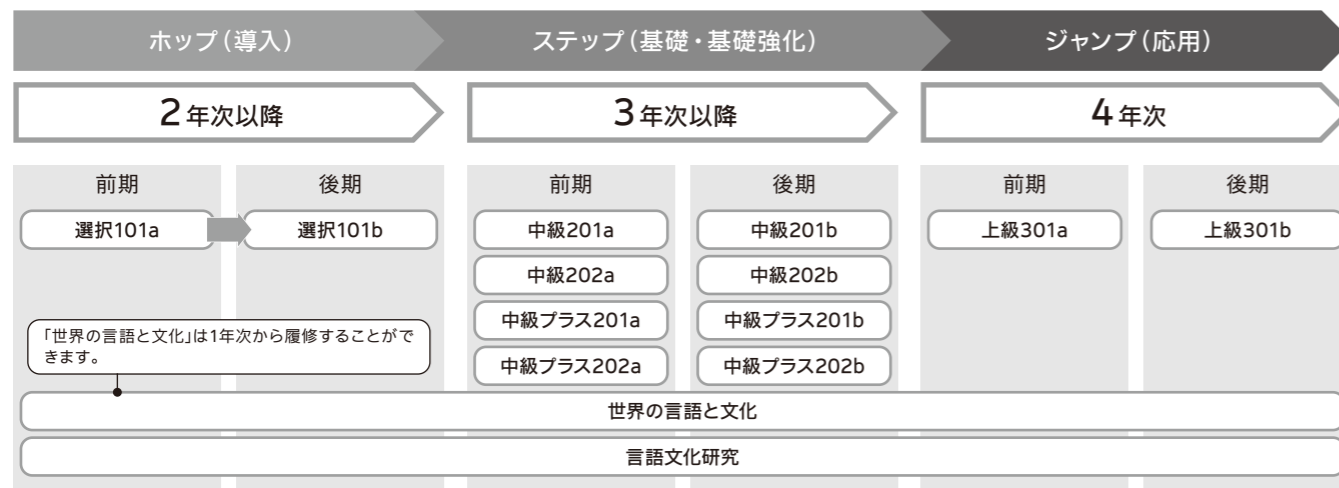
ネットワーク情報学部では、2年次以降に開講されている教養教育課程の選択外国語科目によって、英語以外の外国語の勉強をス

タートさせます。準備されているのは、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、韓国語、さらにアラビア語、イタリア語です。(ロシア語、インドネシア語は、3年次以降の中級科目、4年次以降の上級科目より選択できます。)

また、「世界の言語と文化」(日本語による講義科目)は1年次から選択科目として履修できます。さらに「言語文化研究」(日本語による講義科目)へとレベルを上げることも可能です。

注意事項

- 矢印で結ばれた科目(選択101a⇒選択101b)は、同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修してください。
- 科目によっては、開講されない外国語もあります。



選101a,101b: 入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

世界の言語と文化: 各国の言語と、その背景にある文化を広く学びます。日本語による講義科目です。

言語文化研究: 世界各地の様々な文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

中級201a,201b: 初級で学んだことの復習+さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。

中級202a, 202b: 初級で学んだことの復習+さらにテーマ別に語学力を養います。

中級プラス201a,201b, 中級プラス202a,202b: 通常の中級科目に加えて、さらに学修したい人たちのためのプラス科目です。

中級科目は年度を越えてそれぞれ2科目まで履修することができます。

詳しい条件は72ページの備考欄を参照してください。

上級301a,301b: 個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目まで履修することができます。

「CALL自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス1号館地下にはCALL自習室とCALLライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材を始め、検定試験対策教材や雑誌などが視聴、閲覧できます。また、CALL自習スパー

スは生田10号館1階情報コアゾーンにも設けられていて、DVDを中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

保健体育系科目

保健体育科目を学ぶ意義

保健体育系科目では、1年次必修科目(前期のスポーツリテラシー、後期のスポーツウェルネス)を通じて、次のことを目標としています。

1. 共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介して学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養うこと。
2. スポーツを通じた身体活動により、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、健康なライフスタイルの創造に貢献するための運動習慣の醸成を図ること。

2年次以降では選択科目として、スポーツを専門的レベルから学ぶ「アドバンススポーツ」、理論科目としてスポーツが有する多角的な価値を学ぶ「スポーツ論群」を用意

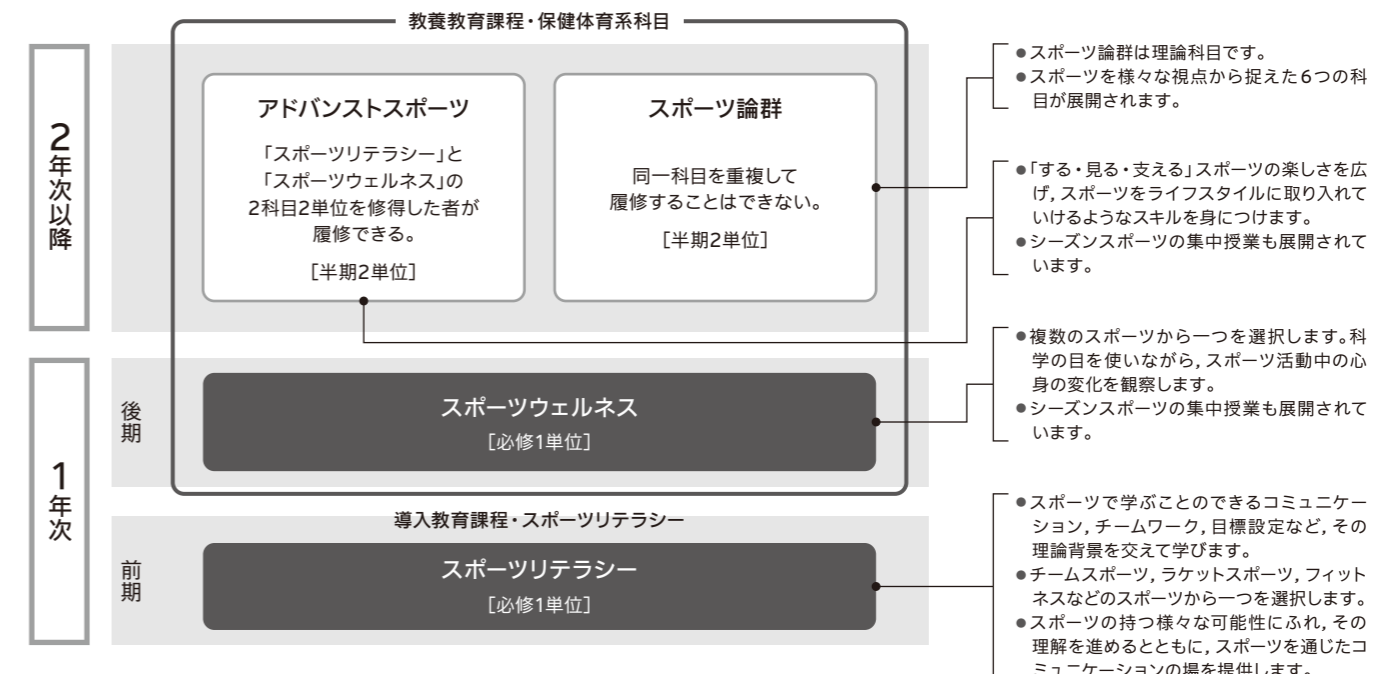
しています。

「アドバンススポーツ」は、対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得を主目的としています。内容としては技術の追求のみではなく、ビデオを利用したゲーム分析や審判法、マッチメイクなどのマネジメントについての学修なども取り込み展開されます。

「スポーツ論群」では、スポーツが有する多角的な価値について、社会科学、自然科学、人文科学などの視点から学びます。そして、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。

注意事項

- 同一種目の「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」を同一年度に履修することはできません。
- 「アドバンススポーツ」は同一種目を重複履修、また複数種目を履修することができます。
- 「スポーツ論群」は、同一科目でなければ複数履修することができます。
- 個々の科目内容については、Web講義要項(シラバス)を参照してください。



- スポーツ論群は理論科目です。
- スポーツを様々な視点から捉えた6つの科目が展開されます。

- 「する・見る・支える」スポーツの楽しさを広げ、スポーツをライフスタイルに取り入れていけるようなスキルを身につけます。
- シーズンスポーツの集中授業も展開されています。

- 複数のスポーツから一つを選択します。科学の目を使いながら、スポーツ活動中の心身の変化を観察します。
- シーズンスポーツの集中授業も展開されています。

- スポーツで学ぶことのできるコミュニケーション、チームワーク、目標設定など、その理論背景を交えて学びます。
- チームスポーツ、ラケットスポーツ、フィットネスなどのスポーツから一つを選択します。
- スポーツの持つ様々な可能性にふれ、その理解を進めるとともに、スポーツを通じたコミュニケーションの場を提供します。

専門科目の4年間での学び

ネットワーク情報学部では、情報学の基礎を固め、その上でより専門的な知識を獲得できるように科目を配置しています。情報学の学びでは、学んだ知識をコンピュータやネットワーク上で様々なソフトウェアを使いながら活用していくスキルを身につけることが求められます。また、獲得した知識やスキルを、個人の活動だけでなく、グループでの問題解決活動に利用していく

ことも求められます。社会での様々な場面で、情報学を学ぶことによって得られた力を活用できる仕事がたくさんあります。皆さんが、卒業後のキャリアプランを描きながら、自らの学びをデザインしていくことも大事になります。ここでは、4年間でどのような能力を段階的に身につけていくのか紹介します。

	専門知識を学ぶ	スキルを獲得する
1年次 学びの基礎作り	共通必修科目で情報学の基礎固め コンピュータとネットワークの動作、データ処理やプログラミング、その基礎となる論理的・数理的思考法など、様々な情報に関連する領域を学修するための共通基礎を身につけます。将来の職業と情報学の関連についても学びます。	4つの必修演習で活きた学びを体験 リテラシー演習では、大学での学修方法を具体的に学んでいきます。情報表現・情報分析・プログラミングの3つの演習では、講義で修得した内容をソフトウェアで実践することで、活用できる知識にしていきます。
2年次 深める方向を探る	プログラムを参考に専門科目を履修 自ら興味をもった領域の基礎的な専門科目を学修しながら、2年次以降で深めるべき方向を探していきます。卒業時に修了する「プログラム」を考慮しながら、科目を選択していきます。	3つの基礎演習・8つの応用演習から選択 自ら志向にあわせて選択した演習では、学んできた知識やスキルを具体的なテーマに沿って活用し、問題解決プロセスを実践します。3年次のプロジェクトの準備になります。
3年次 知識の融合と発展	プログラムを修了する 専門性を深めたい学生のために用意された学修課程が「プログラム」です。プログラムごとに指定された専門必修科目・選択必修科目を修得することで修了できます。また自ら目標を定めて、それに必要となる科目を教員と相談しながら選択していくことにより、プログラムを修了しなくても卒業することができます。	プロジェクト 10名前後の学生たちで、教員の指導を受けながら、1年かけて問題解決に取り組みます。その過程で、コミュニケーション・プレゼンテーション能力、プロジェクト管理などの能力も身につきます。
4年次 学びの仕上げ		卒業演習 教員の指導を受けながら進めていく演習です。これまでの経験や知識を活かしてテーマを設定していきますが、新たな領域に学びを広げる機会にすることも可能です。

「プログラム」の他に、学部の共通分野として「英語」、「数学」、「経営」、「キャリア教育」があります。51～53、55ページを参照し、自らの目標にしたがって、科目を履修すると良いでしょう。

ネットワーク情報学部の学修で身に付けるべき力

急速に進歩する情報学、情報技術に関する知識を十分に使いこなして、様々な社会問題に対して解決方法を提案していくためには、確かな基礎と広い視野、そして自ら課題を発見していく力を身につける必要があります。

具体的には、以下の6つの能力を育てることを目標とします。この6つの能力が別々に身に付くだけでなく、社会で通用する総合的な能力となることが、目標となります。

▶ コミュニケーションスキル

自分が見いだしたこと、考えたことを、他人にわかりやすく伝達できることに加え、他人が見いだしたこと、考えたことを正しく理解できなければなりません。集団で議論し、多様な視点を理解したり、合意形成をはかるスキルも重要です。

▶ 論理的思考力

事実と因果関係に基づき、論理的に推論し結論を得る思考力です。さらに、現在観察されている事実の原因を探るために、因果関係の仮説を立てて調べていくという推論も、問題解決のために必要となります。

▶ 問題解決力

問題に対して適切に情報を収集・分析し、持っている知識・スキルを活用し解決案を提示する能力です。世の中に存在している問題を発見する能力、解決案に関わる様々な利害関係を認識する能力などが含まれます。

▶ 数量的スキル

様々な現象を数値としてとらえ、それを適切に取り扱うためのスキルです。数値としてとらえる手法、データ間の因果関係を把握する能力、数値の大小と意味を理解する能力などが含まれ、論理的思考の基礎となるスキルになります。

▶ 情報技術

情報技術を理解し活用することで、大量のデータ・情報を収集し、処理し、伝達し、蓄積することができます。より良く、より広範囲で利用でき、即時性がある問題解決案を得るためには、情報技術の活用が不可欠です。

▶ 生涯学習力

在学時に学んだ基礎を基に、卒業後も常に学び続けることが、特に情報学、情報技術のように常に発展し続ける世界では必要となります。そのために、在学時においても、自ら主体的に学ぶ能力を身に付けていく必要があります。

以上の能力を必ず身に付けて卒業できるようにしなければなりません。本学部の専門必修科目・選択必修科目が、どの能力を身に付けるのに関わっているかを示すカリキュ

ラムマップを示します。この表にしたがって、必要とされる能力を主体的に身に付けるようにしてください。

科目名	学年	必修/選択必修	コミュニケーションスキル	数量的スキル	論理的思考力	情報技術	問題解決力	生涯学習力
専修大学入門セミナー	1	必修	◎		○		◎	◎
リテラシー演習	1	必修	◎		◎		○	◎
情報と社会	1	必修	◎				○	◎
ネットワーク情報総論1	1	必修			○	◎	○	
ネットワーク情報総論2	1	必修	○		○	◎		
コンピュータとネットワーク	1	必修		◎	○	◎		
デジタルデータ基礎	1	必修		◎	○	◎		
情報表現演習	1	必修	◎			◎	○	○
情報分析基礎	1	必修		◎	○		○	
情報分析演習	1	必修	○	◎	○	◎	◎	
プログラミング演習1	1	必修		○	◎	◎	○	
数理リテラシー	1,2,3,4	選択必修		◎	◎			
線形代数	1,2,3,4	選択必修		○	◎			
基礎解析	1,2,3,4	選択必修		○	◎			
インタラクションデザイン基礎演習	2	選択必修	◎			◎	◎	
ソフトウェア開発基礎演習	2	選択必修	○	◎	◎	◎	◎	
データ分析基礎演習	2	選択必修		◎	○	◎	◎	
応用演習(コンテンツデザイン)	2	選択必修	◎			◎	◎	○
応用演習(メディアプロデュース)	2	選択必修	◎		○	◎	◎	○
応用演習(ネットワークシステム)	2	選択必修	◎		◎	◎	◎	○
応用演習(フィジカルコンピューティング)	2	選択必修			○	◎	◎	
応用演習(経営情報分析)	2	選択必修	○	◎	○	○	◎	
応用演習(ITビジネス)	2	選択必修	◎		○	○	◎	○
応用演習(社会情報)	2	選択必修	◎	○			◎	○
応用演習(情報数理)	2	選択必修		◎	○	◎	◎	
プロジェクト	3	必修	◎	○	○	◎	◎	○
情報キャリアデザイン	3	必修			○	○	○	◎

◎ 主要な項目として扱っていて、評価対象としている
○ 扱っていない

情報学の基礎を作る1年次

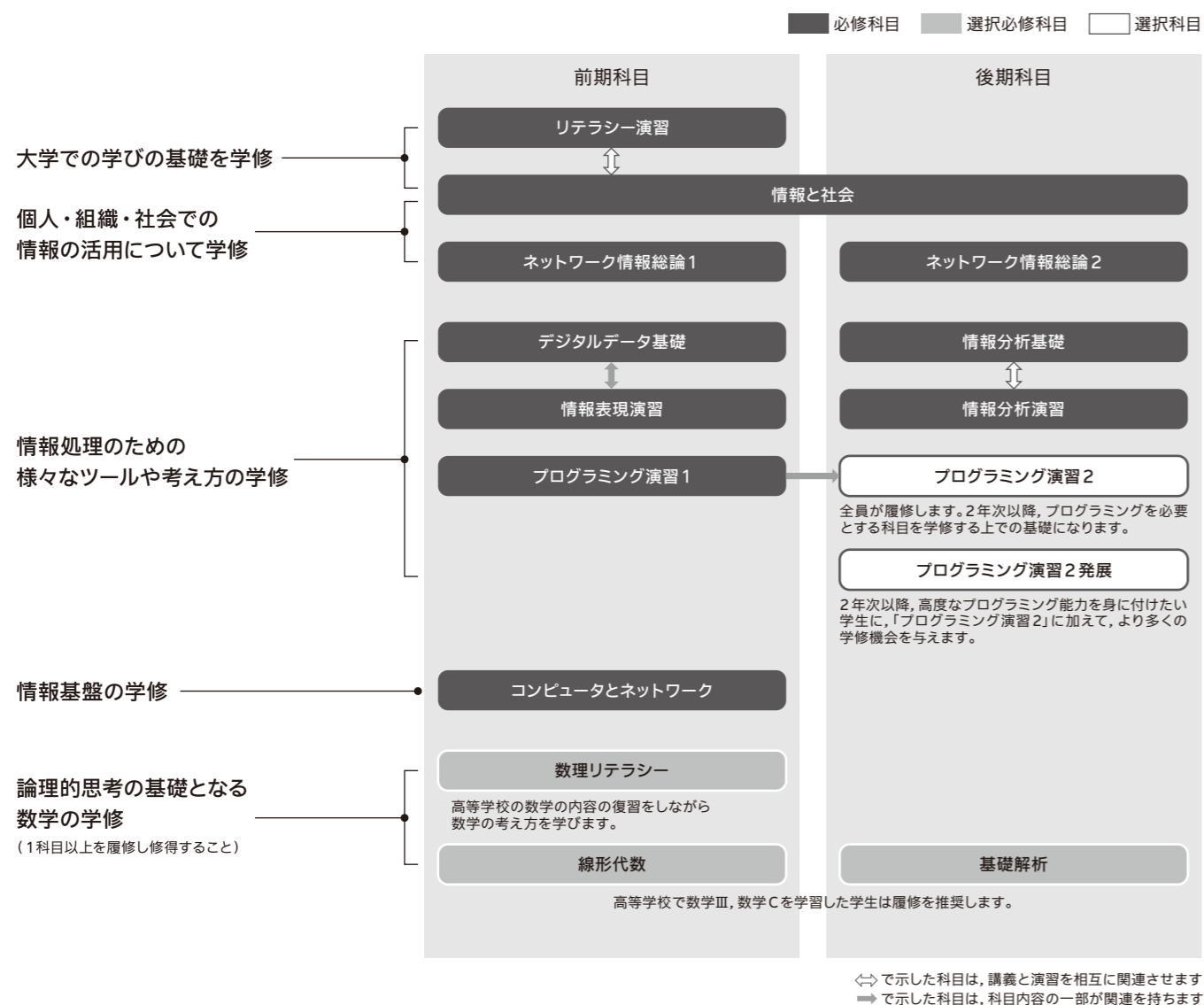
ネットワーク情報学部では、皆さんが情報学の基礎を幅広く学べるように、1年次に10科目(20単位)の必修科目を用意しています。

これらの科目内容は、2年次以降の専門科目の基礎となる科目ですので、どれもおろそかにすることはできません。数学に

関連する科目は、基礎的な「数理リテラシー」を標準としますが、高等学校で数学を十分に学習してきた学生は、線形代数、基礎解析を最初から学ぶことができます(数理リテラシーは、線形代数、基礎解析を履修するための前提条件ではないので同時に履修することもできます)。

コンピュータやインターネットを用いて情報処理をするためには、その動作原理、情報処理を活用する対象(個人・組織・社会)の理解、情報処理をさせるために必要となる論理的思考のツールなど、文系・理系にまたがる幅広い知識やスキルを身につけな

ければなりません。多くの学生にとって、すべての科目が得意であることは難しいことですが、友達同士教えあって、お互いの能力を高めるように努めましょう。



大学での学びの基礎を学修

個人・組織・社会での情報の活用について学修

情報処理のための様々なツールや考え方の学修

情報基盤の学修

論理的思考の基礎となる数学の学修
(1科目以上を履修し修得すること)

2年次への進級要件

専門科目 18単位以上修得
 うち専門必修科目 14単位以上修得

情報利用者の視点から情報サービス提供者の視点へ

1年次生の中には、「情報学を学ぶこと＝パソコンやインターネットの使い方を学ぶこと」と単純に考えている人が多くいます。このような知識は、どの専門分野でも求められる基礎的な情報リテラシー能力であり、情報学を専門とするネットワーク情報学部生にとっては、さらに進んだ能力が求められています。皆さんが便利に使っているインターネット上の様々なサービスは、誰かが企画し、誰かが実際に

作成しています。またそのサービスでは、皆さんが利用した履歴が残され、その履歴データから、さらに皆さんにとって便利なサービスへ改善されていきます。ネットワーク情報学部を卒業する学生に求められる能力は、このような社会生活全般で役立つ、インターネットや情報を活用した新しいサービスを創出し提供することなのです。

個人・組織・社会での情報の活用についての学修

企業のような主として営利を目的とした組織体、生活を営む個人、共同体である社会いずれもが情報に基づいて行動しています。またネットワークを通じて情報を交換・共有することで、より良い行動をするように努めています。この分野に関

連する科目では、具体的に個人・組織・社会で、どのような情報を扱い、どのような情報技術を活用しているのか、そしてそこにどのような職業があり、そのためにはどのような能力が必要になるのか学修していきます。

情報処理のための様々なツールや考え方の学修

個人・組織・社会での問題を、実際にコンピュータで処理をして解決する際に必要となるのが、データや情報の分析をするための統計的な手法、コンピュータに動作の命令をするためのプログラミング、情報を人間のわかる形に表現するた

めの情報表現、コンピュータがデータを取り扱うためのデジタルデータ表現の知識です。講義だけではなく演習科目をセットにすることで、知識だけではなく、コンピュータソフトを使って活用できるスキルも身につけます。

情報基盤の学修

情報処理の様々な手法を学んだとしても、実際のコンピュータやネットワークの能力や可能性を知らなければ、実際に考えた問題解決手法やサービスを展開でき

ない可能性があります。コンピュータとネットワークの動作原理を知り、そこからどのようなことができるものなのか理解できるようにします。

論理的思考の基礎となる数学の学修

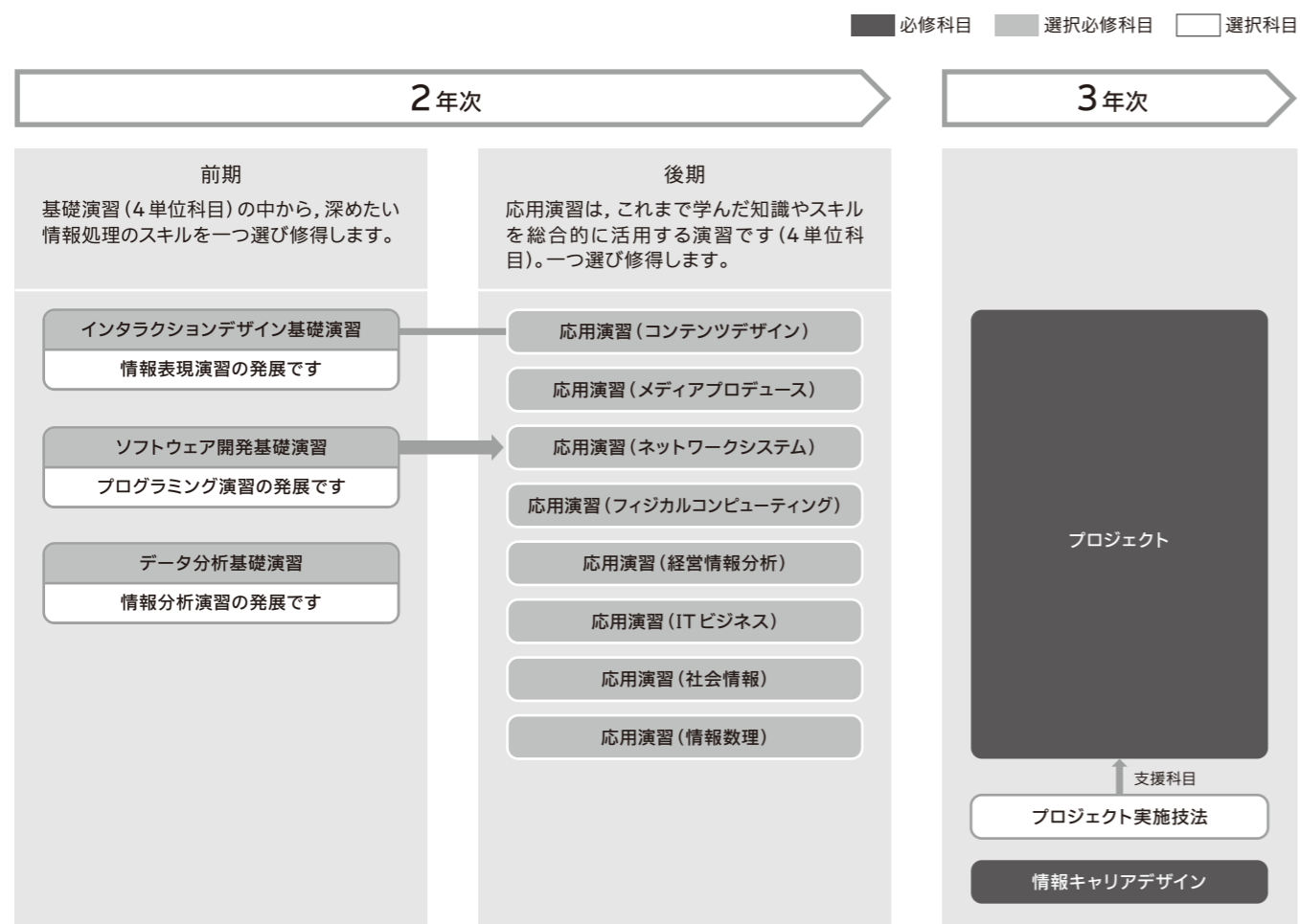
コンピュータは、論理的な計算のもとに動作するものです。人間がやらせたい仕事をコンピュータにさせるには、人間がまず論理的な思考方法を身につけて、それを元にコンピュータへ仕事の命令をし

ていく必要があります。本学部では、高等学校での数学学習履歴に応じて学修できるよう、より基礎的な内容からスタートする数理リテラシーという科目を用意しています。

基礎演習, 応用演習 (2年次選択必修演習科目)

2年次前期の基礎演習では自ら選んだ情報処理のスキルを高め、さらに後期の応用演習ではそのスキルを総合的に活用できるようにしていきます。身につける能力は、3年次の演習プロジェクトを遂行するために必須となるものです。これらの演習

科目の目標は高いので、時間外の学修時間も多く必要となってきます。単なる一つの授業と考えずに、自分の持てる力と多くの時間を割いて、自らの能力を磨いていきましょう。



- 「プロジェクト」を履修するためには、基礎演習又は応用演習のうち、1科目以上単位修得していなければなりません。
- 応用演習 (コンテンツデザイン) を履修する人は、インタラクションデザイン基礎演習を修得する必要があります。
- 応用演習 (ネットワークシステム) を履修するためには、ソフトウェア開発基礎演習を修得していなければいけません。
- 応用演習には履修人数上限 (40名) があります。詳しいことはガイダンスを実施して説明します。
- プログラム (33~34ページ) を修了したい学生は、括弧内に修了したいプログラム名がある応用演習を履修してください。
- 4年次では、より専門的な学修をしたい人のための卒業演習が用意されています。基礎演習, 応用演習は、3年次以降、二つ目を履修することができます。履修人数制限があります。詳しいことはガイダンスを実施して説明します。

2年次の演習科目に関連するスケジュール



プロジェクト（3年次必修科目）

「プロジェクト」とは、あるテーマに対して担当教員（複数の場合もあります）と10名程度の学生がグループ（チーム）を組み、1年間かけて研究・開発の共同作業を行うもので、3年次の必修科目です。

「プロジェクト」では、問題の設定及び問題解決のプロセスの立案と遂行すべてに対して、学生たちが主体的に関与するという点で大きな困難を伴います。困難を乗り越えてやり遂げることで、大学時代の学修の一つの集大成となる科目です。

5つの目的

- ネットワーク情報学部では、プロジェクトという科目を以下のようにとらえています。
1. 学生・教員から提案された多様なアイデアに基づいて、問題発見・テーマ設定を行い、[創造性、問題解決型]
 2. 調査、分析から実践、評価、報告に至るスケジュールを設定し、[総合的な能力の開発]

3. 諸学術の理論やテクニックを活用して、[横断的な知識の再編成]
4. 主として共同作業によって[情報の共有、活用とコミュニケーション]
5. 調査や研究、作品制作を行い発表する。[成果物の公開]

テーマが決まるまで

2年次の夏休み前後から、次年度プロジェクトのグループとテーマを決めるための準備が始まります。具体的な学修内容が事前に定められていないことがこの科目の特徴です。「1年間かけてどのようなテーマを自分は追究したいのだろうか」と自問するところから、皆さんのプロジェクトは実質的に始まると言っても良いでしょう。個人的に関心の深いテーマが授業内容として公認され得るという意味で、大学生活の中でも希少な機会の1つだと思います。

やりたいテーマが決まったとしても、それに賛同してくれる仲間や担当する教員が見つからなければグループが成立しません。賛同者を募るには多くの人にアピールする必要があります。しかし、例えば、自己主張ばかりで協調性がないということだと人は集まってくれないでしょう。また多くの仲間が集められても、大学の科目内容としての価値が認められない場合も成立しません。教員や外部組織からもいくつかのテーマが出され、最終的には20強のテーマが決定されます。

メンバーとしての心構えと養う能力

プロジェクトテーマは、何らかの目的を果たすために、必要な機能や価値をソフトウェアやコンテンツとして実現したい、あるいは、ある事柄や現象を深く知るために調査・実験・分析したいという皆さんの欲求から出発したものであり、既存の1つの学術分野に収まることは少ないでしょう。必要に応じて様々な理論やテクニックを自ら探し、それらを統合的に活用する必要があるでしょう。アイデアを出し、工夫しながらグループワークに積極的に関わり、皆さんの個性と強みを最大限に生かしてください。

調査、分析から実践、評価、報告に至る活動を確実に進めるための計画や進捗管理、そして適度で公正な役割の分担といった組織運営も各グループに任されています。共同作業な

ので、何より各人が責任感を自覚し、決められた仕事を期限内に仕上げるよう努力すること、そして、チームワークや人間関係も成果を左右する大きな要因でしょう。この点で（教員も含む）メンバー間の円滑なコミュニケーションを図ることも大切です。このような能力を高めてもらうこともこの科目の狙いです。

最終成果物は、外部からの一般参加者も含めた発表会やウェブコンテンツなどで公開します。学部の教育内容や雰囲気を外部的に、より広く知ってもらおうとともに、学外からの意見やアドバイスをより直接得られる機会ともなります。皆さん一人ひとりが学部を代表しているのだという自覚と、最後までやり抜くという気概をもってプロジェクトに参加してほしいと思います。

プロジェクトのスケジュール

2年次

11月

テーマの募集

プロジェクトは、テーマの異なる20余りのグループが作られます。どのようなテーマでプロジェクトを実施するのかは、学生が提案するもの、教員が提案するもの、外部組織が提案するものな

どがあります。3~5名程度の起案者による学生テーマは、担当教員が見つければ提案することができます。

12月~1月

メンバーの募集

プロジェクト募集委員会に認められたテーマを掲示し、参加学生を募集します。10名程度の学生が集まれば、メンバーが決定されます。メンバー決

定後は、春休み期間を含めて、自主的に調査・学修活動を行うことが多く見られます。

3年次

4月~7月

プロジェクトの具体的な企画内容の策定

テーマに基づいて、現状調査を行い、具体的な問題解決案を計画していきます。調査を行う過程で、テーマをより具体的に絞っていきませんが、より本質的な問題は何か、実行可能な対象は何か

のかを考えることで、予定していたテーマを見直すといったこともあります。策定した企画は、7月下旬に行う中間発表会で、公開発表をして、様々な人に意見をもらいます。

8月~11月

企画の具体的な実現

中間発表会で得られた意見を元に企画を修正し、その後、具体的な実現手段を検討していきます。コンピュータとネットワークを利用し実際に使用できるシステムを構築することもあれば、ビジ

ネスプラン、空間設計、説明動画など多様な表現方法が考えられます。アイデアを最も効果的に示す手段を選んで実現していきます。

12月~3月

成果の外部への発表と公開

12月には、キャンパス内で公開発表会を開き、在学生全員、企業などの外部の人に成果を説明します。発表会に来られない人たちのために、Webページに同時にその内容を公開します。学生たち

の自主的な展示発表会である「コウサ展」や学会での発表、各種展示会での発表、社会での実証実験など、様々な機会で自分たちの成果を示していきます。

プロジェクトのテーマ

過去のプロジェクトのテーマは学部のWebページに公開しています。プロジェクトのテーマはそのときどきの旬の内容を扱っています。過去のテーマは参考になるかもしれませんが、皆さんがプロジェクトのテーマを考えるときには新たな気持ちで考えることになるはずです。

専門科目(選択科目)

皆さんの履修のガイドとなるように、科目をいくつかのグループに分けて紹介します。
科目間の具体的な関連は、Web 講義要項(シラバス)に記載されますので、参照してください。

- これまで専門科目として、必修科目、選択必修科目(数学科目、基礎演習、応用演習)について紹介してきました。ここでは、選択科目として履修できる科目(1科目2単位)を紹介します。
- 卒業するためには、73 ページに示す専門科目(選択科目)の中から40単位以上修得しなければなりません。40単位を超えて修得した専門科目(選択科目)の単位は、自由選択修得要件単位として認められます。

- 特に注釈がない限り、2~4年次で履修できます(▽は2~3年次配当、▲は1~4年次配当、■は3~4年次配当)。
*がついている科目は2~4年次配当となっていますが、3年次以降履修することが推奨されます。
- 一部の科目は、前提となる知識が必要となるものがあります。
- 科目名に1,2とつけられている科目は、注釈がない限り、番号順に履修することが求められています。

モデリング方法論

コンピュータ上で様々な事象を処理できるように、数学を活用してモデル化することを学ぶ科目です。

- 経済のモデル(マクロ経済学)
- 経済のモデル(ミクロ経済学)
- シミュレーション
- ゲームの理論
- *動的モデル
- 数理計画法

応用モデル

具体的な応用領域を対象として、それがどのようなモデルでシステムとなっているのか学ぶ科目です。

- 戦略のデザイン
- *モデル分析
- 認知科学
- *学習科学
- 政策科学

情報と人間, 社会

情報の様々な側面が、社会の活動にどのように影響を与えているのか学ぶ科目です。

- 環境と情報
- ネットワークコミュニケーション
- 社会情報
- 情報と法
- 学習環境のデザイン

デザイン方法論

情報を分かりやすく伝えるための方法や情報に形を与えて表現することを学ぶ科目です。

- グラフィックデザイン
- Webデザイン
- マニュアルライティング
- 情報デザイン
- ユーザインタフェース

コンテンツとメディア

エンターテインメント産業やネットワーク情報の内容など、人々に情報を伝えることを学ぶ科目です。

- *コンテンツマネジメント1
- *コンテンツマネジメント2
- 教育とメディア
- 情報商品
- メディア論
- マスコミュニケーション論

メディア表現

出版・映像・ネットコンテンツなど様々なメディアを、目的と対象者に応じてプロデュースすることを学ぶ科目です。

- マルチメディア表現技法
- 映像表現
- アニメーション
- メディアコンテンツ制作

会計と経営

企業の会計システムが、経営判断や意思決定にどのように関わるのか学ぶ科目です。

- 会計システム(財務会計)
- 会計システム(管理会計)
- *財務諸表論1
- *財務諸表論2
- 経営学入門1
- 経営学入門2
- 経営分析

ビジネス

ビジネス活動を理解したり、情報を活用したビジネス戦略を学ぶ科目です。

- ビジネスゲーム
- *ファイナンスプランニング
- *ネットワークとマーケティング
- マーケティング
- *ビジネスプロセスデザイン
- プロジェクトマネジメント

情報システム

情報技術を活用して企業活動をサポートする情報システムについて学ぶ科目です。

- サービス情報システム
- 企業情報システム
- 情報システム管理
- 情報リスク管理

データ分析

データを分析するための様々な手法を学ぶ科目です。

- データ解析1
- データ解析2
- 応用確率統計
- データマイニング

数 学

数学は情報学にとどまらず、様々な学問分野でその仕組みを表すための共通の言語及び思考ツールです。

- ▲線形代数
- ▲基礎解析
- 情報数学1
- 情報数学2
- 幾何学概論
- 数学セミナー

情報英語

情報社会や情報技術について学ぶ上で必要な英語力をつけるための科目です。

- ▲情報英語入門
- 情報英語基礎演習
- 情報英語応用演習(情報社会)
- *情報英語応用演習(情報技術)
- *情報英語応用演習(英語表現)

ソフトウェア開発

様々なソフトウェアを開発するために必要となる手法を学ぶ科目です。

- オブジェクト指向技術
- 情報システム開発概論
- フィジカルコンピューティング
- 分散情報システム
- データベース
- *システムモデリング
- アプリケーションプログラミング

アルゴリズム

プログラムとして計算できるようにするために必要となる手順や効率に関して学ぶ科目です。

- アルゴリズムとデータ構造1
- アルゴリズムとデータ構造2
- テキスト処理
- 計算理論
- 情報理論

アーキテクチャ

コンピュータやネットワークを動かす基盤となるハードウェア及び基本ソフトウェアを学ぶ科目です。

- *ITイノベーション史
- パソコンアーキテクチャ
- オペレーティングシステム
- UNIX
- データ通信
- インターネット情報システム
- フィジカルコンピューティング開発論

特殊講義

新しいテーマを取り上げた講義や演習科目です。科目名の後ろに括弧付きで実際の内容が表されます。開講内容が変わりますので、毎年確認するようにしてください。

- *特殊講義
- *特殊演習
- *寄付講義

卒業演習

卒業演習は4年次開講科目で、指導教員の指導のもと行う演習科目です。卒業演習1は前期、卒業演習2は後期で、連続して受講することができます。卒業演習3,4は、特に必要と認められた場合に履修できます。

- 卒業演習1
- 卒業演習2
- 卒業演習3
- 卒業演習4

共 通

様々な指向性をもつ学生たちにとって共通に興味を持つことができる科目です。

- *プロジェクト実施技法
- ▽企業研修

目的指向のプログラム制

プログラム制の目的

プログラムは、情報学における典型的な学問分野、情報に関連する職業像にあわせて8つ用意されています。将来の目的にあわせて、より高度な情報学を身につけたい学生にとって、プログラム制は有意義なものです。

プログラムごとに指定する必修科目及び選択必修科目あわせて34単位を修得

すれば、それぞれのプログラムを修了することができます。

このページでは、8つのプログラムを一覧できる情報を用意しています。個々のプログラムの詳細は、後述の35~50ページを見てください。

※72~73ページに示す卒業要件を同時に満たす必要があります。

プログラムを修了するためのステップ

各プログラムで指定される基礎演習、応用演習を2年次で履修することがスタートとなります。3年次においても受講人数に余裕がある場合に履修が認められます。卒業演習は4年次に履修するもので、教員の指導のもと演習を行います。半期2単位分でプログラム修了要件を満たしますが、より高度な学修をするためには多くの単位(最大8単位分)の演習を行うことが望まれます。

専門科目は指定された科目の中から

12科目以上履修しなければなりません。また、プログラムには必修科目が指定されています。どのように科目を履修していくことが望ましいかは、各プログラムのページに記載しています。

演習科目は、その科目の性質上、受講人数に限りがあります。詳細は、プログラム制に関するガイダンスで示されます。ガイダンス実施の掲示が教務課掲示板に出ますので、見逃さないようにしてください。

プログラム名	PROGRAM 01 コンテンツデザイン [CD]	PROGRAM 02 メディアプロデュース [MP]	PROGRAM 03 ネットワークシステム [NS]	PROGRAM 04 フィジカルコンピューティング [PC]	PROGRAM 05 経営情報分析 [MI]	PROGRAM 06 ITビジネス [IB]	PROGRAM 07 社会情報 [SI]	PROGRAM 08 情報数理 [IS]	情報英語 副プログラム [IE]
基礎演習 4単位	インタラクションデザイン 基礎演習	いずれか1つ	ソフトウェア開発 基礎演習	いずれか1つ	いずれか1つ	いずれか1つ	いずれか1つ	いずれか1つ	
応用演習 4単位 (括弧内がプログラム名と同じもの)	応用演習 (コンテンツデザイン)	応用演習 (メディアプロデュース)	応用演習 (ネットワークシステム)	応用演習 (フィジカルコンピューティング)	応用演習 (経営情報分析)	応用演習 (ITビジネス)	応用演習 (社会情報)	応用演習 (情報数理)	
卒業演習 2単位	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	卒業演習1又は卒業演習2	
専門科目 24単位	ユーザインタフェース グラフィックデザイン 情報デザイン 以上3科目必修 認知科学 情報と法 ネットワークコミュニケーション ネットワークとマーケティング データベース インターネット情報システム Webデザイン マニュアルライティング コンテンツマネジメント1 教育とメディア 学習環境のデザイン マルチメディア表現技法 メディア論 特殊演習(デザインサーベイ)	会計システム(財務会計) マーケティング コンテンツマネジメント1 グラフィックデザイン 映像表現 以上5科目必修 情報と法 情報リスク管理 Webデザイン コンテンツマネジメント2 マルチメディア表現技法 メディア論 アニメーション メディアコンテンツ制作 マスコミュニケーション論 情報デザイン 特殊演習(映像) 特殊演習(デジタル映像表現) 特殊講義(プロダクトデザイン) 特殊講義(シナリオライティング) 特殊講義(映像コンテンツ文化)	オブジェクト指向技術 データベース インターネット情報システム 情報システム開発概論 アルゴリズムとデータ構造1 以上5科目必修 プログラミング演習2発展 ユーザインタフェース データ通信 UNIX アルゴリズムとデータ構造2 テキスト処理 分散情報システム システムモデリング 企業情報システム 情報システム管理 情報数学1 情報数学2 情報英語応用演習(情報技術) 情報英語応用演習(英語表現)	フィジカルコンピューティング開発論 フィジカルコンピューティング アルゴリズムとデータ構造1 オブジェクト指向技術 以上4科目必修 アルゴリズムとデータ構造2 情報システム開発概論 分散情報システム ITイノベーション史 パソコンアーキテクチャ オペレーティングシステム データ通信 グラフィックデザイン ユーザインタフェース マルチメディア表現技法 情報英語応用演習(英語表現)	データ解析1 戦略のデザイン マーケティング 経営分析 以上4科目必修 経済のモデル(マクロ経済学) 経済のモデル(ミクロ経済学) シミュレーション ゲームの理論 データマイニング モデル分析 政策科学 会計システム(財務会計) 会計システム(管理会計) データベース 応用確率統計 データ解析2 企業情報システム 数学セミナー	ビジネスゲーム ビジネスプロセスデザイン 企業情報システム 情報システム開発概論 以上4科目必修 経営分析 アプリケーションプログラミング システムモデリング プロジェクトマネジメント ファイナンスプランニング データベース 情報システム管理 ユーザインタフェース マーケティング データマイニング ネットワークとマーケティング データ解析1 会計システム(財務会計) 情報リスク管理	社会情報 データ解析1 ネットワークコミュニケーション 以上3科目必修 認知科学 学習科学 政策科学 情報デザイン 教育とメディア 学習環境のデザイン データ解析2 モデル分析 情報と法 環境と情報 情報リスク管理 情報商品 マスコミュニケーション論 サービス情報システム 特殊演習(質的調査法) 特殊講義(社会情報の諸領域)	線形代数 基礎解析 データ解析1 情報数学1 以上4科目必修 情報理論 ゲームの理論 動的モデル 数理計画法 シミュレーション データマイニング 計算理論 応用確率統計 データ解析2 幾何学概論 情報数学2 数学セミナー	情報英語入門 情報英語基礎演習 以上2科目必修 情報英語応用演習(情報社会) 情報英語応用演習(情報技術) 情報英語応用演習(英語表現) 他に、指定された教養科目 (51ページを参照)

基礎演習、応用演習は1科目が4単位。それ以外の科目は1科目2単位。

Question & Answer

Question 1

プログラムを修了しなくても卒業できますか?
はい。72~73ページに示す卒業要件を満たせば卒業できます。

Question 2

プログラムを修了したことを示す証拠が用意されますか?
卒業証明書、成績証明書に記載されます。

Question 3

卒業演習の演習内容は、どのようなものでも良いのでしょうか?
プログラムの目的とあような内容になるように、指導教員と相談して決めていきます。

Question 4

二つのプログラムを修了することができますか?
はい。そのためには、3年次以降にもうひとつの応用演習を修得しなければなりません。応用演習には、40人の履修人数上限がありますので、人気のあるプログラム用の応用演習を履修できない可能性があります。

PROGRAM
01

コンテンツデザインプログラム

情報技術と認知科学を駆使した、人に優しい情報のデザインを行うことができる人材を育てます。
利用者や利用現場の分析を通して、
ニーズの発見と適切なアイデアを生み出すためのデザインの考え方を実践的に学びます。

学修・教育目標

- 1 コンテンツ制作における基本的な制作技術を体得する。
特に、コンピュータの上だけではなく、積極的に手も足も使った情報収集・表現・伝達の方法を手に入れる。
- 2 適切な情報伝達を評価するための基礎となる人間の認知的な特性、感情的な特性を理解する。
- 3 グループワークや外部組織との交流を通して、協調的な意思決定が行える力、適切なプロセスを踏まえながら創造的活動を推進する力を身につける。
- 4 実世界と情報世界の両方にまたがって、人間の知的活動に関わる問題を発見できる柔軟な視野を獲得する。

1年次で学んでおいた方がよいこと

基礎となる科目は、コンテンツ制作のための情報編集技術、プレゼンテーションなどの表現を学ぶ「情報表現演習」、情報とメディアの特性、コンテンツビジネスの概観を学ぶ「ネットワーク情報総論2」、コンピュータでデータをどのように扱うかを学ぶ「デジタルデータ基礎」です。ま

た、情報を読み解く力と情報を表現する力の両方が必要になりますので、普段から様々なメディアを介して行われる表現に対して、積極的に情報収集し、また、なぜそのような情報表現が行われるのかを分析するよう心がけましょう。

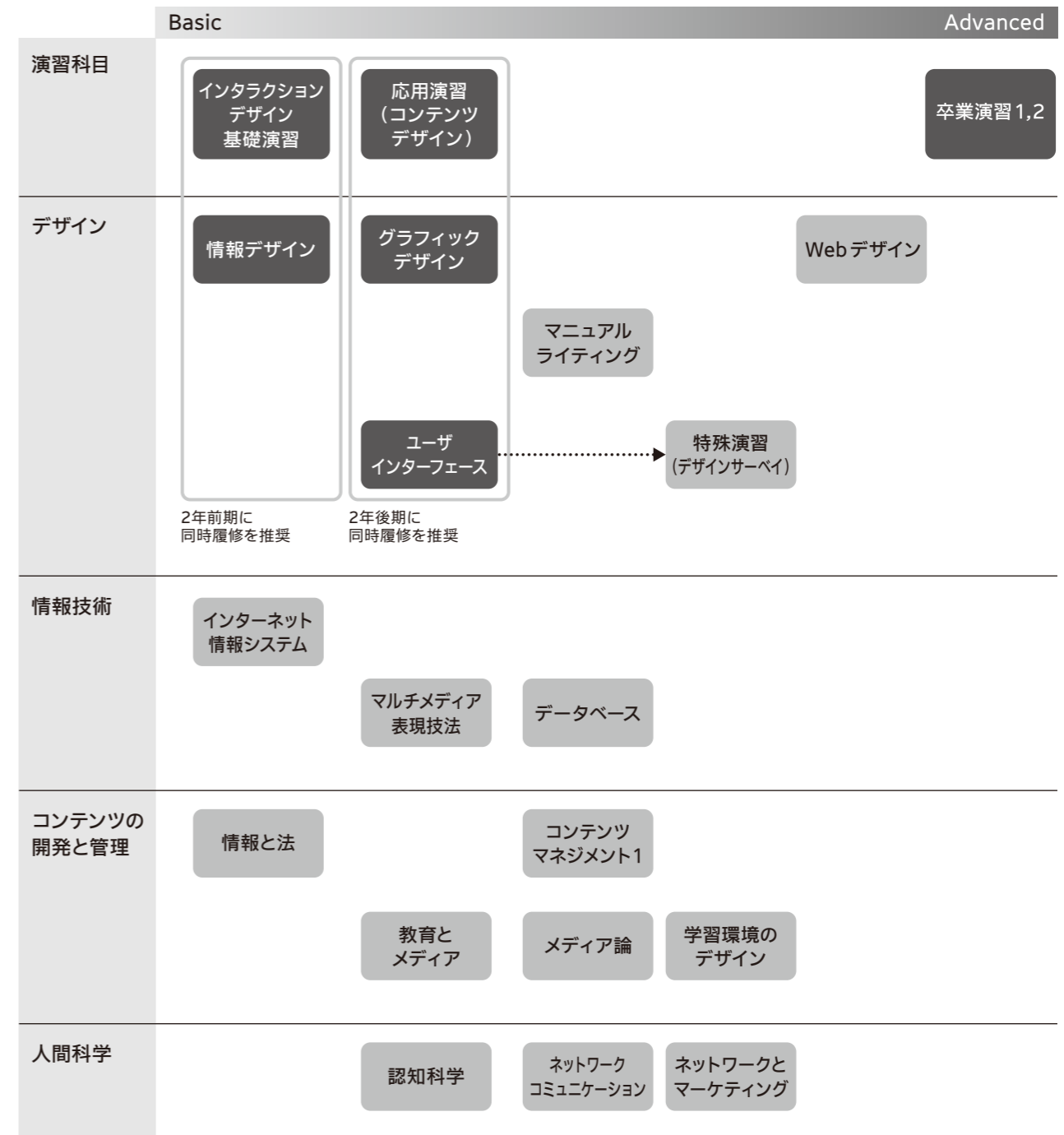
演習の事例・狙い

ターゲットや状況を分析し、対象に相応しい、より豊かな経験をもたらすコンテンツの開発を目指します。各種センサとコンピュータを用いたフィジカル・コンピューティングによるインタラクションの設計と新たなコンテンツの開発、プロダクトとWebコンテンツを連動させた新

たな学習教材の設計開発など、ユーザを中心にそれを取り巻く道具と環境のインタラクションをデザインします。また、合わせて、企画提案、シナリオ作成、プロトタイピング、プレゼンテーションなどの一連の技術を、デザインプロセスを通して学んでいきます。

科目MAP (コンテンツデザイン)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

Webデザイナー、Webディレクター、インタラクションデザイナー、インフォメーションアーキテクト、ユーザビリティエンジニアなど。その他、企業の宣伝・広報セクションを想定しています。人とコミュニケーションをとる仕事全般に広く対応できるはずです。

PROGRAM
02

メディアプロデュースプログラム

デジタル・ネットワーク時代のメディア・コンテンツを有効活用して新たな価値をプロデュースできる人材を育てます。地域社会との連携活動を通じて、メディア・コンテンツの企画開発、プロジェクト管理、知的財産権の処理、会計管理など、メディア・コンテンツを有効活用したプロデュースの考え方を実践的に学修していきます。

学修・教育目標

- 1 コンテンツを下記の4つの位相で理解できるようにする。
(1)メディアとネットワーク環境 (2)表現 (3)ビジネス (4)社会と政治
- 2 コンテンツを送り手として具現化するためのプロセス、条件、人材(スキル)、技術について理解する。
- 3 メディア、ネットワークとコンテンツの社会的、文化的な意味を理解し、未来に向けて価値あるコンテンツを創造するための基礎知識とスキルを身につける。
- 4 コンテンツを制作するために必要とされる企画、コミュニケーション能力、及びプロセスを計画し実行できる能力を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

1年次の必修科目のうち、特に、「情報と社会」、「リテラシー演習」、「情報表現演習」、「ネットワーク情報総論2」の4科目は、メディアプロデュースプログラムを学修するための基本的な知識とスキルを提供するものとなっています。特に文章表現、情報の収集・分析・編集、プレゼン

テーションとコミュニケーションの能力は、この領域で最も必要な力となります。また、新聞・出版・放送など旧来のメディアの世界でも、プログラミング、数理的分析など情報系のスキルが必要となる傾向があることを、念頭において置く必要があるでしょう。

演習の事例・狙い

ひとつのオリジナルコンテンツから、紙媒体、出版物、映像、Web、携帯サイト、インタラクティブコンテンツ、そのほかの商品化プランまでを含むクロス・メディアの展開を、サービスモデルやビジネスモデルとあわせて立案し、グループ単位でプロトタイプを作成することを想定しています。

これらを机上のプランに終わらせないために、専門家へのプレゼンテーションや講評を受ける機会を設け、可能な範囲で外部の企業との連携を図って、そのままサービス化できるような実装モデルの開発を、演習のゴールに置きたいと考えています。

科目MAP (メディアプロデュース)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目

	Basic		Advanced	
演習科目	基礎演習	応用演習 (メディアプロデュース)	卒業演習 1,2	
ビジネス	マーケティング 会計システム (財務会計)		コンテンツ マネジメント1	コンテンツ マネジメント2
			3年次以降の履修を推奨	
デザイン	情報デザイン	グラフィック デザイン	Webデザイン	特殊講義 (プロダクトデザイン)
メディアと 表現	映像表現 マルチメディア 表現技法	メディアコンテンツ 制作 特殊講義 (シナリオライティング)		特殊演習(映像) 特殊演習 (デジタル映像表現)
	2年次前期での履修を推奨	2年次後期での履修を推奨		
	アニメーション	メディア論		
情報と社会	特殊講義 (映像コンテンツ文化) 情報と法	マスコミュニケーション論 情報リスク管理		

卒業後の進路例

出版、映像、放送、ゲーム、アニメーションなどコンテンツ産業の企画職や制作進行として初期キャリアを積んだ後、将来的にプロデューサーや、ディレクターのキャリアが期待されます。また、IT企業の企画開発や広報部門担当者が考えられます。その他に、情報学分野の大学院や専門職大学院に進学し、研究者やより高度な専門家への道も開かれています。

PROGRAM
03

ネットワークシステムプログラム

企業サイドと利用者の2つの視点から、便利で安全な情報システムを提案・開発できる技術者を育てます。情報技術を体系的に学びながら、ソフトウェア開発現場に近い環境で実践的な演習も行います。

学修・教育目標

- 1 組織や社会の問題を解決するために、情報システムで何ができるのか理解できるようにする。
- 2 情報システムを支える情報通信技術 (ICT) を理解できるようにする。
- 3 組織や社会の問題を解決するために、情報通信技術を適切に利用し、情報システムを適切に設計・実現できるようにする。
- 4 より良い情報システムを開発するために必要とされるコミュニケーション能力及びプロセスを計画し実行する能力を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

ネットワークシステムコースで学修する上で基礎となる科目は、プログラミングの基本能力を身につける「プログラミング演習1,2及び発展」、情報通信技術の基本科目である「コンピュータとネットワーク」、情報システムに関する導入科目である「ネットワーク情報総論1」、コン

ピュータやネットワークでデータをどのように扱うべきか知る「デジタルデータ基礎」です。また、論理的なものの考え方、相手にわかる文章の書き方が必要となってきますので、1年次の様々な科目の中で修得するように心がけましょう。

演習の事例・狙い

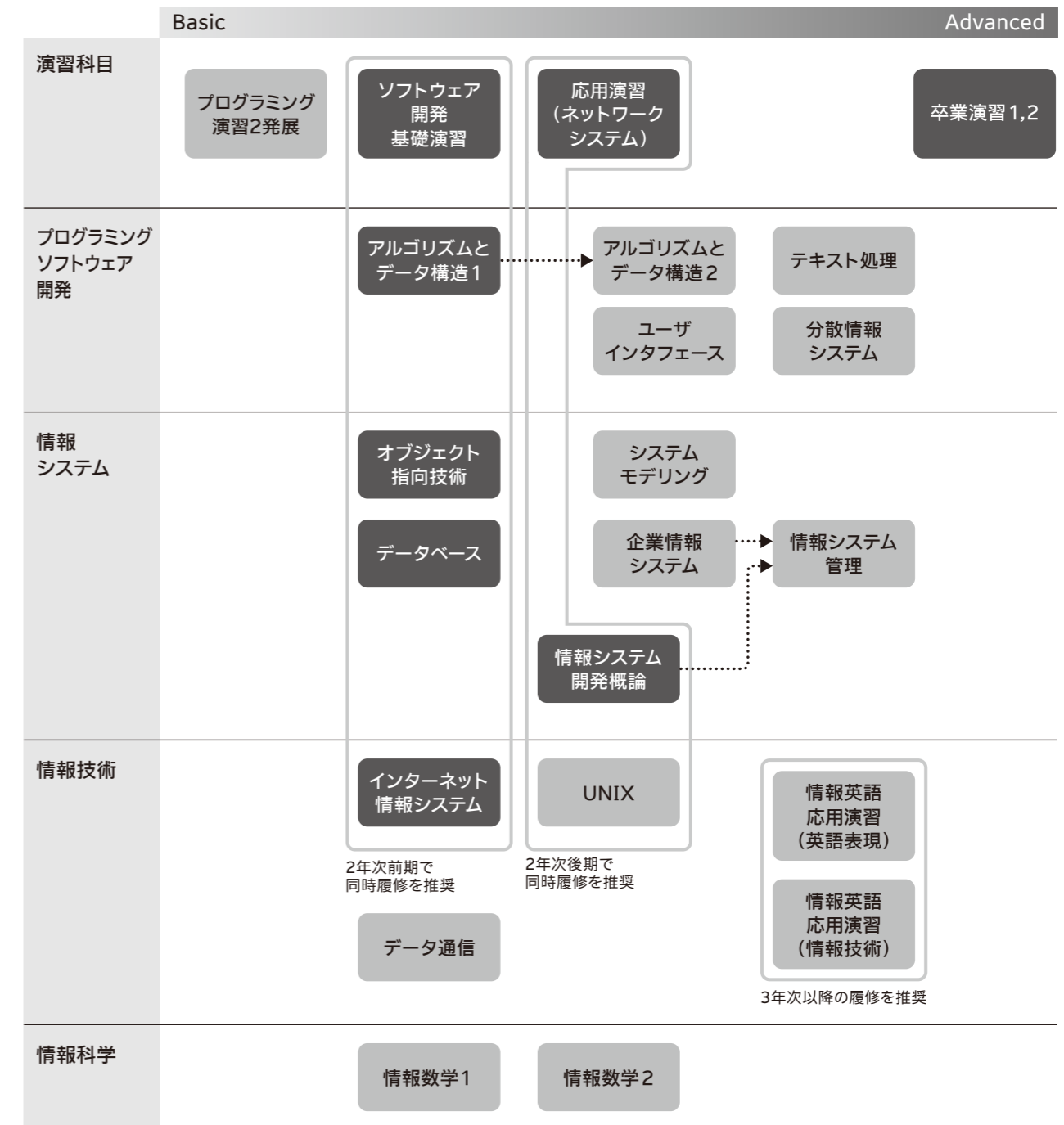
Linuxサーバ上に、Webを利用した仮想的な情報システムを構築し運用していく演習をしています。様々な業務の予約システムを対象としています。

対象業務の改善計画、Linuxサーバのセットアップと運用・セキュリティ対策、Ruby (又は Java, PHP) 言語など

を利用したWebサーバでのプログラミング、UMLによるシステムモデル化、Webインタフェース画面設計、データベース設計、プロジェクトマネジメントなど、ソフトウェア開発技術者にとって必要となる様々な要素を演習に取り入れていきます。

科目MAP (ネットワークシステム)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

システムエンジニア、ソフトウェア開発技術者、ネットワーク技術者、データベース技術者、セキュリティ技術者、ITアーキテクトなど、情報処理技術者試験の対象となる技術者が考えられます。また、情報系大学院に進学し、さらに専門性を高め、より高度なソフトウェア技術の開発者となることが考えられます。

PROGRAM
04

フィジカルコンピューティング プログラム

情報通信技術 (ICT) の急速な進歩により、超小型のCPUとセンサ、それらを自由に結びつけるネットワークが、新しい社会活動を生み出す時代になろうとしています。これからのユビキタス社会に向けて、人間社会に役立つ新しい情報技術を創造しながら、問題を解決できる情報技術者を育てます。

学修・教育目標

- 1 情報とは何か、コンピュータやネットワークで情報をどのようにして扱うのか理解できるようにする。
- 2 組み込みシステムの基盤となるセンサーやモータなどの使い方を修得する。
- 3 組織や社会の問題を解決するために、情報通信技術を適切に利用し、情報システムあるいは組み込みシステムを適切に設計・実現できるようにする。
- 4 情報技術の急速な進歩が、社会にどのような影響を与えているのか理解できるようにする。
- 5 生活や社会の中で新しいICTの活用アイデアを生み出し、システムを実現するために必要とされるコミュニケーション能力及びプロセスを計画し実行する能力を身につける。

1年次で 学んでおいた方が よいこと

フィジカルコンピューティングプログラムで学修する上で基礎となる科目は、プログラミングの基本能力を身につける「プログラミング演習1,2」、情報通信技術の基本科目である「コンピュータとネットワーク」、情報システムに関する導入科目である「ネットワーク情報総論1」、コン

ピュータやネットワークでデータをどのように扱うべきか知る「デジタルデータ基礎」です。また、情報社会の動向「情報と社会」、相手にわかる文章の書き方・発表の仕方「リテラシー演習」などが必要となります。

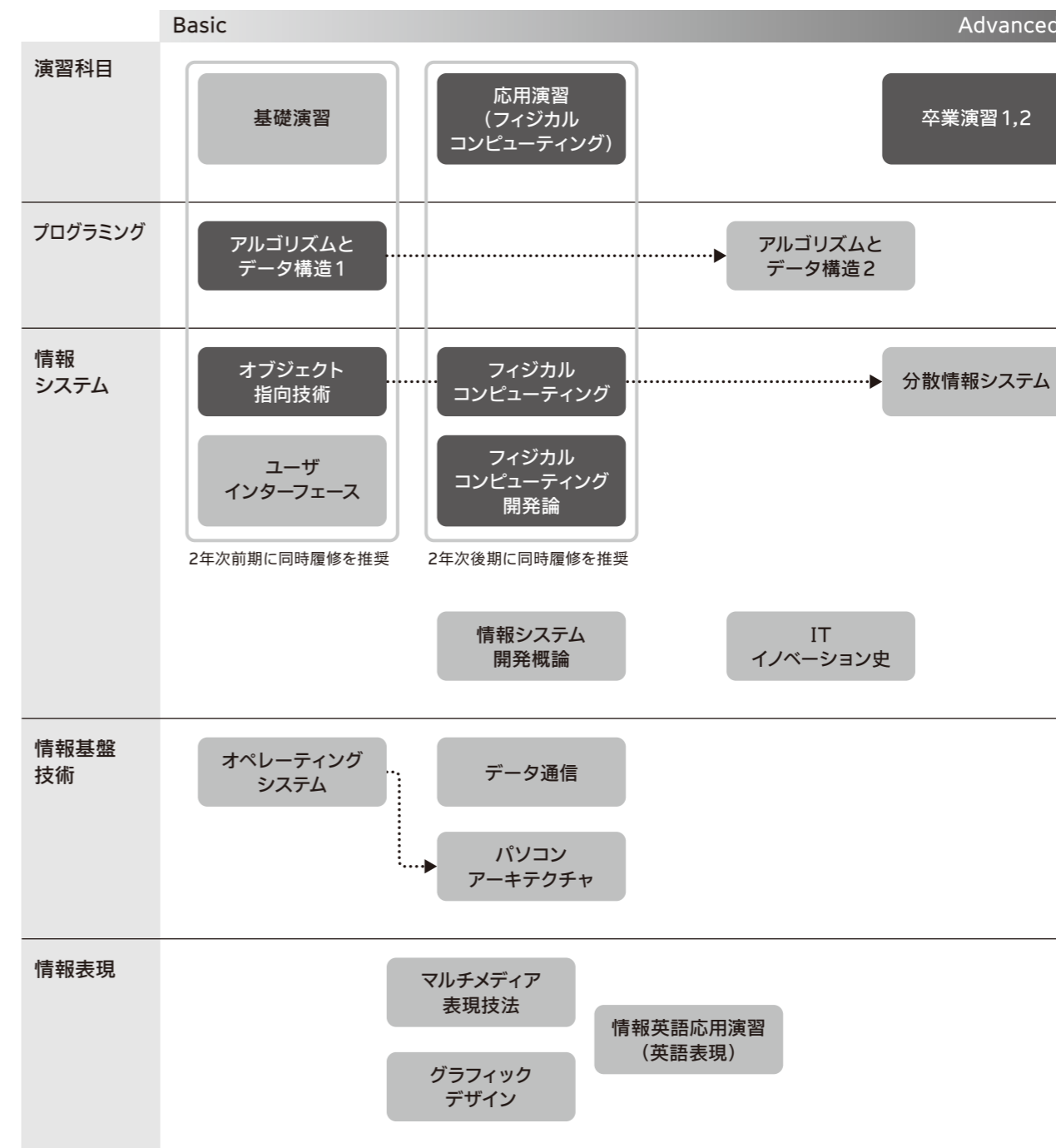
演習の事例・狙い

「マイクロコントローラと電子部品を組み合わせて電子回路を作り、動作させるためのプログラムを書く」という組み込みシステム開発のプロセスを学びます。
ハードウェアからソフトウェアまで、すべてを一貫して取り組めるところに、組み込みシステム開発の難しさと面白さがあります。

演習前半では、LEDの点滅などの基礎から、電光掲示板、モータの回転制御などの様々なテーマを通じて、マイコンでのプログラム開発と電子回路についてゼロから学びます。後半では、前半で得た知識をベースに、電子玩具からメディアアートまで、各自が自分のアイデアに基づき自由に作品を作ります。

科目MAP (フィジカルコンピューティング)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

組み込み・電子玩具などの技術開発職、新製品・新サービスの企画者などのITスペシャリストを想定しています。また、情報系大学院に進学し、さらに専門性を高め、より高度なソフトウェア・ハードウェア技術の開発者となることが考えられます。

PROGRAM
05

経営情報分析プログラム

現代の企業では、データに基づいた戦略的な意思決定の成否が重要になっています。経済や社会、企業や組織に関する理論と、モデリングや統計処理、シミュレーションやデータマイニングなどの情報分析の方法をこのプログラムでは学びます。そして、ビジネスに関連する問題を数理的に分析して課題解決に寄与できる人材を育てます。

学修・教育目標

- 1 個人の行動から企業や組織の戦略、さらには経済や社会全体が動く仕組みの概要を理解できる。
- 2 統計学などデータを扱う理論の基礎を理解し、また実際のデータを処理することができる。
- 3 データや理論を駆使して、組織や企業の経営について提言・分析する方法を身につける。

1年次で学んでおいた方がよいこと

経営情報分析プログラムで学修する上で基礎となる科目は、情報システムの戦略性を理解する「ネットワーク情報総論1」と、統計解析の初歩を学ぶ「情報分析基礎」および情報分析を実際に体験する「情報分析演習」です。経済学・経営学は数式やグラフを利用して経済や企業、消費者の行動を分析しますが、高等学校文系数学科程度の数学力が必要ですので、1年次に数学科目をしっかり履修することを勧めます。また、ICTをとりまく社会や経済、企業の動向に関心を持つことが重要です。教養教育課程では1,2年次に経

済学以外の社会科学基礎関連科目を履修することを勧めます。卒業演習のテーマを考える上でも、ビジネスや社会の課題を把握するためにも、平日頃から新聞などで社会の動向を把握し、自ら調べて深く掘り下げることを勧めます。なお、プログラミングの高度な能力は問われませんが、分析のためにプログラミングを行う場合もあり、「プログラミング演習1,2」で培われる厳密な思考方法・論理的な展開能力はこのプログラムでも大切であるといえます。

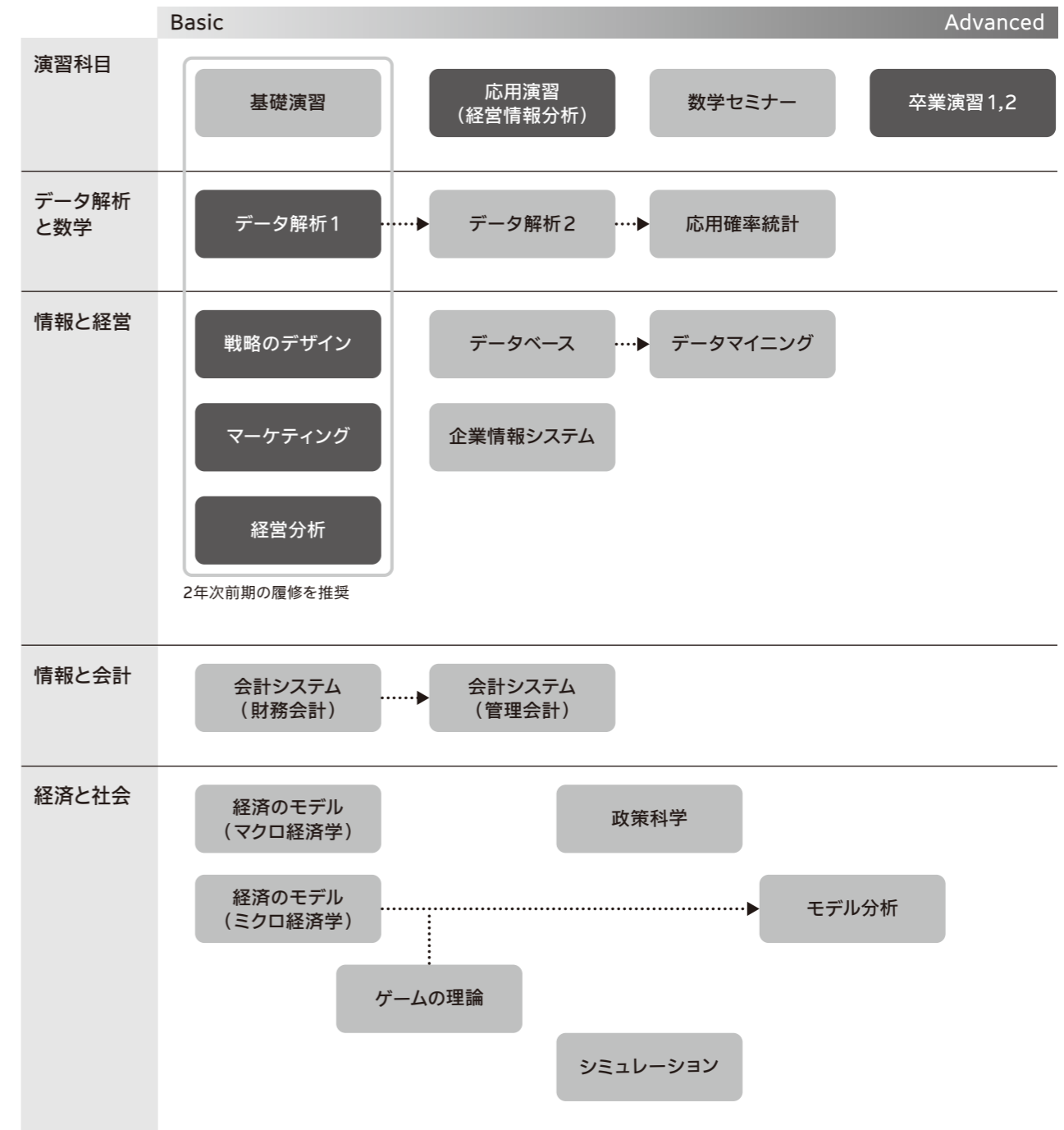
演習の事例・狙い

現実の経済データや企業データをデータベースからとりこんで、各種モデリング手法で分析し、提言にまとめ、発表・討論します。調査など一次データを収集した事例もありますし、シミュレーションソフトで数値解析を行うこともあります。データの分析者には、現実の企業経営の課題を

理解し、それをモデルやシミュレーションを通じて解決する技術とともに、データをハンドリングするための統計解析の理解と、分析結果を分かりやすく表現し伝える能力が必要となります。このプログラムの演習では実際に何度もデータ分析を行うことを通じてそれらを体得します。

科目MAP (経営情報分析)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

データ分析できるシステムエンジニア (SE) やビジネスマンとして活躍し、将来は企業の経営企画セクション、財務セクション、証券アナリスト・ファイナンシャルプランナー (FP) などを目指します。経営系大学院進学にも適しています。

PROGRAM
06

ITビジネスプログラム

最新の情報技術を活用して革新的なビジネスモデルを提案できる人、
すなわち、ビジネスに強いシステムエンジニアまたは情報システムに強いビジネスパーソンを育成します。
具体的には、ビジネス上の問題の分析と情報技術による解決方法 (IT ソリューション) を学びます。

学修・教育目標

ITソリューションを企画・設計するために、情報技術、経営知識、問題解決能力を3本柱とした知識・技術・手法について学びます。

- 1** 情報技術の基礎の修得
最先端の情報技術および現行の情報システムを理解するための基礎技術を修得する。
- 2** 経営知識の基礎の修得
ビジネスを行うための戦略・戦術や業務手順を理解するための基礎知識を修得する。
- 3** 問題解決能力の修得
ビジネス課題を設定し、その解決策を導き、実行するために必要な能力を修得する。

1年次で学んでおいた方がよいこと

ITビジネスプログラムで学修する上で基礎となる科目は次の通りです。
①情報技術関連:「ネットワーク情報総論1」、「情報分析基礎」、「情報分析演習」、プログラミング演習1, 2, 「コンピュータとネットワーク」
②問題解決関連:「リテラシー演習」、「情報と社会」、人文・社会・自然などの様々な科目。

①②で述べた1年次基礎科目をしっかりと学ぶことはもちろんのこと、普段から身の回りのことや社会の問題に関心を持ち問題の構造や解決方法について学修することをお勧めします。なお、経営知識に関する内容については主に2年次以降に学びます。

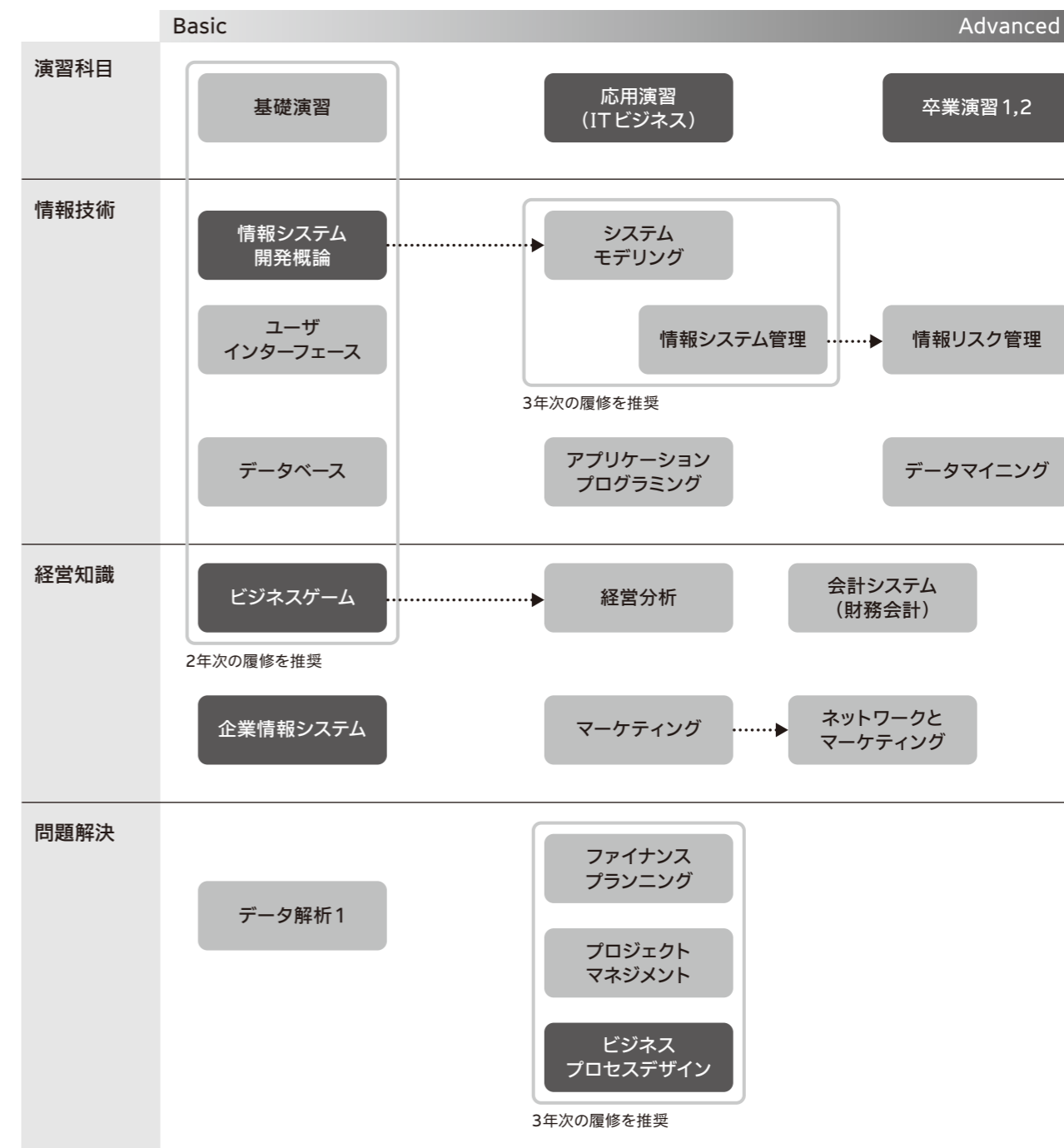
演習の事例・狙い

社会や企業における課題 (自治体や企業から問題を提示されることもあります) に対して、学生がチームを組んでITによるソリューションを提案します。
ITソリューション (ITによる問題解決)

を想定した企画の策定とそのための調査を実践的演習形式で行います。企業における企画セクションのスタッフや開発の上流工程のSE, コンサルタントになったつもりで演習に参加します。

科目MAP (ITビジネス)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

上級システムエンジニア, 経営コンサルタント, システムコンサルタント, 一般企業の経営企画部門, ベンチャー企業の経営などを想定しています。また, 情報系や経営系の大学院に進学し, さらに専門性を高めることも奨励します。

PROGRAM
07

社会情報プログラム

人々や組織、地域が、ネットワークを介してつながることで、新しい市民活動、行政や教育のサービス、企業の社会貢献などが活発になっています。このプログラムでは、対話や交流のための場作りや、情報技術を生かしたネットワーク作りを通して、社会や組織を活発にし、問題解決に貢献できる人材を育てます。

学修・教育目標

- 1 社会や組織における問題を分析・考究するための方法や技術を身につけ、問題を把握し理解することができるようになる。
- 2 人間の認知・学習・コミュニケーションの仕組みを理解して、適切な状況判断や意思決定ができるとともに、人間や組織の成長や変化を支援できるようになる。
- 3 対話やワークショップなど、人と人が出会い交流することによって得られる気づきや発見の場作りを経験し、それを組織作りや社会の問題解決などに生かせるようになる。
- 4 ネットワーク上のつながりや情報共有などにより、効率的なコミュニケーションや情報分析を行い、それを組織作りや社会の問題解決などに生かせるようになる。

1年次で学んでおいた方がよいこと

社会情報プログラムで学んでいく上で、とくに基礎となる科目は、「情報と社会」、「ネットワーク情報総論1」、「ネットワーク情報総論2」です。また、問題の分析・解決技法を修得するために「情報表現演習」、「情報分析基礎」、「情報分析演習」をしっかりと学んでおいてください。さらに、幅広い視座を獲得するために、教養科目も興味のあるものを積極的に受講するとよいでしょう。

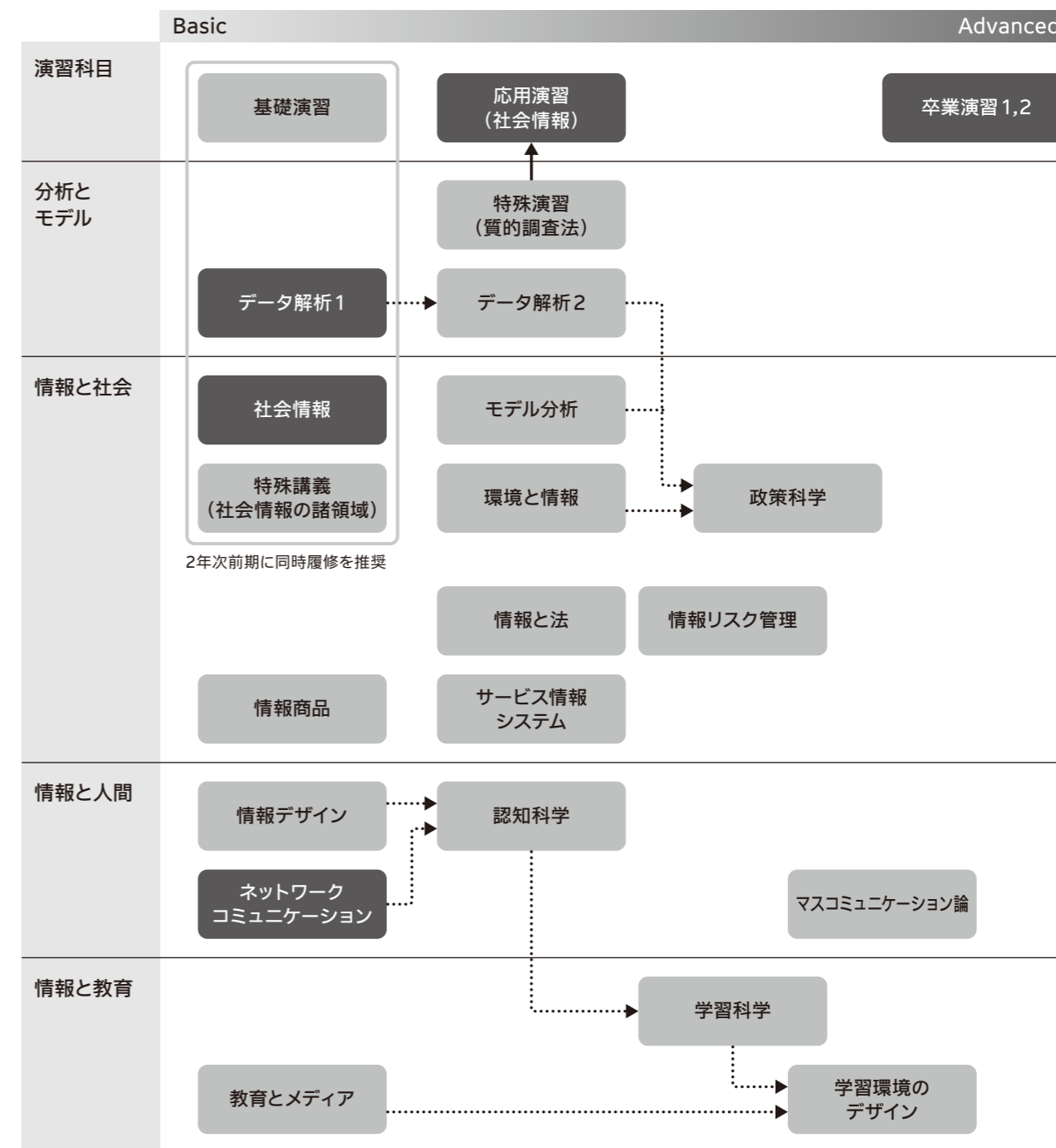
演習の事例・狙い

地域社会や組織・集団と関連したテーマを取り上げて、問題の発見から解決の提案までの過程を体験的に学びます。実際に対象となる組織や人々にアプローチして、問題とその背景を深く探ります。その過程で、人や場に積極的に関わることによって、問題を実感し、詳細に分析し、解決策を見出す力を養います。また、ネットワークによるコミュニケーションや情報共有の手段を生かすことで、効率的に問題の分析や意思決定を行います。最終的に問題を解決するための企画を提案し、テーマによっては、対象とした組織や人々から評価を受けます。

これまでに、学生の視点からの学部の改革提案や、企業が期待する新製品のアイデア、地域の活性化や多様な人々の交流を生み出すための提案などを導き出すためのワークショップを行いました。今後も、実際の人々や組織を対象とした演習を実践的に行っていきます。

科目MAP (社会情報)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

ネット上のコミュニケーションサービスを企画・運営できる人材、教育産業でITを活用した事業の企画ができる人材、地域行政の情報化を推進する人材、NPOやNGOで活躍できる人材、企業からの社会貢献を企画・運営できる人材となることが期待されます。情報と社会にかかわる学際系の大学院へ進学し、さらに専門性を高めることも奨励します。

PROGRAM
08

情報数理プログラム

現代社会では様々な情報技術が活用されていますが、
ものごとを数理的に解明する思考がその基礎にあります。
情報技術を数理的に理解する基礎力と知的好奇心を育成して、卒業後の発展に備えることを目指します。

学修・教育目標

- 1 情報に関する現象や技術の数理的な側面を理解するための基礎を身につける。
- 2 情報技術に関する数理的な考え方・原理を理解する。
- 3 記号列・数値・音声・画像など実際のデジタルデータの処理を、コンピュータで実現する方法を学ぶ。
- 4 卒業までに「線形代数」、「基礎解析」、「データ解析1」、「情報数学1」で学んだ内容を十分に理解することが目標となる。

1年次で学んでおいた方がよいこと

「線形代数」と「基礎解析」は、このプログラムを修得する上で大切な基礎となります。高校数学の復習を含んでいますが、単に知識としてだけでなく考え方に重点をおき、「線形とは何か」、「微分・積分とは何か」という問いに自分で答える

ように心がけてください。なお、「数理リテラシー」は履修しなくてもかまいません。「プログラミング演習1,2」でプログラミングの基礎を身につけておいてください。

演習の事例・狙い

前期に学んだ「データ解析1」「情報数学1」にもとづいて、現代の情報化社会を支える数理技術について学びます。例えば確率行列を用いた数理では、検索エンジンや市場メカニズムの仕組みがある種の行列を用いて数理モデル化できることを学びます。

またファイナンスの数理では、資産配分の数理モデルや金融派生商品の価格

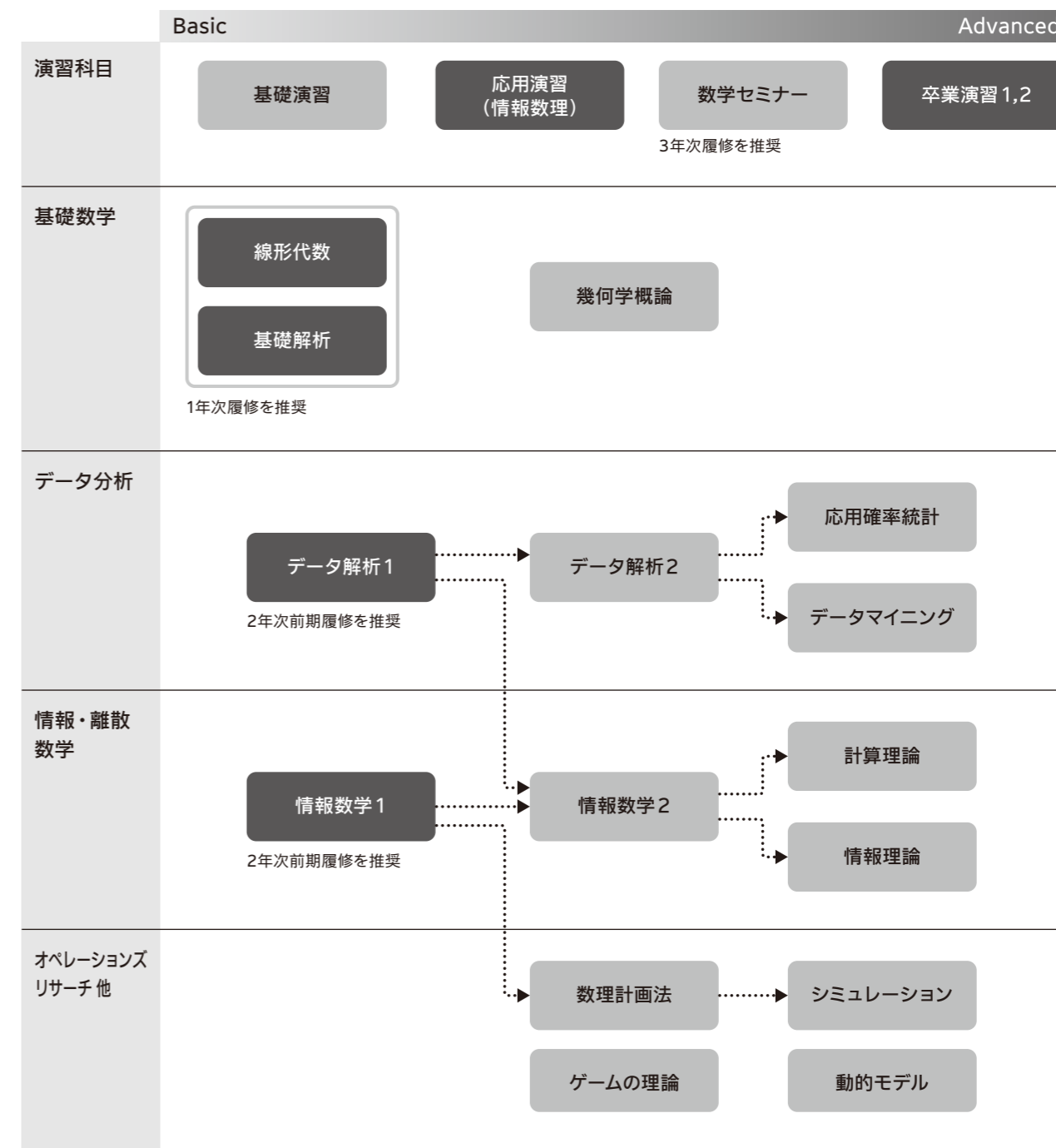
評価法などを学びます。

これらを学んだ後、演習の終盤では、各自で自分の考えた問題に取り組み、結果を発表してもらいます。

この演習を通じて、数学と実社会との関わりを理解することができ、また問題を抽象化して数学モデル上で考える能力を養うことができます。

科目MAP (情報数理)

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



卒業後の進路例

どの職種や業種に進んでも、数理的な思考力を持って新しい問題に挑戦する意欲は歓迎されることでしょう。理工・情報系大学院に進学し、さらに専門性を高めることも考えられます。教科「情報」、「数学」の教職資格を得れば、中学・高校の教員になる可能性もあります。

情報英語 副プログラム

情報に関連する研究, 仕事はグローバルに行われており, そこで広く使用されている言語は英語です。皆さんが獲得する情報に関する能力を, 将来, 様々な場面で発揮するための英語力の基

礎を身につけられるようにします。どのプログラムの修了を目指す学生でも, 情報英語副プログラムをあわせて修了することができます。

学修・教育目標

ネットワーク情報学部で扱う内容に関して, 以下の項目を達成できるようにする。

- 1 基本的な英語で書かれた文章を理解できる。
- 2 基本的な英語で意見を表明できる。
- 3 組織や社会で行われるコミュニケーションを英語で実践できる。

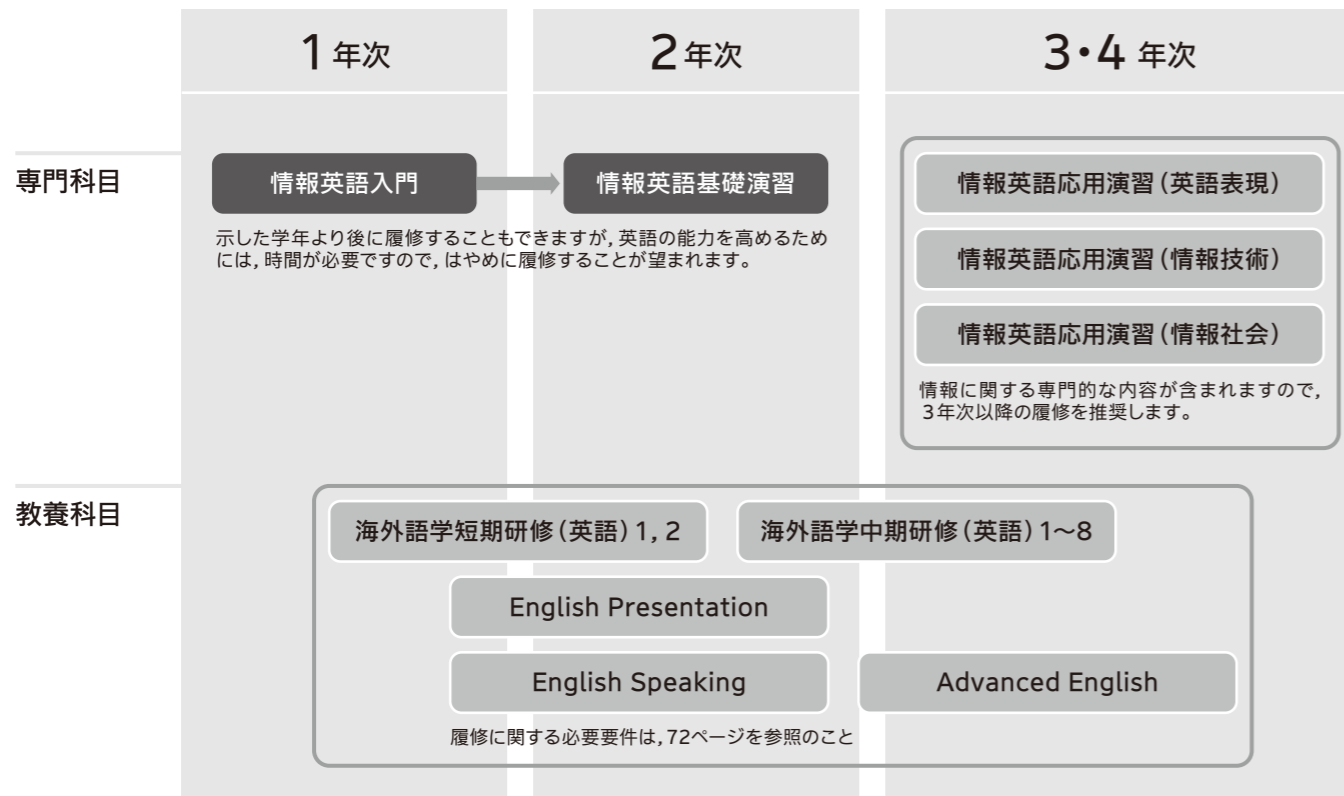
認定要件

下記の科目から10単位履修する。

1. 必修科目 (4 単位)。情報英語入門, 情報英語基礎演習。
2. 専門科目の指定された英語科目から2単位以上。
3. 教養科目の指定された英語科目から2単位以上。

科目関連図

■ 必修科目 ■ 選択必修科目



数学科目の履修の勧め

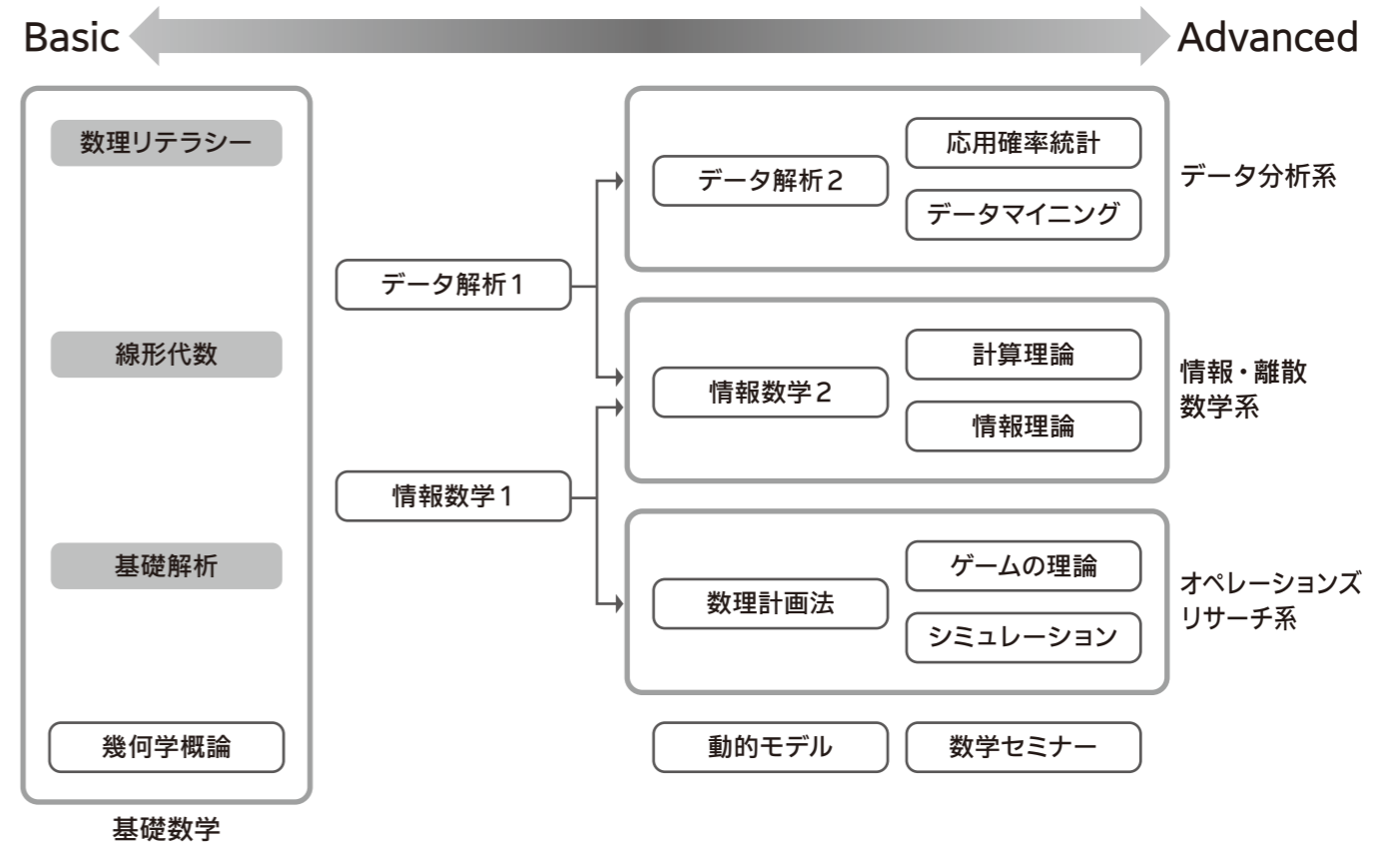
ネットワーク情報学部では数学関連科目を多数展開しています。それはコンピュータのプログラミング言語, データの解析方法, 情報処理技術や理論などを学ぶとき, 数学がベース(共通語)となっているからです。「数学」は諸学の女王(母)と言われる所以です。

本学部では「数学」の教員免許が取得できるように, 幾何学などの基礎科目も学べるように数学の基礎科目が揃っています。さらに情報数理 (IS) プログラムでは数学的な「情報処理教育」が学べるように, カリキュラムが構成されています。

教員免許を目指したり, 情報数理プログラムで学ぶ学生以外でも, 関心に応じて, その中のいくつかの科目を履修すると良いでしょう。特に大学院進学を考えている学生は, 積極的に履修することが望まれます。

その際に注意することは, 数学は積み重ねの学問であるため, 科目間で基礎科目と応用科目の区別があるということです(下図を参照のこと)。応用科目を学ぶためには, その科目が前提とする科目を履修しておく事が望まれます。例えば, 応用確率統計ではデータ解析1, 2を前提科目にしています。履修の順番は, 単位取得ができるかどうかではなく, その授業内容をしっかり理解するために必要なことです。

数学の勉強法は, 古代ギリシャのユークリッドの言葉「幾何学に王道なし」と同じで, 簡単な方法はありません。登山のように一歩一歩, 着実に登ることでしょう。そして「判ること」と「判らないこと」を「分けること」ができるように努力をすることが重要です。その結果, 自ずと「論理的思考」能力が養われることになります。



経営科目の履修の勧め

情報のニーズの大半は経営活動から発生しています。外部環境と顧客を知り、それに適応できる戦略を立案し組織として実行し管理していくすべてのプロセスで情報処理が大活躍しています。ですから、経営情報分析(MI)、ITビジネス(IB)、メディアプロデュース(MP)を学ぶ学生に限らず、多くの分野で経営につ

いての知識が必要となります。次のような科目群から関心あるものをぜひ履修してください。生涯役に立つ参照枠組みに出会えるかもしれません。(点線の科目は経営系の内容ではありませんが役に立ちます)

1 市場について理解する

理論的に理解する	経済のモデル(マクロ経済学)	経済のモデル(ミクロ経済学)
モノ(財)の市場について	マーケティング	
お金の市場について	ファイナンスプランニング	

2 インターネット時代の市場を理解する

システムについて	インターネット情報システム	
市場とサービスについて	情報商品	ネットワークとマーケティング

3 企業活動について理解する

企業社会の言語としての会計	会計システム(財務会計)	会計システム(管理会計)
企業や社会を理解し評価する	経営分析	政策科学
企業戦略について	戦略のデザイン	ビジネスプロセスデザイン
情報システムについて	企業情報システム	
企業活動について	ビジネスゲーム	プロジェクトマネジメント

4 市場や企業のデータを分析する

データとビジネスの関連について	データベース	データマイニング	
統計手法として	データ解析1	データ解析2	応用確率統計

5 理論的にシミュレーションする

組織や企業の行動について	ゲームの理論	
外部環境や社会について	シミュレーション	モデル分析

コミュニケーションの基礎力をつける

1年次は、ネットワーク情報学部の専門知識の基礎を学ぶ時期ですが、同時に、大学や社会で必要となる基礎力を身につける時期でもあります。ネットワーク情報学部では、専門科目の「リ

テラシー演習」と専修大学入門科目の「専修大学入門ゼミナール」を軸にして、コミュニケーションの基礎力を養います。

リテラシー演習(前期)

リテラシー演習では、レポートライティングについて体系的に学びます。テーマの設定、情報収集、アウトラインの作成、文章の作成、推敲から完成までのプロセスを、順を追って経

験します。自分の意見や主張を、論理的に組み立てて、人に伝えるためのスキルを身につけます。最後は、完成したレポートの要旨を発表します。

専修大学入門ゼミナール(後期)

大学入門ゼミナールでは、プレゼンテーションやインタビューなど、対面でのオーラルコミュニケーションに慣れる経験を積みま。前半は、自分の大学に対する考えや、新しいア

イディアなどを仲間の前でプレゼンします。後半は、先輩にインタビューを行い、その内容を記事にまとめ、多くの人に向けて発表します。

様々な狙いをもつレポート課題

ネットワーク情報学部の1年次生にとって、最も驚かされることは、レポート課題が多いことでしょう。様々な先生が、様々な狙いのレポート課題を課してくるので、それに早く慣れることが大切です。ここでは、いくつかのパターンを示します。レポートが出題されたときに、どのパターンのものなのかの的確に判断できるようになれば、よいレポートを書けるようになります。

- 理解を確認する：授業中に説明したことを理解しているかどうか確認するレポートです。授業の説明に基づいて、自分が理解したことを記述する必要があります。
- 自分の見解を考えてもらう：「理解を確認する」の発展したもので、理解した上で、それに対して様々な情報を利用して自分の考えをまとめ、記述する必要があります。

- 調査をしてみとめる：授業中に説明しきれないことを、皆さんに調べてきてもらって補うことを目的とするものです。どのような資料にあたって調べるのかが問われます。
- 経験してもらう：授業中に説明した理論や方法を、先生が示した方法で実践してもらい、その結果、及びそこから皆さんが考えたことを報告してもらうものです。
- 自分なりの工夫をして作る：「経験してもらう」の発展したもので、実践の場面で、皆さんの独自の工夫が求められるものです。プログラミングやデザインに関連する授業で多く見られます。自分の工夫を説明する必要があります。
- 応用力を試す：それまで様々な授業で学修したものを、総合的に活用することが求められるものです。

プレゼンテーションとグループワーク

大学に入ったばかりの学生は、自分の考えや成果を人前で発表した経験があまりなく、気後れがする人が多いでしょう。でも、大学でも社会でも、発表する機会は必ずやってきます。そのためには、場数を踏んで慣れておくことが大事です。また、ネットワーク情報学部はグループワークが多く、演習科目や3年次のプロジェクトで、メンバーと議論をしたり一緒に制作をしたりします。そのときに、お互いに十分コミュニケーションをとることが

大事になります。こうしたプレゼンテーションやグループワークの経験は、将来社会の様々な場面で、きっと役立つはず。そのためのステップとして、1年次から、対面でも自分の考えを伝えること、人からしっかり話を聞くこと、そして仲間と十分話し合うことを経験しましょう。

キャリア教育について

専門科目が軸となる キャリアデザイン

ネットワーク情報学部の専門科目には通年科目が3つあり、いずれも必修科目となっています。ひとつは3年次の「プロジェクト」ですが、この他に、1年次の「情報と社会」と3年次の「情報キャリアデザイン」があります。このふたつの科目の共通点は、学外から招いたゲストスピーカーによる講演が主体になっていることです。社会の様々な分野の最先端で仕事をしている方々の講演を通して、広い意味で自分のキャリアデザインについて考えます。「情報と社会」では、将来を見据えながら大学

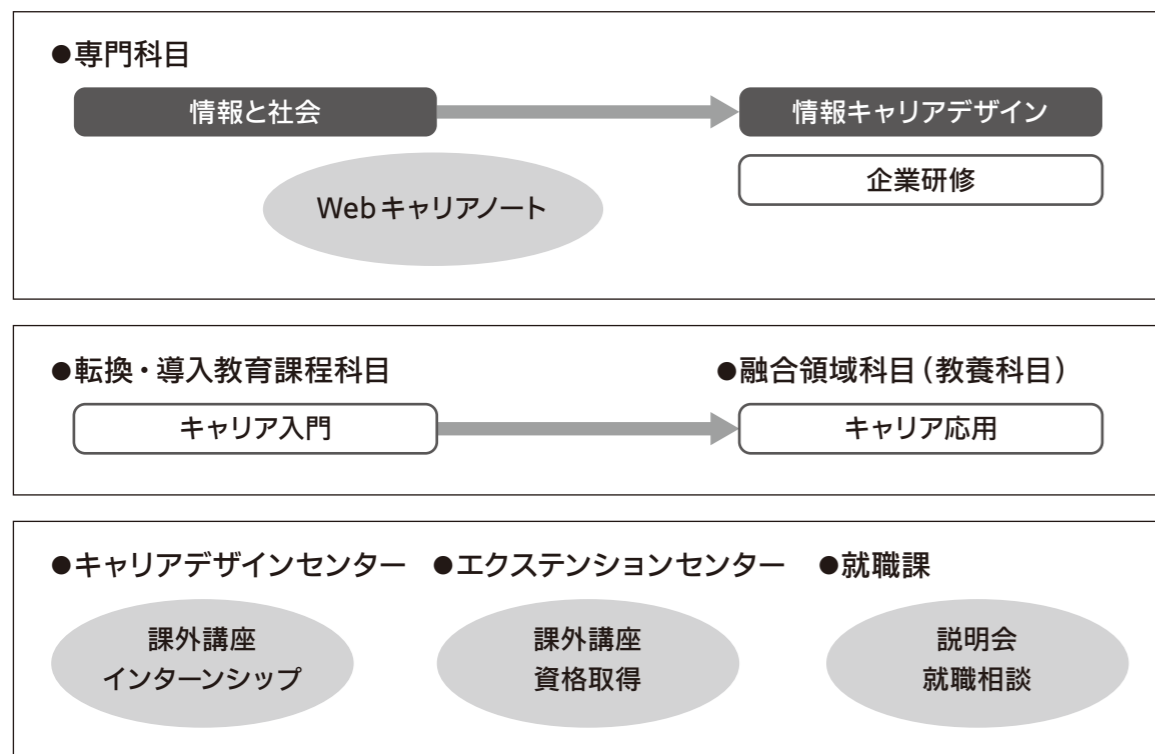
で何を学んで行くのか、そして「情報キャリアデザイン」では、就職を視野に入れて仕事というものにどう取り組んでいけばよいのか、を考える機会としています。また、選択科目の「企業研修」では、前期中に十分な準備を行い、夏期に企業において就業体験型インターンシップを体験することができます。このように、ネットワーク情報学部では、専門科目の中で十分にキャリア教育を受けることができるようなカリキュラムになっています。

専門科目以外の科目や講座

専門科目以外にも、転換導入教育課程科目の「キャリア入門」や、融合領域科目(教養科目)の「キャリア応用」を選択することができます。これらの科目は、特に、理論的体系的にキャリアデザインについて学びたい方にお勧めします。

さらに、課外にも、キャリアデザインへの様々なサポートがあります。キャリアデザインセンターによる各種講座やインターンシップ、キャリアカウンセリングなどは、1年次から利

用することで、将来を見据えた大学生活を送ることに役立ちます。キャリアデザインセンターが提供するWebキャリアノート(各自がキャリアデザインを記録していくことができるウェブサイト)は、「情報と社会」や「情報キャリアデザイン」の授業でも活用します。他に、エクステンションセンターでは、各種資格や試験に向けた実力養成のための講座が利用できます。そしていよいよ就職活動を迎える時期になれば、就職課が就職活動の支援を行います。



学部間相互履修制度

全学公開科目

本学は、各学部・学科の教育方針に即して、多様な授業科目を開講しています。

学部間相互履修制度により、他学部で開講されている専門科目の中で、「全学公開科目」と呼ばれる科目を卒業要件単位として履修することができます。

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではありません。どの科目を「全学公

開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定めます。

また、各学部で公開された科目のうちで、ネットワーク情報学部の学生には必要がないと判断された科目は履修できないことがあります。

卒業するまでに、どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは、Webでお知らせします。

講義内容

「全学公開科目」についての特別な講義要項は作成しませんので、講義内容を知りたい場合は、その科目を公開する学部の講義要項

を閲覧する必要があります。履修希望者は、Web上で講義要項を閲覧してください。

履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修人数の制限を行うことがあります。このため、履修を希望する学生は、その科目担当者の履修許可を

得なければならないことになっています。履修手続・選考などの詳細は、ガイダンスでお知らせします。

修得した単位の扱い

「全学公開科目」は12単位まで履修でき、修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定されます。



自由選択修得要件単位

8ページに述べたように、転換・導入教育課程科目から7単位、教養科目から17単位、専門科目から76単位修得しなければなりません。卒業要件単位124単位に達するためには、さらに24単位修得する必要があります。その24単位分を、専修大学では自由選択修得要件単位と呼んでいます。下の図で示す通り、各

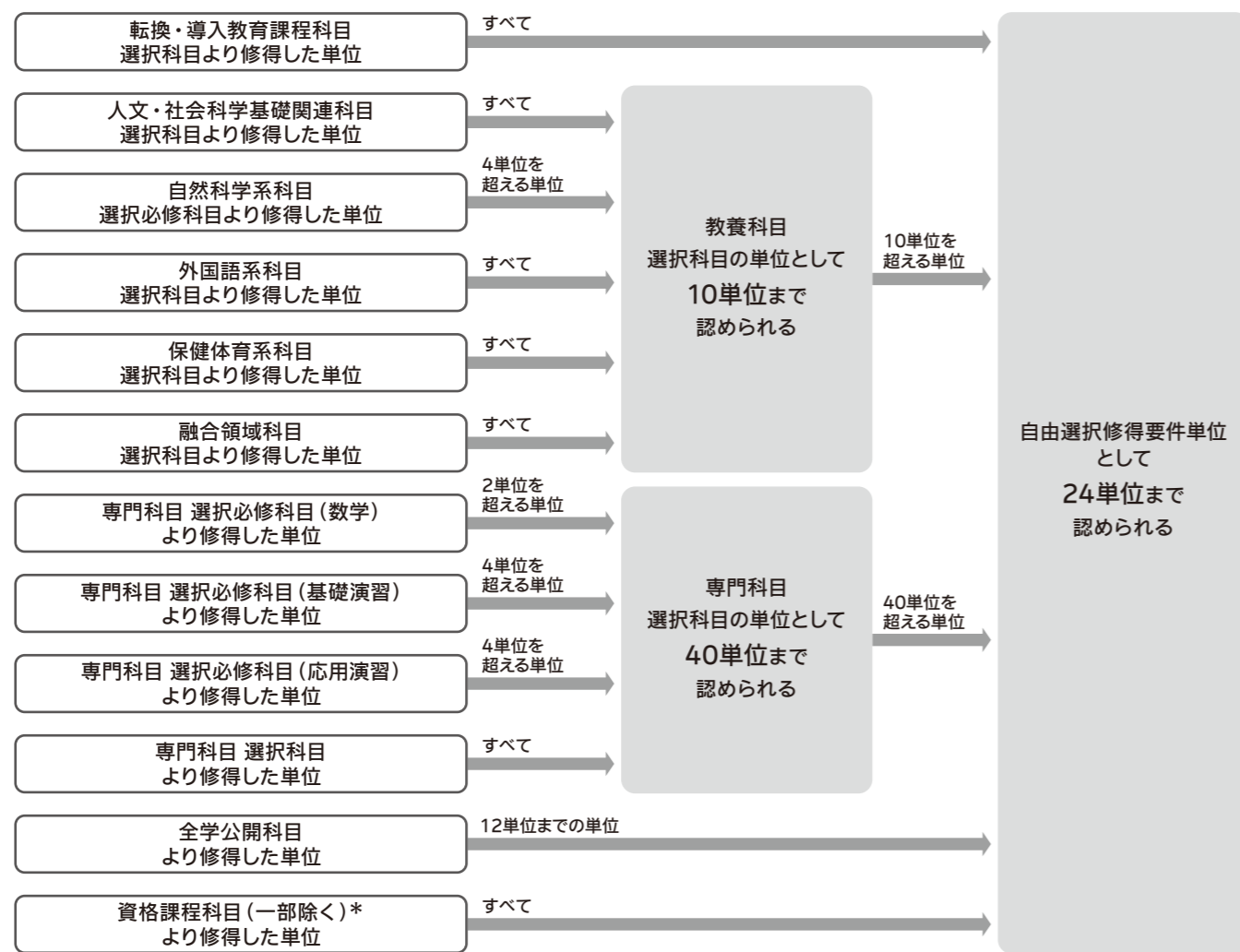
科目群において、必要とされる単位数を上回って修得した単位を自由選択修得要件単位に充当することができます。

自由選択修得要件単位を、どのグループから履修するかによって、皆さんの学修に変化をつけることができます。例えば、

- 特定の専門領域から専門科目を多く履修することで、専門性を深める。
- 複数の領域から専門科目を履修することで、専門性の幅を広げる。
- 外国語系科目の選択科目から履修することで、外国語の能力を高める。
- 教養科目や全学公開科目を履修することで、ネットワーク情報学部の専門分野以外の学問分野を学修し、学際的な能力を高める。

といったことが考えられます。あるいはこれらを複数組み合わせることもできるでしょう。本ガイドブックを読むことで、具体的にどのような可能性があるのか理解することができます。専修大学

で提供される授業は非常に多くあるので、自分で調べることは大変かもしれません。身近な先生方に相談してみるのも良いでしょう。



*詳細は「教職・司書・司書教諭・学芸員課程の学修ガイドブック」を参照してください。

教職・司書・司書教諭・学芸員課程

教育職員免許状を取得したり、司書・司書教諭・学芸員の資格を取得したい学生のために用意されている課程です。

教職課程において教育職員免許状取得要件を満たすために必要な履修科目や、司書・司書教諭・学芸員課程の履修方法などについての詳細は、必ず前期最初に行われる教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンスに出席し、説明を受けてください。履修初年度のガイダンス時に、「教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック」を配布します。

教育職員免許状の取得について

ネットワーク情報学部は次の教育職員免許状(以下「免許状」という)が取得できます。

- 中学校教諭一種免許状 数学
- 高等学校教諭一種免許状 数学・情報

免許状を取得するためには原則として3年以上教職課程の授業を履修し、履修者は受講料として履修初年度に25,000円を納入しなければなりません。

中学校の免許状を取得する場合、7日間の介護などの体験が義務づけられています。詳細については前期最初に行われる教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス時に説明を受けてください。

教育職員免許状を取得するために必要な

取得単位数などの詳細は、「教職・司書・司書教諭・学芸員課程学修ガイドブック」を参照してください。

また、いずれの免許取得にも、相当の教科の学力が求められます。授業だけではなく、自ら進んで発展的な学習をすることが必要です。

なお、情報科の教員採用では一般的に、他教科の免許状も所持していることが必要です。また、数学科の教員採用では中学高校両方の免許が必要なことが多くあります。

司書・司書教諭資格の取得について

司書は各種図書館、研究機関などで資料の収集・整理・保存・提供などを行う専門職です。司書教諭は学校図書館の専門職員です。

司書の資格を取得するためには、原則として3年以上司書課程の授業を履修し、学部の卒業要件を満たすと同時に、別に定める15科目30単位以上の単位を修得しなければなり

ません。また司書教諭については、教育職員免許状を取得するとともに、別に定める5科目10単位以上の単位を修得しなければなりません。なお、司書課程の履修者は25,000円、司書教諭課程の履修者は10,000円を受講料として履修初年度に納入しなければなりません。

学芸員資格の取得について

学芸員は博物館(美術館、歴史資料館、民芸館など)において資料の収集、展示、保管、調査研究などに関連する活動を中心とする専門職です。本学では、人文系の歴史・考古・民俗・美術史を専門とする学芸員を養成しています。

学芸員の資格を取得するためには、原則と

して2年以上学芸員課程の授業を履修し、学部の卒業要件を満たすと同時に、別に定める13科目27単位以上の単位を修得しなければなりません。

なお、学芸員課程の履修者は受講料として履修初年度に15,000円を納入しなければなりません。

専修免許状の取得

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院の修士課程を修了した場合、中学・高等学校教諭専修免許状を取得することができます。詳細については、教務課資格課程事務室で確認してください。

科目等履修生

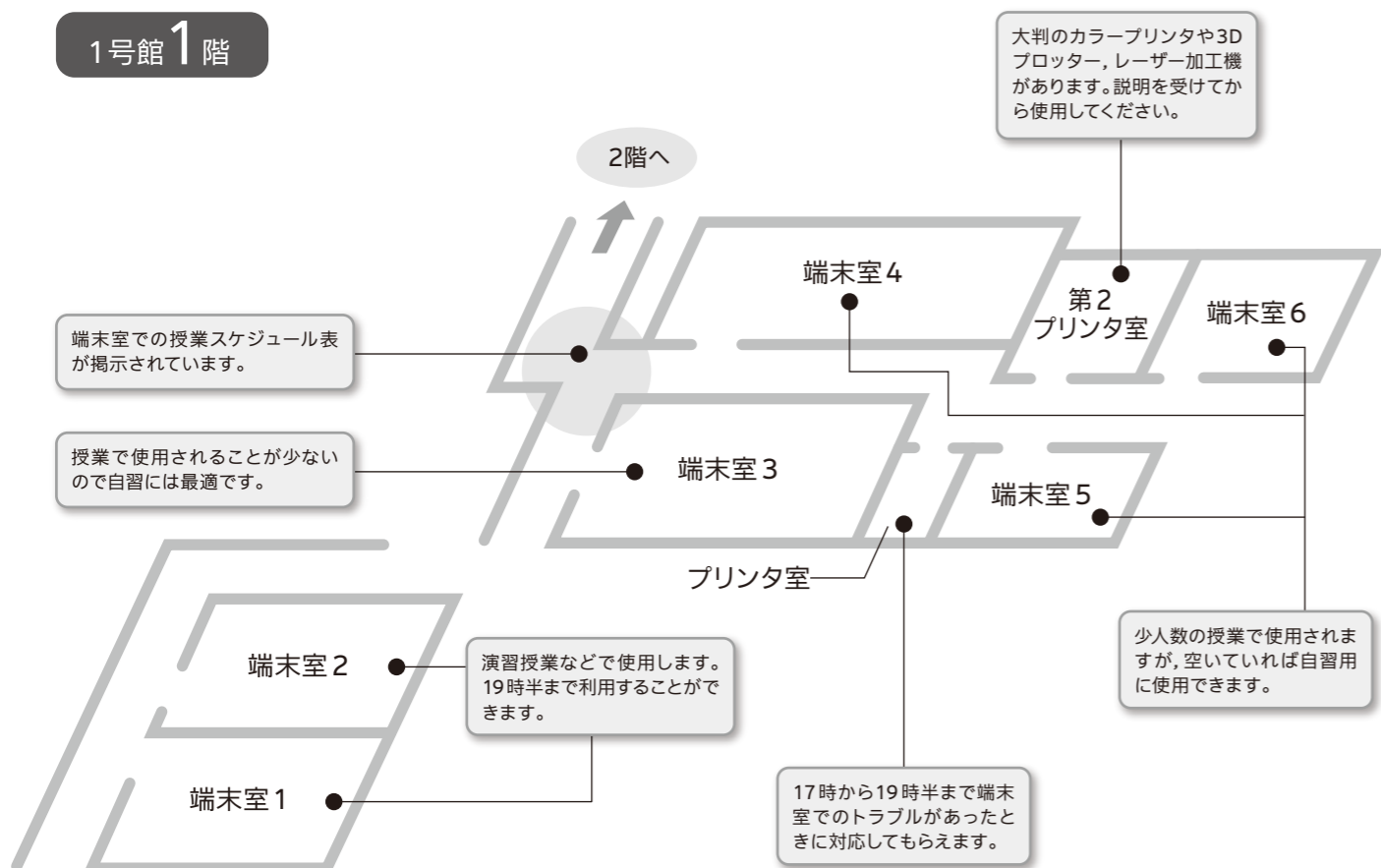
在学中の単位不足などにより本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学芸員課程を履修したい者は、科目等履修生として必要単位を修得できる制度があります。ただし、科目等履修生となるためには、2月下旬頃に出願し、面接選考に合格する必要があります。詳細については二部事務課(神田校舎)で確認してください。

コンピュータ・ネットワーク設備の利用について

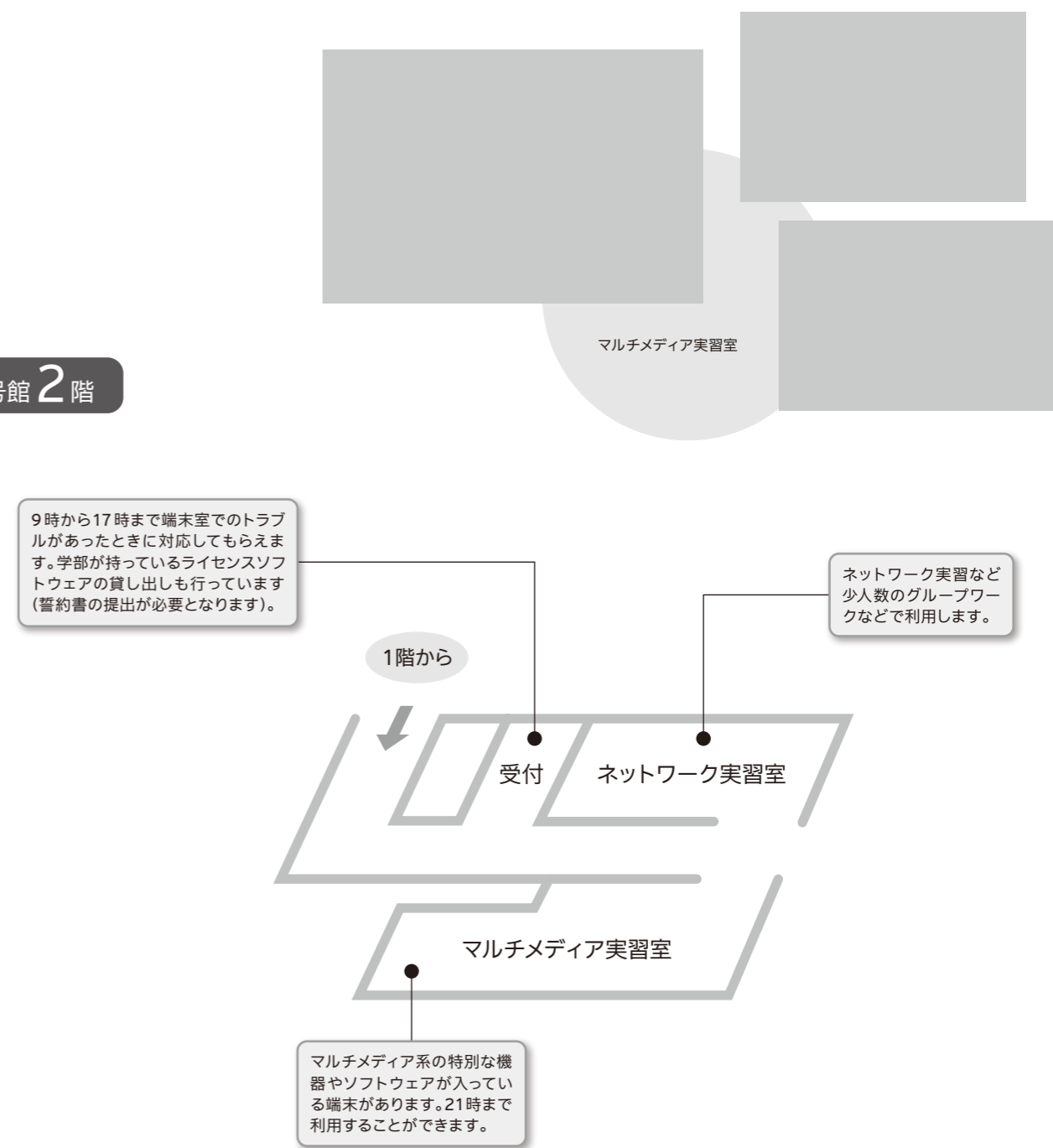
11ページに述べたように、ネットワーク情報学部では、大学のコンピュータ・ネットワーク設備を使用した演習や課題が多く課されます。1号館には、学部専用端末室が下の図のように用意されています。授業時間以外は端末室で自習することができますので、利用のルールやモラルをきちんと守りながら、積極的に利用してください。

1年次の情報表現演習、情報分析演習、プログラミング演習1,2では単にソフトウェアの操作を習うだけではなく、大学の情報関係設備の利用方法についても説明があります。コンピュータスキルがある学生でもこれらの演習科目をおろそかにしないようにしてください。

1号館 1階



1号館 2階



端末室

注意事項

端末室使用上の注意

端末室は勉学のための公共スペースです。したがって、次のようなことはしてはいけません。違反行為があった場合は、利用停止処分を受けることがあります。

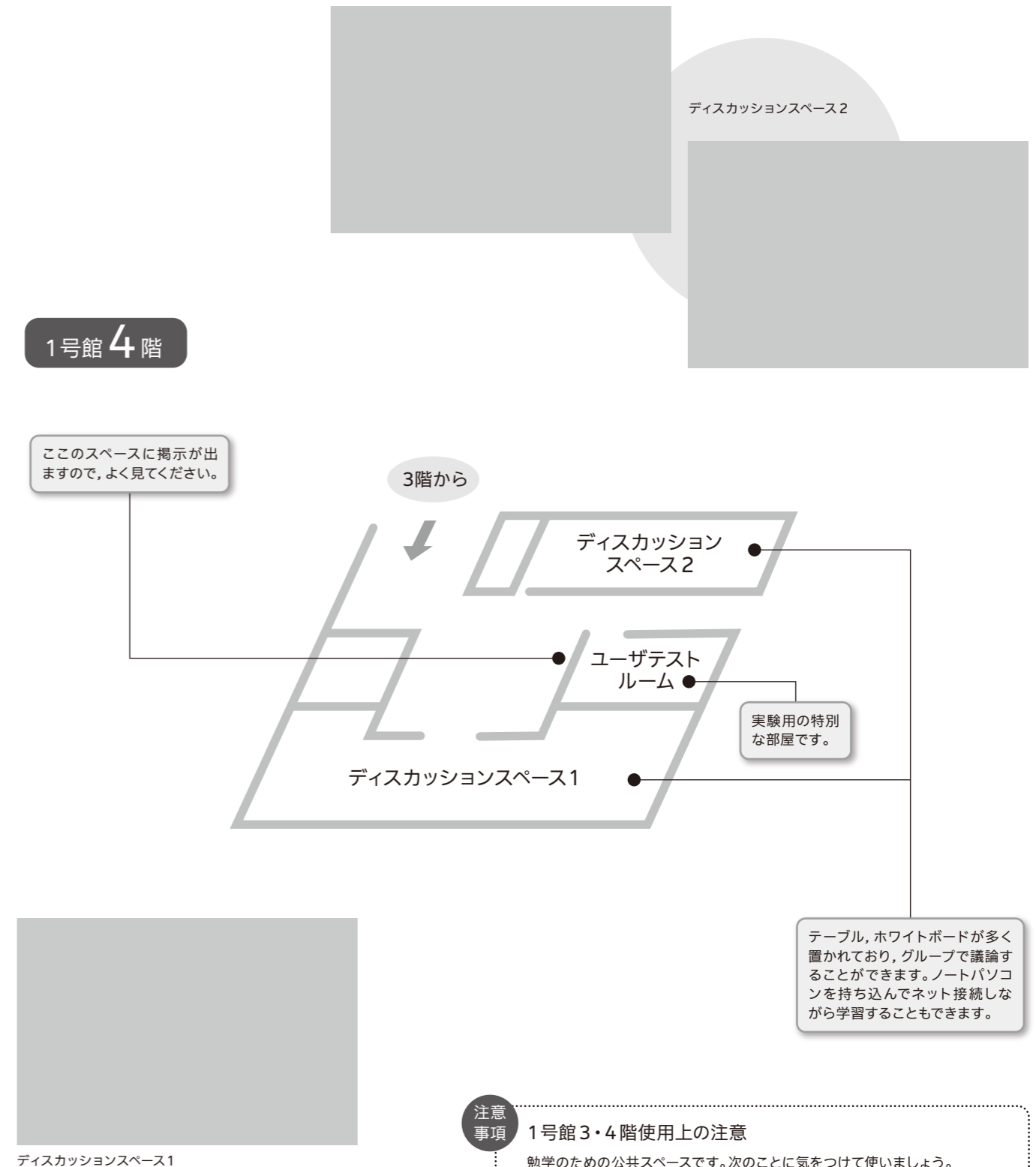
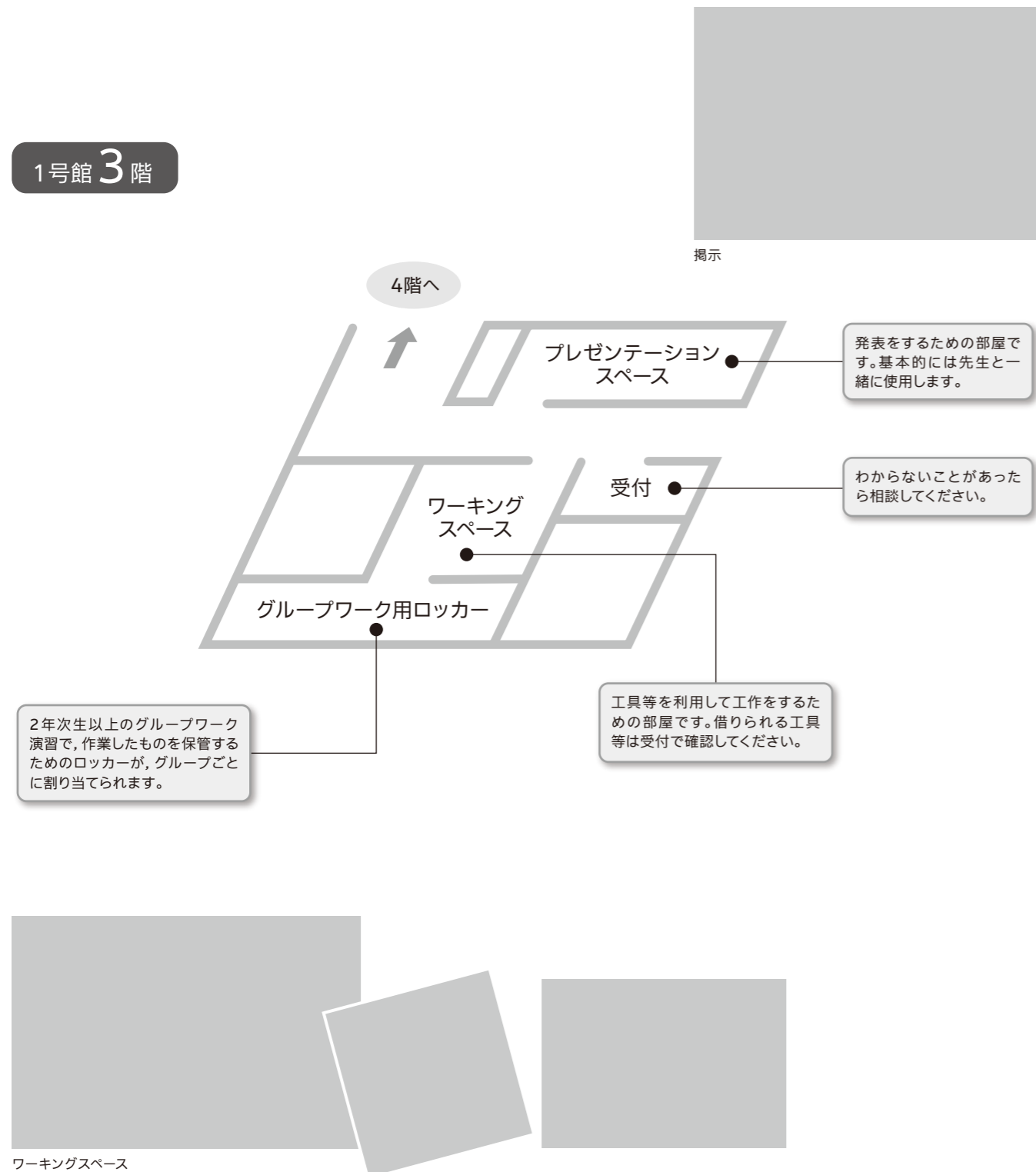
- 室内で飲食をすることはできません。
- 勉学以外の目的で使用してはいけません(例えばゲーム)。
- 大声で話をしてはいけません。
- 荷物などで場所取りをしてはいけません。
- 勝手にソフトウェアをインストールしたり、インストールされているソフトウェアを持ち出ししたりすることはできません。

グループワークや作業のための

部屋の利用について

11ページに述べたように、ネットワーク情報学部では、グループで行う演習や課題(グループワーク)が多く課されます。また、単にコンピュータを利用するだけでなく、ホワイトボードを利用して議論したり、工作などの作業をすることもあります。そのような目的のために1号館3階、4階には、学部専用の部屋が下

の図のように用意されています。1号館4階のディスカッションスペース前のホワイトボードあるいは各部屋の入口には、利用のルールなどのお知らせが掲示されます。ルールやモラルをきちんと守りながら、積極的に利用してください。



注意事項 1号館3・4階使用上の注意

勉学のための公共スペースです。次のことに気をつけて使いましょう。

- 後片づけをきちんとし、次の人たちが気持ちよく使えるようにしましょう。
- 掲示物をよく確認しましょう。
- 勉学以外の目的で使用してはいけません。
- 他の学生の邪魔となるような大声で話をしてはいけません。
- 荷物などで場所取りをしてはいけません。
- 入退室のためには、学生証が必要です。

専修大学定期試験規程(抄)

昭和54年7月10日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条の規定に基づき実施する試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- 1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- 2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- 3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- 4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。
ただし、実施の時期を変更することがある。

- 1) 前期試験 7月～8月
- 2) 後期試験 1月～2月
- 3) 前期追試験 8月
- 4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。

ただし、レポートをもつてこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 省略

(試験委員)

第7条 省略

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- 1) 履修科目登録の手続
 - 2) 学費の納入手続
 - 3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号の一に該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号については、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

- 1) 学生証を携帯していない者
 - 2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - 3) 試験監督者の指示に従わない者
 - 4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、一部の試験については教務課窓口、二部の試験については二部事務課窓口申し出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかつた場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。

- 1) 教育実習 教育実習参加を証明するもの
- 2) 就職試験 就職試験受験を証明するもの
- 3) 業務命令による出張又は超過勤務 所属長による証明書
- 4) 公式試合 公式試合参加を証明するもの
- 5) 天災その他の災害 被災を証明するもの
- 6) 二親等以内の危篤又は死亡 危篤又は死亡を証明するもの
- 7) 本人の病気又は怪我 医師の診断書
- 8) 交通機関の事故 遅延又は事故を証明するもの
- 9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項 学部長の承認を得た本人記載の理由書

(成績評価)

第11条 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

- 2 前項の場合において、成績評価の区分は、90点以上をS、85点以上90点未満をA+、80点以上85点未満をA、75点以上80点未満をB+、70点以上75点未満をB、65点以上70点未満をC+、60点以上65点未満をC、60点未満をFとする。
- 3 前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)を算出する。この場合において、グレード・ポイントは、Sを4.0、A+を3.5、Aを3.0、B+を2.5、Bを2.0、C+を1.5、Cを1.0、Fを0.0とする。

(成績発表)

第12条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第13条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- 1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- 2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- 3) 学生証を机上に提示すること。
- 4) 解答にさきだつて、学籍番号及び氏名を記入すること。
- 5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- 6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- 7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- 8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第14条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- 1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- 2) 第9条に該当する者の答案
- 3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- 4) 不正行為に該当する者の答案
- 5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第15条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- 1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)
- 2) 答案を交換したとき。

- 3) カンニングペーパーを廻したとき。
- 4) カンニングペーパーを使用したとき。
- 5) 所持品(電子機器を含む。)その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- 6) 他人の答案を写したとき。(見た者・見せた者)
- 7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。(連絡した者・連絡を受けた者)
- 8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- 9) 他人の学生証で受験したとき。(貸した者・借りた者)
- 10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- 11) 故意による答案無記名のとき。
- 12) 答案を提出しなかつたとき。
- 13) 使用が許可された参考書等の貸借をしたとき。
- 14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

(不正行為の確認)

第16条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

- 2 試験委員は、学生部委員の立会いのもとに、不正行為の事実確認を行う。
- 3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

(不正行為者の処分)

第17条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

(規程の改廃)

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附則

この規程は、昭和54年7月10日から施行する。

(中略)

附則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規程による改正後の第11条の規定は、平成27年度以後の入学者について適用し、平成26年度以前の入学者については、なお従前の例による。

定期試験における不正行為者処分規程（抄）

昭和54年7月10日制定

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第17条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- (1) 代人受験（依頼した者・受験した者）
2カ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
- (2) 答案交換
第1号に同じ
- (3) カンニングペーパー廻し
けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。
- (4) カンニングペーパーの使用
第3号に同じ
- (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等）
第3号に同じ
- (6) 答案を写す（見た者・見せた者）
第3号に同じ
- (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者）
第3号に同じ
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用
第3号に同じ
- (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者）
第3号に同じ
- (10) 偽名又は氏名抹消
第3号に同じ
- (11) 故意による無記名
第3号に同じ
- (12) 答案不提出
第3号に同じ
- (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者）
けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認められた場合
第1号から第13号に準じて処分する。
2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

第5条 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。

第6条 処分の起算日は、処分決定日とする。

第7条 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。

第8条 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。

第9条 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。

第10条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

第11条 不正行為者処分に関する事務取扱いは、教務課又は二部事務課が行う。

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、昭和54年7月10日から施行する。
- 2 この規程の制定に伴い「試験における不正行為者処分内規（昭和36年9月12日制定）」、「試験における不正行為者処分内規施行規則（昭和36年9月12日制定）」、「試験における不正行為者処分の特例（昭和37年9月24日制定）」及び「試験における不正行為により処分を受けた者の事後の取扱規程（昭和36年9月12日制定）」は、廃止する。

（中略）

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規程の施行前にした不正行為に対する処分については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

専修大学ネットワーク情報学部学期末卒業に関する取扱内規

平成17年4月1日制定

第1条 この内規は、専修大学学則（以下「学則」という。）第18条第3項に基づき、学期末卒業（以下「学期末卒業」という。）に関する取扱いについて定める。

第2条 学期末卒業とは、卒業に必要な所定の単位を修得できず、修業年限を超えて在学する者が、卒業を希望する年度の前期において卒業要件を満たし、所定の学費を納め、かつ、所定の手続を行うことにより卒業することをいう。

第3条 学期末卒業を希望する者は、当該年度の6月30日までに保証人と連署のうえ、学期末卒業願書によって申請しなければならない。

- 2 学期末卒業の許可は、ネットワーク情報学部教授会の議を経て学長が行う。

第4条 学期末卒業を申請した者が申請の取消しをする場合は、当該年度の7月31日までに保証人と連署のうえ、学期末卒業申請取下書によって申請しなければならない。

第5条 学期末卒業の時期は、9月20日とする。

第6条 この内規の改廃は、ネットワーク情報学部教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から施行する。

専修大学奨学生規程(抄)

昭和55年2月25日制定

(目的)

第1条 この規程は、専修大学学則(以下「学則」という。)第39条に基づき、学術研究の奨励と経済援助を行うことにより有為な人材の育成に資することを目的とする。

(奨学生の種類及び資格)

第2条 奨学生の種類及び資格は、次のとおりとする。

- スカラシップ入試奨学生 人物に優れ入学試験の成績が特に優秀であるとともに、本学への入学を強く希望する者であって、スカラシップ入学試験制度により入学を認められたもの
- 二部スカラシップ入試奨学生 人物に優れ本学二部での勉学に明確な目的を持ち入学を強く希望する者であって、二部スカラシップ入学試験制度により入学を認められたもの
- 新入生特別奨学生 次のアからオまでに定める入試制度により入学が認められた一部1年次入学者であって、人物に優れ入学試験の成績が特に優秀なもの
ア 帰国生入学試験
イ 外国人留学生入学試験
ウ 公募制推薦入学試験
エ 英語資格取得者入学試験
オ AO入学試験
- 新入生付属推薦奨学生 本学の付属高校推薦入学者であって、人物に優れ出身高校の成績が特に優秀であるとともに、本学への入学を強く希望するもの
- 新入生学術奨学生 1年次在學生であって、人物に優れ勉学に意欲的に取り組み、学部で実施する試験において成績が特に優秀なもの
- 学術奨学生 2年次、3年次及び4年次の在學生であって、人物に優れ勉学に意欲的に取り組み、前年度の学業成績が特に優秀なもの
- 自己啓発奨学生 在學生であって、学術、文芸、スポーツ、自治・社会活動等に明確な目的を有し、その分野で優れた業績を達成し、更に高い目標に挑戦する個人又はその団体
- 指定試験奨学生 在學生であって、公認会計士試験の短答式試験又は最終試験に合格したもの
- 利子補給奨学生 在學生であって、勉学意欲があるにもかかわらず、経済的理由により入学又は修学の継続のために金融機関からの教育ローンを必要とするもの
- 家計急変奨学生 在學生であって、勉学意欲があるにもかかわらず、主たる家計支持者の死亡、失業、長期療養等に基づく経済的困窮により、修学の継続が著しく困難となったもの
- 災害見舞奨学生 在學生であって、当該学生が居住している家屋又は主たる家計支持者が生活の本拠として居住している家屋その他の建造物等が火災、風水害、地震等に被災し、損害を受けたことにより経済的困窮度が高くなったもの

(採用人数及び期間)

第3条 奨学生の採用人数及び採用期間は、別表のとおりとする。

(奨学金)

第4条 奨学生には、奨学金を支給する。

2 支給する奨学金の額並びにその支給時期及び支給方法は、次のとおりとする。

- スカラシップ入試奨学生 授業料相当額及び施設費相当額とし、入学手続時並びに2年次、3年次及び4年次の学費納入時に支給する。
なお、自宅外通学者には、自宅外通学奨学金として、別に定めるところにより、年額60万円を支給する。
- 二部スカラシップ入試奨学生 授業料相当額及び施設費相当額とし、入学手続時並びに2年次、3年次及び4年次の学費納入時に支給する。
なお、自宅外通学者には、自宅外通学奨学金として、別に定めるところにより、年額30万円を支給する。
- 新入生特別奨学生 授業料の半額相当額とし、入学手続後並びに2年次及び3年次の学費納入後に一括支給する。
- 新入生付属推薦奨学生 授業料の半額相当額とし、入学手続後及び2年次の学費納入後に一括支給する。
- 新入生学術奨学生 法学部、文学部及び人間科学部の学生にあつては30万円とし、当該学部以外の学生にあつては15万円とし、採用時に一括支給する。
- 学術奨学生 一部学生にあつては30万円、二部学生にあつては15万円とし、採用時に一括支給する。
- 自己啓発奨学生 個人にあつては20万円を、団体にあつては50万円をそれぞれ限度額とし、活動状況に応じて支給額を定め、採用時に一括支給する。
- 指定試験奨学生 公認会計士試験の短答式試験の合格者にあつては10万円とし、最終試験の合格者にあつては30万円とし、それぞれ採用時に一括支給する。
- 利子補給奨学生 金融機関の教育ローン適用者に対して、当該年度の12月末日における教育ローンの借入残高又は当該年度の学費(入学金を含む。)の納付額のどちらか低い額に対して大学が定める一定率を乗じて得た額を利子補給分として一括支給する。
- 家計急変奨学生 授業料の40%相当額とし、採用時に一括支給する。
- 災害見舞奨学生 20万円を限度額とし、採用時に一括支給する。

3 前項第1号及び第2号の授業料相当額及び施設費相当額は、大学に納めるべき学費のうちからこれらの相当額を免除することによって支給したものとす。

(奨学生の兼有禁止)

第5条 奨学生は、第2条第1号から第6号までに定める奨学生を2以上兼ねることはできない。

(奨学生への出願)

第6条 奨学生への出願手続方法は、専修大学奨学生規程細則(以下「細則」という。)において定める。

(奨学生の選考)

第7条 奨学生の選考方法は、細則において定める。

(奨学生の採用)

第8条 奨学生の採用は、次のとおりとする。

- 第2条第1号から第6号までに定める奨学生の採用は、学部長会及び教授会の議を経て学長が決定する。
- 第2条第7号から第11号までに定める奨学生の採用は、学部長会の議を経て学長が決定する。

(奨学生資格の喪失)

第9条 奨学生が次の各号の一に該当し、奨学生として不適格と認められた場合は、奨学生としての資格を失うものとし、奨学金の支給を打ち切る。

- 休学し、若しくは退学したとき、又は除籍されたとき。
- 学則第67条により懲戒処分を受けたとき。
- 学業成績が著しく低下したとき、又は学生としての素行が好ましくないとき。
- 願書等の提出書類に虚偽の記載をしたとき。
- 正当な理由なく奨学生として必要な手続を怠ったとき。

(奨学金の返還)

第10条 前条により奨学生の資格を失った者については、既に支給した奨学金の一部又は全部を返還させることができる。

(奨学生に対する指導)

第11条 第2条第1号から第3号までに定める奨学生に対し適切な指導と助言を行うため、指導教員を置く。
2 指導教員は、当該年度末に指導経過及び奨学生の修学状況を、所属学部長を経て学長に報告する。

(奨学生に関する事務取扱)

第12条 この規程の奨学生に関する事務取扱所管は、次により行うものとする。

- 一部におけるスカラシップ入試奨学生、新入生特別奨学生、新入生付属推薦奨学生、新入生学術奨学生及び学術奨学生は、教務課とする。
- 一部における自己啓発奨学生、指定試験奨学生、利子補給奨学生、家計急変奨学生及び災害見舞奨学生は、学生生活課とする。
- 二部における二部スカラシップ入試奨学生、新入生付属推薦奨学生、新入生学術奨学生、学術奨学生、自己啓発奨学生、指定試験奨学生、利子補給奨学生、家計急変奨学生及び災害見舞奨学生は、二部事務課とする。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、学部長会の議を経て学長が決定する。ただし、奨学生の種類、採用人数、採用期間又は支給する奨学金の額のいずれかを変更する場合は理事会の承認を必要とする。

附 則

- この規程は、昭和55年4月1日から施行する。
- この規程の施行と同時に、昭和47年4月1日制定の「専修大学奨学生規程」及び「専修大学奨学生規程細則」は、廃止する。
- この規程の施行に伴う移行措置として、昭和55年度における一部3年次生及び4年次生からも第2種奨学生を採用することができるものとする。その場合の採用員数は1学年1学部各3名以内とし、採用期間は3年次生での採用者は2年間、また4年次生での採用者は1年間とする。

附 則

この規程は、昭和56年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

- この規程は、平成14年9月1日から施行する。ただし、第2条第1号から第4号までに定める奨学生については、平成15年度採用の奨学生から適用する。
- この規程の施行の日前に専修大学奨学生規程により採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成17年11月28日から施行する。ただし、第2条第1号及び第3号に定める奨学生については、平成18年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- この規程は、平成20年4月1日から施行する。

(経過措置)

- この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成20年度以後に採用する奨学生について適用し、平成19年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

(経過措置)

- この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成21年度以後に採用する奨学生について適用し、平成20年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- この規程は、平成22年4月1日から施行する。

(経過措置)

- この規程による改正後の専修大学奨学生規程の規定は、平成22年度以後に採用する奨学生について適用し、平成21年度以前に採用された奨学生については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

専修大学卒業延期の取扱いに関する内規

平成23年12月1日制定

(趣旨)

第1条 この内規は、専修大学学則(以下「学則」という。)
第18条第5項の規定に基づき、専修大学(以下「本学」という。)
における卒業延期の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この内規において「卒業延期」とは、学則第18条第1項に規定する卒業の要件を満たした者が、同条第4項に規定する特別の事情により本学の許可を受けて卒業を延期し、引き続きその学部で修学を継続することをいう。

2 前項の「特別の事情」とは、キャリアアップ、資格取得等を目指すことをいう。

(卒業延期の期間)

第3条 卒業延期により在学することができる期間は、1年を限度とする。

(申請及び許可)

第4条 卒業延期を希望する者は、本学所定の申請書(以下「申請書」という。)
により申請をし、本学の許可を受けなければならない。

(申請をすることができる者)

第5条 前条の申請(以下「申請」という。)をすることができる者は、次の各号の条件(以下「申請の条件」という。)
の全てを満たす者とする。

- 1 卒業延期の目的が第2条の特別の事情に適合するものであること。
- 2 4年次以上の者で卒業見込みのものであること。
- 3 卒業延期の年度が学則第8条に規定する在学年限内にあること。
- 4 学費の滞納がないこと。

(申請期限及び申請方法)

第6条 申請は、卒業見込み年度の1月末日までに教務部教務課(二部在學生にあつては、二部事務部二部事務課とする。以下「教務課・二部事務課」という。)
に、申請書を本人が直接その窓口へ提出することにより行わなければならない。

(申請に対する審査等)

第7条 教務課・二部事務課は、申請書の提出があつた場合においては、遅滞なく、その申請が適格な申請かどうかの審査を行わなければならない。

2 前項の「適格な申請」とは、次の各号のいずれにも該当する申請をいう。

- 1 申請の条件を満たしていること。
- 2 申請書の記載事項に不備がないこと。
- 3 教務課・二部事務課は、第1項の審査に基づき、その申請が第5条第1号の条件を満たしていない場合又は申請書の記載事項に不備がある場合は、申請者に対しその説明をし、修正又は補正を求めることができる。

(受理及び不受理)

第8条 適格な申請は、受理し、不適格な申請及び第6条の期限を過ぎた申請は、受理しない。

2 教務課・二部事務課は、前条第1項の審査に基づき、当該学部長の承認を得て、前項に規定する申

請の受理又は不受理を決定し、不受理の場合は、遅滞なく、その旨を申請者に文書で通知する。

(卒業延期の許可)

第9条 卒業延期の許可は、学部長会及び各学部教授会の議を経て学長が行う。

(卒業延期の許可又は不許可の通知)

第10条 卒業延期の許可又は不許可の通知は、本人及び保証人に対し、卒業発表日以後、遅滞なく行うものとする。

(卒業延期の手續)

第11条 卒業延期の許可を受けた者は、別に指定する期限までに、次に掲げる卒業延期のための手續を完了しなければならない。

- 1 卒業延期年度の学費を一括納入すること。
- 2 卒業延期年度の履修登録科目の仮申請をすること。
- 3 卒業延期に関する本人と保証人とが連署した誓約書を提出すること。

(卒業延期の辞退)

第12条 卒業延期の許可を受けた者がこれを辞退しようとするときは、別に指定する期限までに、本人と保証人とが連署した本学所定の卒業延期辞退願を教務課・二部事務課に提出しなければならない。

(辞退とみなす者)

第13条 第11条の卒業延期の手續を期限までに完了しない者は、卒業延期を辞退したものとみなす。

(卒業延期をした場合の卒業の時期)

第14条 卒業延期をした場合の卒業の時期は、次項及び第3項に規定する場合を除き、その年度の3月22日とする。ただし、学期末卒業制度がある学部において、その許可を受けた場合には、学期末に卒業することができる。

2 卒業延期期間中に、本人が死亡した場合は、その死亡の日を卒業の日として学位記を交付する。

3 卒業延期期間中に、第17条第2項ただし書の規定により卒業延期の許可を取り消された場合にあっては、前年度の卒業とする。

(履修科目の登録)

第15条 卒業延期の許可を受けた者は、20単位を限度として、履修科目の登録をしなければならない。

(卒業延期期間中の学費)

第16条 卒業延期期間中の学費は、別に定める。

(学則適用の特例)

第17条 卒業延期期間中の者(以下「卒業延期者」という。)
は、学則第27条の休学及び学則第31条の退学の願出をすることができない。

2 学則第67条の規定は、卒業延期者についても適用する。ただし、けん責処分の場合は、併せて卒業延期の許可の取消しをすることができる。

(内規の改廃)

第18条 この内規の改廃は、学部長会の議を経て学長が行う。

附 則

この内規は、平成23年12月1日から施行する。

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧 (平成29年度入学用)

*科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備 考					
転換・導入教育課程	専修大学入門科目	専修大学入門セミナー				2	キャリア入門の単位を修得した場合は、自由選択修得要件単位に算入されます。 General English1は、英語B群の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 同一種目のスポーツウェルネスを同一年度に履修することはできません。					
	キャリア教育関連科目	キャリア入門				2						
	基礎自然科学	あなたと自然科学				2						
	専修大学基礎科目	外国語基礎科目	英語B群	Basics of English (SW) 1a (1)		General English 1 (1)		2				
				Basics of English (SW) 1b (1)								
				または Intermediate English (SW) 1a (1) Intermediate English (SW) 1b (1)								
	スポーツリテラシー		スポーツリテラシー (1)					1				
	人文科学基礎関連科目	作品を創る 1 日本文学		応用心理学入門 哲学入門	芸術学入門 1 芸術学入門 2			(8)	教養教育課程における卒業要件単位17単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されず。 「人文科学基礎関連科目」「社会科学基礎関連科目」における卒業要件単位(8)は卒業要件単位ではなく、当該関連科目を8単位修得することを学部として推奨することを示します。 同一年度に複数の教養テーマセミナーを履修することはできません。 「教養テーマセミナー論文」は、「教養テーマセミナー」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマセミナー」を履修する場合に作成(履修)することができます。			
		世界の文学を読む 歴史の視点		倫理とは何か 論理学入門	異文化理解の人類学 異文化の現場から							
		基礎心理学入門		ことばと論理	ジャーナリズムと現代							
	社会科学基礎関連科目	日本国憲法 法と社会		人文・社会環境の地理学 社会学入門	教育と社会のダイナミズム			4				
		政治学入門 現代の経済		社会思想と現代 教育学入門	マーケティングベーシックス 企業と会計							
自然科学系科目	基礎自然科学実験 (1)		生物学301	化学101	物理学101	数理科学101	科学論・科学史101	4				
	基礎自然科学実験		生物学302	化学102	物理学102	数理科学102	科学論・科学史102					
教養教育課程	外国語系科目	英語以外の外国語	生物学101	宇宙地球科学101	化学201	物理学201	数理科学201	科学論・科学史201	17			
			生物学102	宇宙地球科学102	化学202	物理学202	数理科学202	科学論・科学史202				
			生物学201	宇宙地球科学201	化学301	物理学301	数理科学301					
			生物学202	宇宙地球科学202	化学302	物理学302	数理科学302					
			融合領域科目	学際科目101	学際科目105	学際科目109	学際科目113 (4)	2			2	General English 2は、英語D群の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで履修することができます。 同一言語の選択101a・bをセットで履修してください。 各科目2単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 各科目4単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。
				学際科目102	学際科目106	学際科目110	学際科目114 (4)					
				学際科目103	学際科目107	学際科目111 (4)	学際科目115 (4)					
				学際科目104	学際科目108	学際科目112 (4)						
				テーマ科目201	テーマ科目203	テーマ科目205	テーマ科目207					
				テーマ科目202	テーマ科目204	テーマ科目206	テーマ科目208					
			新領域科目301		新領域科目303	新領域科目305						
			新領域科目302		新領域科目304							
教養テーマセミナーⅠ (4)		教養テーマセミナーⅡ (4)	教養テーマセミナーⅢ (4)									
基礎	英語	基礎	D群	Basics of English (SW) 2a (1)		General English 2 (1)	2	General English 2は、英語D群の単位を修得できなかった場合に履修する科目です。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、各科目4単位まで履修することができます。 同一言語の選択101a・bをセットで履修してください。 各科目2単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。 各科目4単位まで履修することができます。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできません。				
				Basics of English (SW) 2b (1)								
				または Intermediate English (SW) 2a (1) Intermediate English (SW) 2b (1)								
				English Speaking a (1)					Computer Aided Instruction a (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1)		
				English Speaking b (1)					Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		
				Advanced English a					English Presentation a	Screen English a		
		Advanced English b		English Presentation b	Screen English b							
		English Language and Cultures a		English Writing a								
		English Language and Cultures b		English Writing b								
		基礎強化	英語以外の外国語	基礎強化	選択ドイツ語101 a (1)	選択スペイン語101 a (1)	選択イタリア語101 a (1)	17				
					選択ドイツ語101 b (1)	選択スペイン語101 b (1)	選択イタリア語101 b (1)					
					選択フランス語101 a (1)	選択ロシア語101 a (1)						
選択フランス語101 b (1)	選択ロシア語101 b (1)											
選択中国語101 a (1)	選択アラビア語101 a (1)											
選択中国語101 b (1)	選択アラビア語101 b (1)											
基礎強化	英語以外の外国語	基礎強化	基礎強化	ドイツ語中級201 a (1)	スペイン語中級202 a (1)	17						
				ドイツ語中級201 b (1)	スペイン語中級202 b (1)							
				ドイツ語中級202 a (1)	ロシア語中級201 a (1)							
				ドイツ語中級202 b (1)	ロシア語中級201 b (1)							
				フランス語中級201 a (1)	ロシア語中級202 a (1)							
				フランス語中級201 b (1)	ロシア語中級202 b (1)							
				フランス語中級202 a (1)	インドネシア語中級201 a (1)							
				フランス語中級202 b (1)	インドネシア語中級201 b (1)							
				中国語中級201 a (1)	インドネシア語中級202 a (1)							
				中国語中級201 b (1)	インドネシア語中級202 b (1)							
				中国語中級202 a (1)	コリア語中級201 a (1)							
				中国語中級202 b (1)	コリア語中級201 b (1)							
スペイン語中級201 a (1)	コリア語中級202 a (1)											
スペイン語中級201 b (1)	コリア語中級202 b (1)											
基礎強化	英語以外の外国語	基礎強化	基礎強化	ドイツ語中級プラス201 a	中国語中級プラス202 a	17						
				ドイツ語中級プラス201 b	中国語中級プラス202 b							
				ドイツ語中級プラス202 a	スペイン語中級プラス201 a							
				ドイツ語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 b							
				フランス語中級プラス201 a	スペイン語中級プラス202 a							
				フランス語中級プラス201 b	スペイン語中級プラス202 b							
				フランス語中級プラス202 a	コリア語中級プラス201 a							
				フランス語中級プラス202 b	コリア語中級プラス201 b							
				中国語中級プラス201 a	コリア語中級プラス202 a							
				中国語中級プラス201 b	コリア語中級プラス202 b							
				ドイツ語上級301 a	ドイツ語上級301 b			フランス語上級301 a	中国語上級301 a	中国語上級301 b		
				フランス語上級301 a	スペイン語上級301 a			ロシア語上級301 a	インドネシア語上級301 a	インドネシア語上級301 b		
ロシア語上級301 a	インドネシア語上級301 b	コリア語上級301 a	コリア語上級301 b									
世界の言語と文化(ドイツ語)	世界の言語と文化(中国語)	世界の言語と文化(ロシア語)	世界の言語と文化(コリア語)									
世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(インドネシア語)										
言語文化研究(ヨーロッパ) 1	言語文化研究(アジア) 1	言語文化研究(アメリカ)										
言語文化研究(ヨーロッパ) 2	言語文化研究(アジア) 2											
海外語学短期研修 1 (外国語)	海外語学短期研修 2 (外国語)											
海外語学中期研修 1 (外国語)	海外語学中期研修 4 (外国語)	海外語学中期研修 7 (外国語)										
海外語学中期研修 2 (外国語)	海外語学中期研修 5 (外国語)	海外語学中期研修 8 (外国語)										
海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 6 (外国語)											
保健体育系科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス (1)			1	同一種目のスポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ履修することはできません。 スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していなければ履修することができません。						
		アドバンススポーツ										
		スポーツ論叢		健康と生涯スポーツ	オリンピックとスポーツ		スポーツコーチング 人類とスポーツ					
自由選択修得要件単位						24						

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科 専門教育課程科目一覧(平成29年度入学者用)

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
必修科目	情報と社会 リテラシー演習 コンピュータとネットワーク ネットワーク情報総論 1 ネットワーク情報総論 2 デジタルデータ基礎 情報表現演習 情報分析基礎 情報分析演習 プログラミング演習 1		情報キャリアデザイン プロジェクト (4)		26		
	数学科目 線形代数	基礎解析			2	超過修得単位は、専門選択科目の単位に算入されます。	
	基礎演習	インタラクションデザイン基礎演習 (4) ソフトウェア開発基礎演習 (4) データ分析基礎演習 (4)			4	超過修得単位は、専門選択科目の単位に算入されます。	
選択必修科目		応用演習(コンテンツデザイン) (4) 応用演習(メディアプロデュース) (4) 応用演習(ネットワークシステム) (4) 応用演習(フィジカルコンピューティング) (4) 応用演習(経営情報分析) (4) 応用演習(ITビジネス) (4) 応用演習(社会情報) (4) 応用演習(情報数理) (4)			4	超過修得単位は、専門選択科目の単位に算入されます。	
必修	プログラミング演習 2 プログラミング演習 2 発展 情報英語入門					超過修得単位は、自由選択修得要件単位に算入されます。	
専門科目		企業研修 ITイノベーション史 アニメーション アプリケーションプログラミング アルゴリズムとデータ構造 1 アルゴリズムとデータ構造 2 インターネット情報システム 映像表現 オブジェクト指向技術 オペレーティングシステム 会計システム(管理会計) 会計システム(財務会計) 学習科学 環境と情報 幾何学概論 企業情報システム 寄付講座 教育とメディア グラフィックデザイン 経営学入門 1 経営学入門 2 経営分析 経済のモデル(マクロ経済学) 経済のモデル(ミクロ経済学) ゲームの理論 コンテンツマネジメント 1	コンテンツマネジメント 2 サービス情報システム 財務諸表論 1 財務諸表論 2 システムモデリング シミュレーション 社会情報 情報英語応用演習(英語表現) 情報英語応用演習(情報技術) 情報英語応用演習(情報社会) 情報英語基礎演習 情報システム開発概論 情報商品 情報数学 1 情報数学 2 情報デザイン 情報と法 情報リスク管理 情報理論 数学セミナー 数理計画法 戦略のデザイン データ解析 1 データ解析 2 データ通信	データベース 動的モデル 特殊演習 特殊講義 認知科学 ネットワークコミュニケーション ネットワークとマーケティング パソコンアーキテクチャ ビジネスゲーム ビジネスプロセスデザイン ファイナンスプランニング フィジカルコンピューティング フィジカルコンピューティング開発論 プロジェクト実施技法 マーケティング マスコミュニケーション論 マニュアルライティング マルチメディア表現技法 メディアコンテンツ制作 メディア論 モデル分析 ユーザインタフェース UNIX		76	
選択科目		Webデザイン 応用確率統計 学習環境のデザイン 計算理論 情報システム管理	政策科学 データマイニング テキスト処理 プロジェクトマネジメント 分散情報システム	卒業演習 1 卒業演習 2 卒業演習 3 卒業演習 4	40		
年間履修上限単位数 (転換・導入教育課程、 教養教育課程科目含む)	44	40	38	48			

※超過修得単位とは、卒業要件単位数を超えて修得した単位のことです。

自由選択修得要件単位	<p>a. 卒業要件単位数を超えた以下の科目</p> <p>a-1. 転換・導入教育課程科目</p> <p>a-2. 教養教育課程科目</p> <p>a-3. 専門教育課程科目における専門選択科目 *卒業要件単位数を超えた専門選択必修科目の単位は専門選択科目の単位に算入され、さらに卒業要件単位数を超えた専門選択科目の単位は自由選択修得要件単位に算入されます。</p> <p>b. 全学公開科目(12単位まで)</p> <p>c. 教職に関する科目、司書・司書教諭課程科目 *教職に関する科目、司書・司書教諭課程科目については、当該課程の学修ガイドブックを参照してください。</p>	自由選択修得要件単位 計	24
------------	---	--------------	----

- 進級の条件(1年次→2年次)：専門科目を18単位以上修得していること。うち専門必修科目を14単位以上修得していること。
- プロジェクト履修の条件： 基礎演習または応用演習のうち、1科目以上単位修得していること。
- 卒業見込証明書発行の条件： 3年次終了時に86単位以上修得していること。

卒業要件単位	124
--------	-----

2017 ネットワーク情報学部学修ガイドブック

平成29年4月1日
編集・発行 専修大学ネットワーク情報学部
〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL 044-911-7132(ダイヤルイン)

